Printed in Malaysia WU35410 [Ja]

YAMAHA

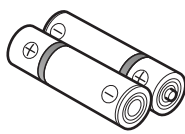
J

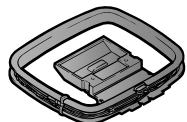
RX-V567
簡易接続・操作ガイド

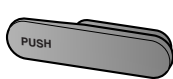
本書および取扱説明書は下記の URL から PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

付属品の確認と準備

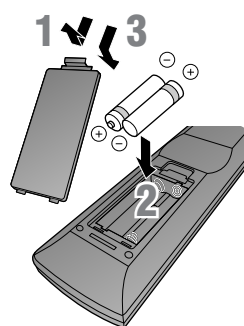
付属品の確認

同梱されていることをお確かめください。

リモコン

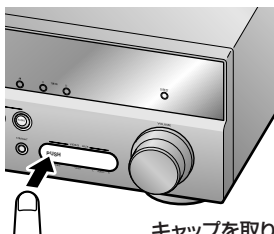
単 4 乾電池（2 本）

AM ループアンテナ

FM 簡易アンテナ

前面入力端子保護キャップ

YPAO マイク

リモコンの準備

付属の単 4 乾電池（2 本）を、プラス / マイナスの表示に合わせて入れます。

前面入力端子保護用キャップの取り付け / 取り外し

フロントパネルの VIDEO AUX 端子を使わない場合は、ホコリなどの汚れを防ぐために付属の前面入力端子保護用キャップを取りつけてください。取り付けたキャップは、キャップ左側を押して外すことができます。

キャップを取り外す

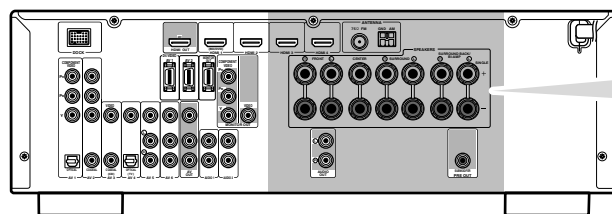
1 スピーカー / サブウーファーを接続する

5.1 ～ 7.1 チャンネルのスピーカー構成の場合、次のように設置・接続してください。
接続するスピーカーの数に合わせてスピーカーケーブルを用意してください。

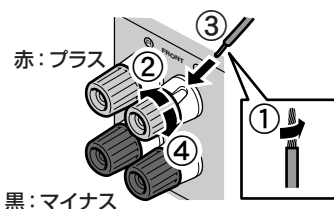
- 本書に記載している以外の接続方法については、取扱説明書の「スピーカー / サブウーファーを接続する」（☞ p.11）をご覧ください。

ご注意

- スピーカーを接続する場合は、本機の電源プラグをコンセントから外してください。
- スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、本機の金属部に触れたりしないようにしてください。本機やスピーカーが故障する原因となります。スピーカーケーブルがショートしている場合は、本機の電源をオンにしたときに本体のディスプレイに「CHECK SP WIRES!」と表示されます。
- スピーカーはインピーダンスが 6 Ω以上のものをお使いください。

リアパネル

スピーカー / サブウーファーの接続

1 フロントスピーカーを本機の FRONT 端子に接続する。

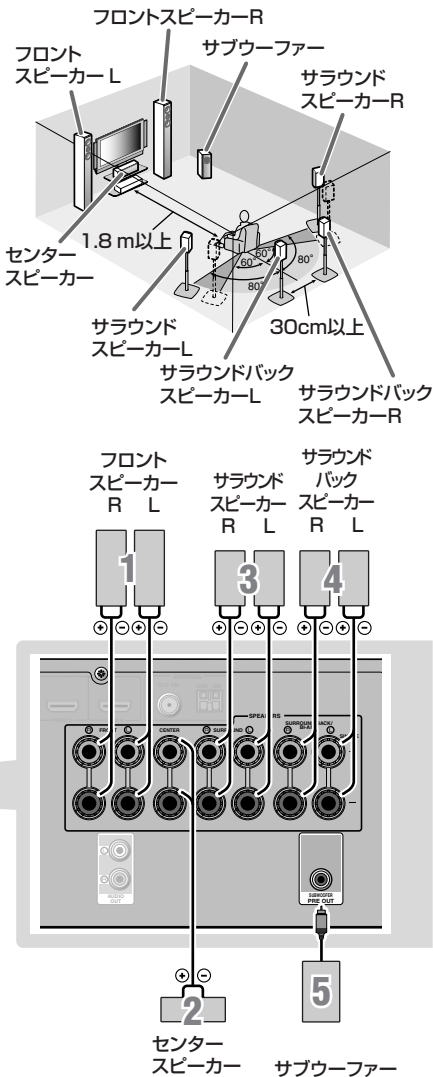
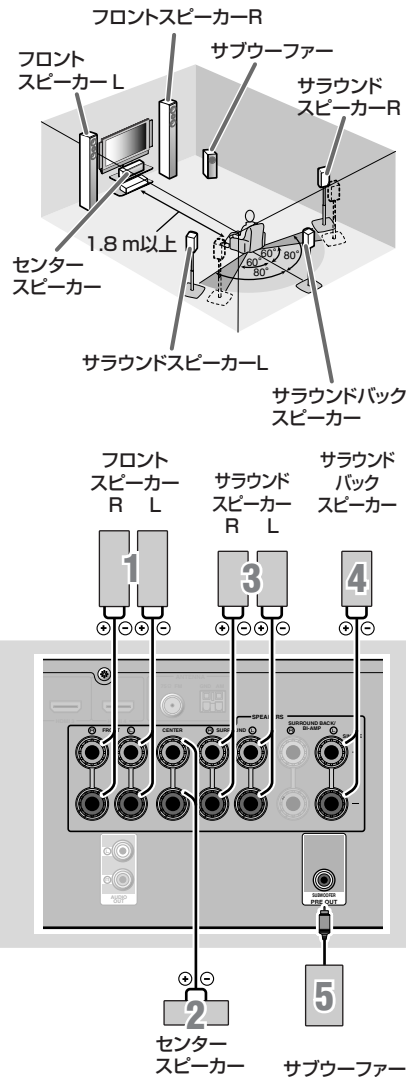
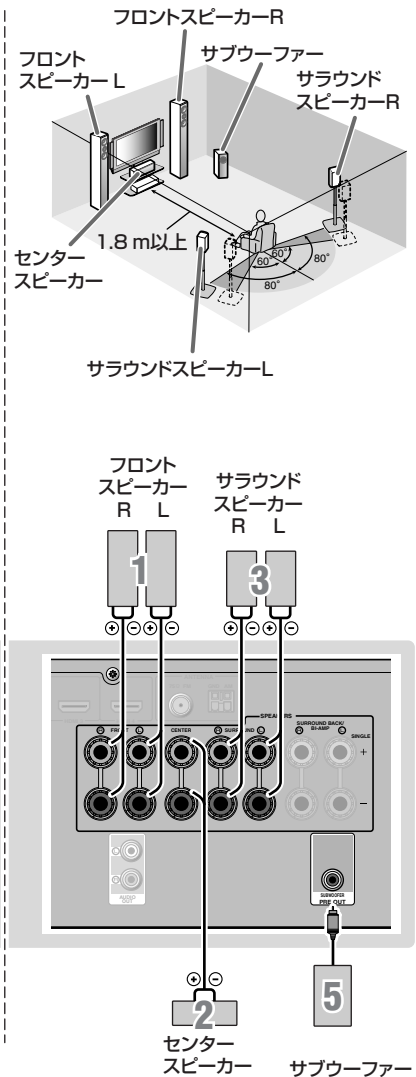
一般的にスピーカーケーブルは、平行した 2 本の絶縁ケーブルです。ケーブルのうちの 1 本は極性を判別するために異なった色またはラインが入っています。異なった色の（またはラインの入っている、など）ケーブルを本機とスピーカーの「+」（プラス、赤）へ、もう片方のケーブルを「−」（マイナス、黒）へ接続してください。

① スピーカーケーブル先端の絶縁部（被覆）を 10mm ほどはがし、ショートしないように芯線をしっかりとよじる。

② スピーカー端子をゆるめる。

③ 端子側面のすき間にスピーカーケーブルの芯線を差し込む。

④ 端子を締め付ける。

YAMAHA CORPORATION

■ 7.1 チャンネルシステムの場合
（スピーカー × 7 + サブウーファー）

■ 6.1 チャンネルシステムの場合
（スピーカー × 6 + サブウーファー）

■ 5.1 チャンネルシステムの場合
（スピーカー × 5 + サブウーファー）

＊ 上のイラストの番号は、「スピーカー / サブウーファーの接続」の手順を示しています。

2 センタースピーカーを本機の CENTER 端子に接続する。

手順1と同様にスピーカーケーブルを接続します。

3 サラウンドスピーカーを本機の SURROUND 端子に接続する。

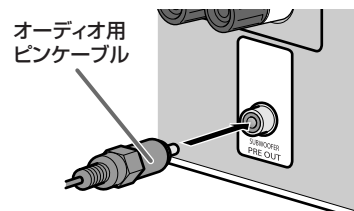
手順1と同様にスピーカーケーブルを接続します。

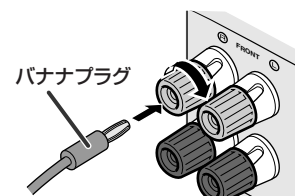
（7.1 チャンネルまたは 6.1 チャンネルシステムの場合のみ）

4 サラウンドバックスピーカーを本機の SURROUND BACK 端子に接続する。

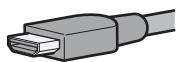
手順1と同様にスピーカーケーブルを接続します。

- 6.1 チャンネルシステムの場合は SURROUND BACK L SINGLE 端子に接続します。
- 5.1 チャンネルシステムの場合は接続しません。

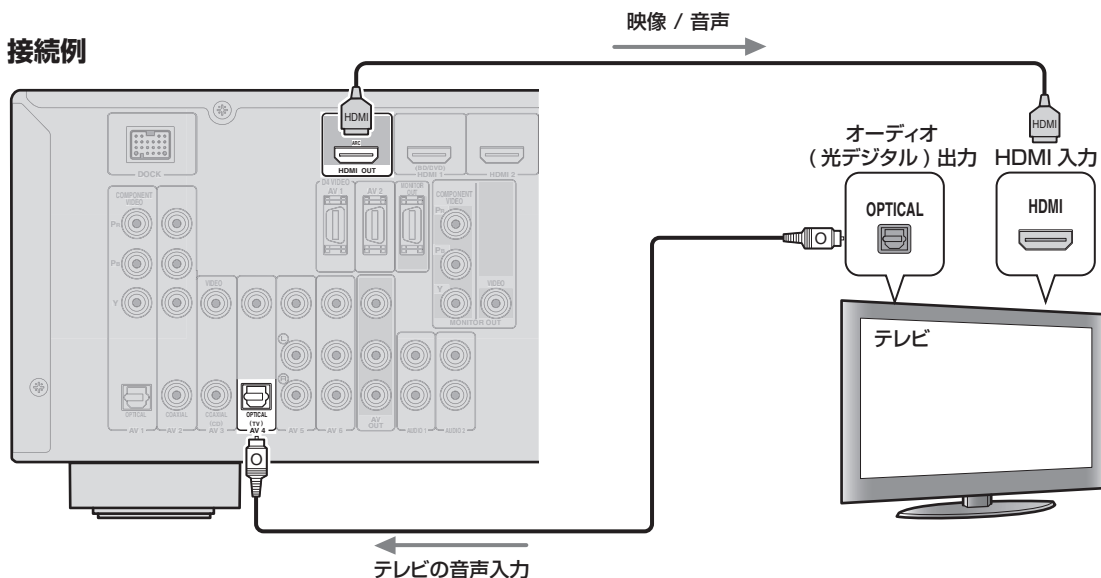
5 サブウーファーを本機の SUBWOOFER 端子に接続する。

バナナプラグを使って接続するには

スピーカー端子をしっかりと締めつけ、
端子の先端にバナナプラグを差し込む。

② テレビを接続する

HDMI に対応したテレビ

使用するケーブル

HDMI ケーブル :　　デジタル音声用光ファイバーケーブル :

ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、
キャップを取り外してからご使用ください。

接続例

＊ 上記のように接続した場合、**SCENE** キーの「TV」を押すだけでテレビの音声が再生できます。(工場出荷時)

HDMI に対応したテレビ（Audio Return Channel 機能付き）

- HDMI 入力対応のテレビをご使用しており、テレビ側が Audio Return Channel 機能に対応しているときは、HDMI ケーブル 1 本で、テレビへの映像 / 音声出力、本機への音声入力の両方が実現できます。詳しい設定については、取扱説明書の「テレビの音声を本機で聴く」(☞p.14) をご覧ください。
- Audio Return Channel 機能に対応しているときは、音声入力の接続は不要です。

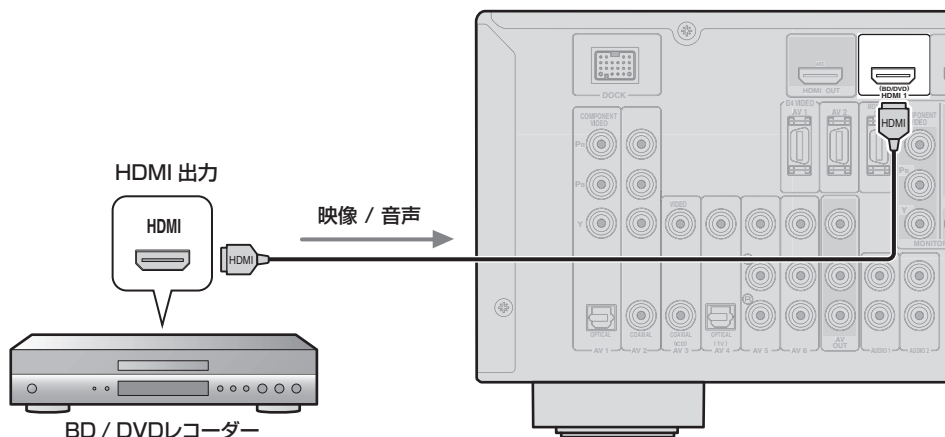
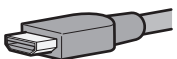
その他のテレビ

- HDMI 以外の出力端子を使用した接続については取扱説明書の「テレビを接続する」(☞p.13) をご覧ください。

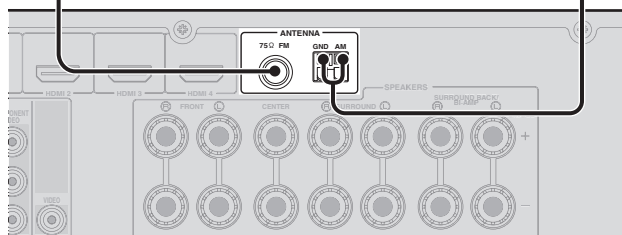
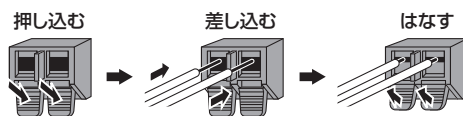
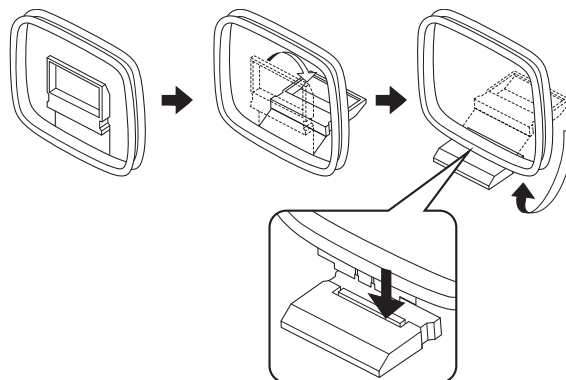
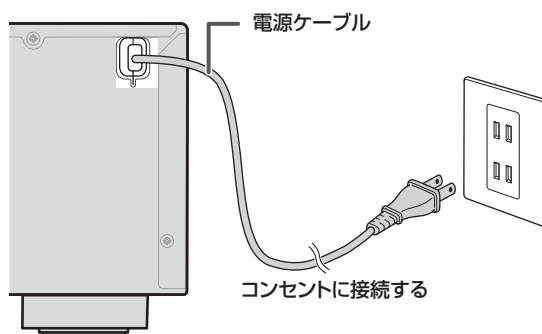
③ BD / DVD レコーダーなどを接続する

HDMI に対応した BD / DVD レコーダー

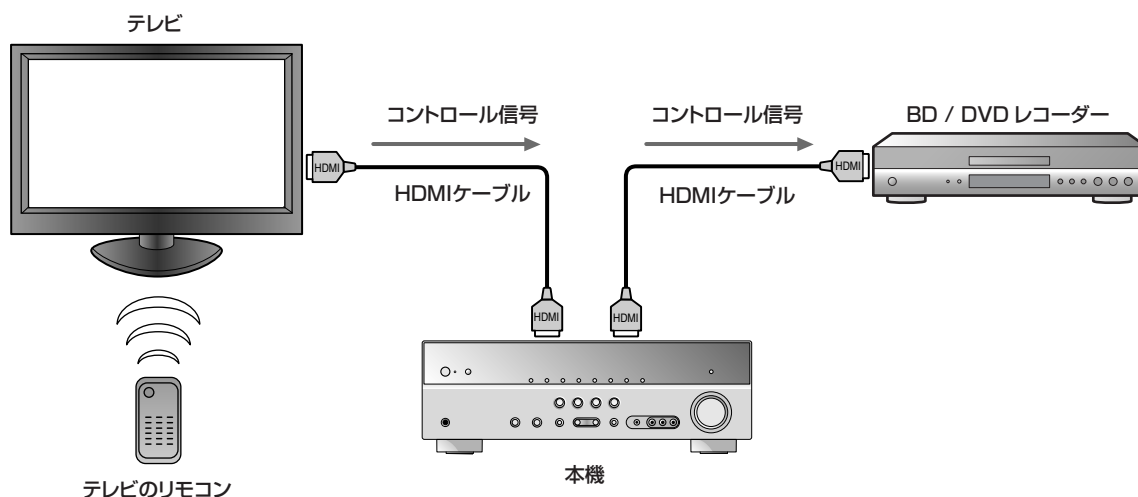
使用するケーブル

HDMI ケーブル :

その他の機器

HDMI 以外の接続方法については取扱説明書の「BD / DVD プレーヤー (レコーダー) などの再生機器を接続する」(☞ p.17) をご覧ください。

4 FM/AM アンテナを接続する

5 電源ケーブルをコンセントに接続する

⑥ テレビのリモコンで本機を操作する

HDMI コントロール機能対応のテレビと HDMI ケーブルで接続すれば、テレビのリモコンで下記の操作ができます。

- 電源操作（スタンバイ / オン）の連動
- 音量の調節（大 / 小、消音）
- 音声を出力する機器（テレビまたは本機）の切り替え

1 HDMI コントロール機能に対応したテレビ、BD / DVD レコーダーと本機を HDMI ケーブルで接続する。

2 テレビおよび本機の電源をオンにする。

外部機器側の操作は、外部機器の取扱説明書をご覧ください。

3 テレビ、BD / DVD レコーダーおよび本機の HDMI コントロール機能を有効にする。

本　機	セットアップメニューの「Control」（HDMI Setup）が「On」になっていることを確認してください。 **工場出荷時は On になっています。** 「Control」についての詳しい説明は取扱説明書の「HDMI の設定」（☞ p.42）をご覧ください。
テレビおよび BD / DVD レコーダー	お使いの機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

4 テレビの電源をオフにする。

テレビの電源に連動して、他の HDMI コントロール対応機器の電源がオフになります。連動しない場合は、手動で電源をオフにしてください。

5 テレビの電源をオンにする。

テレビの電源に連動して、本機の電源がオンになったことを確認してください。オフになっている場合は手動でオンにしてください。

6 テレビの入力設定を、本機と接続した入力（例：[HDMI1] など）に切り替える。

7 HDMI コントロール機能対応の BD / DVD レコーダーを本機に接続した場合は、それらの機器の電源をオンにする。

本　機	BD / DVD レコーダーを接続したインプットが選ばれていることを確認してください。他のインプットが選ばれた場合は、一度手動で入力を選択してください。
テレビおよび BD /DVD レコーダー	テレビにレコーダーの映像が正しく映っていることを確認してください。

ここまでの操作は、2 回目以降必要ありません。

8 テレビのリモコンを使って下記の操作をして、本機が正しく連動しているか確認する。

- 電源オン / オフ
- 音量の調節
- 音声出力機器の切り替え

本機とテレビの電源操作が連動しない場合は、両方の機器で HDMI コントロール機能がオンになっているかご確認ください。

正常に連動しない場合でも、外部機器の電源のオン / オフ操作や、電源プラグをコンセントに接続し直して電源を入れることで、改善されることがあります。

電源オンのみ連動しない場合には、テレビ側で優先される音声出力の設定をご確認ください。

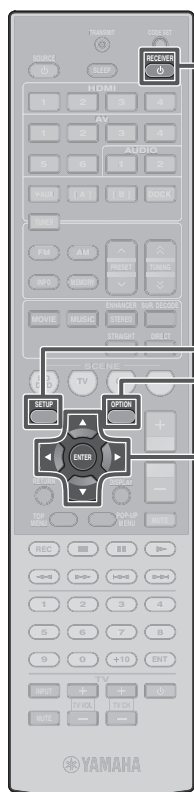
- テレビや BD / DVD レコーダーに付属する取扱説明書の下記内容もあわせてご覧ください。
  - テレビ側の HDMI コントロール機能を有効にする
  - AV アンプ（レシーバー）との接続方法に従って、本機とテレビを接続する
- HDMI コントロール機能をより有効に利用するために、テレビと BD / DVD レコーダーは、なるべく同一メーカーのものを使うことをおすすめします。
- 各社の HDMI コントロール機能の対応状況については、以下のウェブサイトをご覧ください。
  http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/hdmi_cec/index.html

⑦ スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）

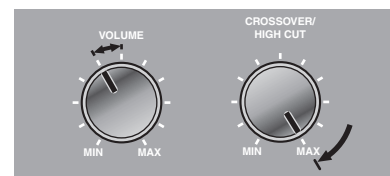
接続が終わったら、スピーカーの有無、音量バランス、音色を調整して最適な音響が得られるよう調整します。本機にはスピーカーの各種設定を自動で最適化する YPAO (Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer) が搭載されており、簡単な操作で各種設定を最適化できます。

YPAO をご使用になる場合は、次のことにご注意ください。

- テストトーンは大きな音量で出力されます。ご近所への迷惑とならないよう夜間の使用は控えてください。
- YPAO を実行する前に、テレビや各スピーカーが本機に正しく接続されているかご確認ください。

YPAO は、テレビ画面に表示される画面（オンスクリーンディスプレイ / OSD）を見ながら操作できます。

1 テレビの電源をオンにし、テレビの入力を本機からの映像に切り替える。

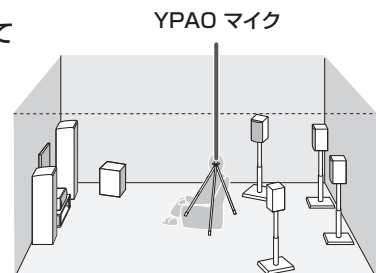
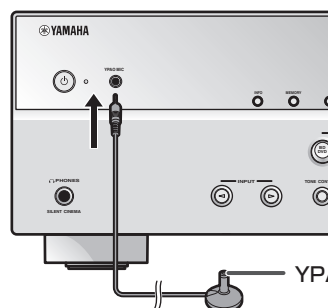
2 サブウーファーの電源をオンにする。

クロスオーバー周波数を調整できるサブウーファーをご使用の場合は、周波数を最大に設定してください。

サブウーファーの例

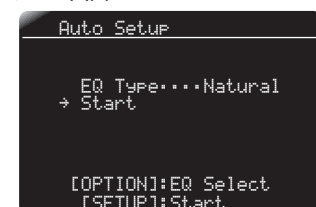
3 本機からヘッドホンが取り外されていることを確認する。

4 RECEIVER ⏻ を押して、本機の電源をオンにする。

5 付属の YPAO マイクを耳の高さにあわせて視聴位置に置く。

マイクを設置する際は、高さを調節可能な器具（三脚など）をマイクスタンドとして使うことをおすすめします。三脚を使って設置した場合は、三脚のネジを使ってマイクを固定してください。

6 フロントパネルの YPAO MIC 端子に YPAO マイクを接続する。

フロントパネルディスプレイに「MIC ON. View OSD」と表示され、テレビに右の画面が表示されます

フロントパネルディスプレイ

テレビ画面

- 画面が表示されない場合、テレビの入力切り替えを確認してください。
- 測定前に YPAO マイクを取り外すと、操作を中止して YPAO を終了できます。
- 他の操作をして画面が切り替わった場合、YPAO マイクを接続し直してください。

7 必要に応じて **OPTION** を繰り返し押し、測定後の音響特性（EQ Type）を選ぶ。

通常は Natural（初期設定）から変更する必要はありません。必要に応じて変更する場合は取扱説明書の「スピーカー設定の音響特性」（☞p.20）をご覧ください。

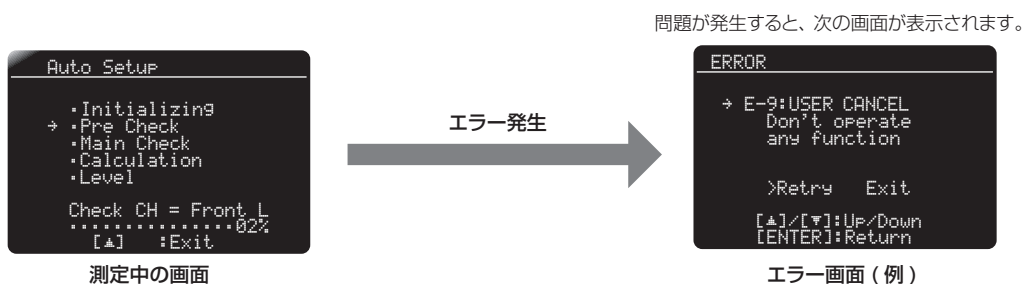
これで準備は完了です。測定を実行する際は、より正確な測定結果を得るために次のことにご注意ください。

- 小さなお子様がいらっしゃる場合は、テストトーンで驚かないよう十分にご配慮ください。
- 測定には約 3 分かかります。測定中はリスニングルームをできるだけ静かに保ってください。
- 測定中は、スピーカーと YPAO マイクの間を遮らないようにしてリスニングルームの隅で待機するか、部屋から退出してください。

8 **SETUP** を押して測定を開始する。

測定を中止する場合は、**カーソル** △ を押してください。再度測定する場合は、「Retry」が選択されていることを確認し、**ENTER** を押してください。

問題が発生すると、次の画面が表示されます。

測定中の画面　　エラー画面 (例)

問題が発生した場合は、測定中または測定後にエラーメッセージ（E-1 など）や警告メッセージ（W-1 など）が表示されます。
取扱説明書を参照して問題を解消したあと、再度 YPAO を実行してください。

取扱説明書の「測定中にエラーメッセージが表示された場合」、「測定後に警告メッセージが表示された場合」(☞ p.21) をご覧ください。

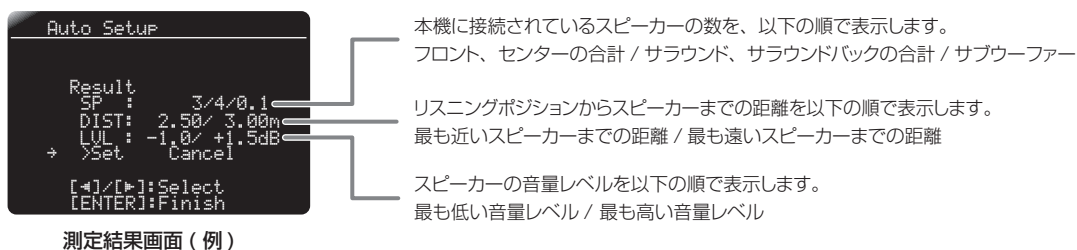
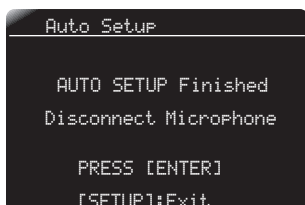
正常終了

問題なく測定が終了すると、次の画面が表示されます。

測定結果画面 (例)

本機に接続されているスピーカーの数を、以下の順で表示します。
フロント、センターの合計 / サラウンド、サラウンドバックの合計 / サブウーファー

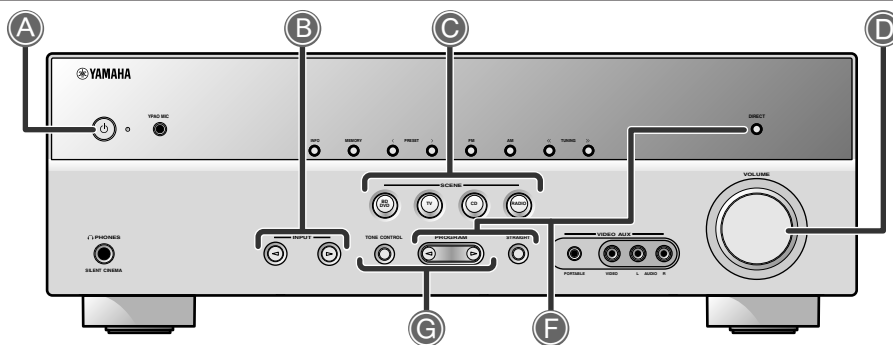
リスニングポジションからスピーカーまでの距離を以下の順で表示します。
最も近いスピーカーまでの距離 / 最も遠いスピーカーまでの距離

スピーカーの音量レベルを以下の順で表示します。
最も低い音量レベル / 最も高い音量レベル

9 測定結果画面で「Set」を選び、**ENTER** を押して測定結果を反映する。

測定結果を反映したくない場合は、手順 8 の画面が表示されている間に**カーソル** ▷ を押して「Cancel」を選び、**ENTER** を押してください。再度YPAOを行う場合は、YPAOマイクを本機から抜き、手順 6 からやり直してください。

10 YPAO マイクを取り外す。

YPAO が自動で終了します。

YPAO マイクは熱に弱いため、測定が終了したら高温になる場所（AV 機器の上など）や直射日光が当たる場所を避けて保管してください。

基本操作

Ⓐ 電源のオン / スタンバイを切り替える

キーを押すたびに電源のオン / スタンバイが切り替わります。

Ⓑ 視聴するインプットを選ぶ

選択したインプットの名前がフロントパネルディスプレイに表示されます。

Ⓒ シーンを切り替える

キー操作 1 つでインプットや音場プログラムなどを切り替えます。

シーン	インプット	音場プログラム
BD/DVD	HDMI 1	Straight
TV	AV4	Straight
CD	AV3	Straight
RADIO	TUNER	7ch Enhancer

- 電源がスタンバイのとき SCENE キーのいずれか 1 つを押すと、電源オンからインプット / 音場プログラムの切り替えまでを一括して操作できます。

Ⓓ 音量を調節する

現在の音量がフロントパネルディスプレイに表示されます。

Volume -18.5dB

Ⓔ 消音（ミュート）する

ミュート中はフロントパネルの MUTE インジケーターが点滅します。

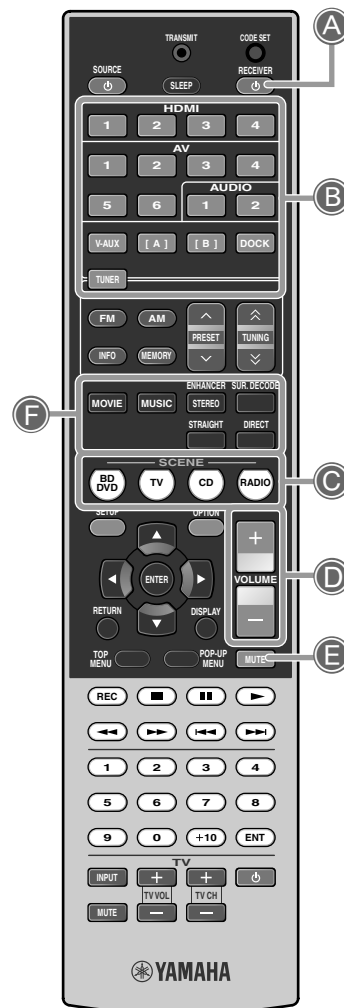
Ⓕ 音場効果やサラウンドデコーダーなどを選ぶ

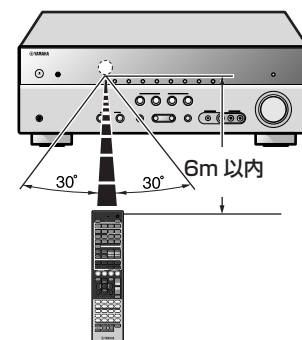
フロントパネル	リモコン	内容
PROGRAM	MOVIE	映画やドラマ、スポーツなどの鑑賞に適した音場プログラムを選びます。
	MUSIC	音楽鑑賞に適した音場プログラムを選びます。
	ENHANCER STEREO	ステレオ再生または圧縮オーディオに適した音場プログラムを選びます。
	SUR. DECODE	Dolby Pro Logic II などのサラウンドデコーダーを選びます。
STRAIGHT	STRAIGHT	音場効果をかけずに再生する、ストレートデコードモードに切り替えます。
DIRECT	DIRECT	音声を忠実に再生する、ダイレクトモードに切り替えます。

Ⓖ 高音 / 低音を調整する（トーンコントロール）

1 TONE CONTROL を押して「Treble」または「Bass」を選ぶ。

2 PROGRAM ◁ / ▷ を押して設定値を増減させる。

- スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンを接続した状態で操作すれば、ヘッドホン用のトーンコントロールが調節できます。
- 音色を極端なバランスに調節した場合、音のつながりが悪くなることがあります。

本体のリモコン信号受光部に向け、以下の範囲内で操作してください。

J

RX-V567

AV レシーバー

取扱説明書

この製品には本書のほかに「簡易接続・操作ガイド」が付属しています。
はじめに「簡易接続・操作ガイド」をご覧ください。
本書の「簡易ガイド」表記は、「簡易接続・操作ガイド」への参照を表します。

本書および「簡易接続・操作ガイド」は
下記の URL から PDF 版をダウンロードできます。
http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/

ヤマハ製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

■本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。

■保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

必ず実行

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

プラグを抜く

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

禁止

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ず実行

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

本機を下記の場所には設置しない。

● 浴室・台所・海岸・水辺
● 加湿器を過度にきかせた部屋
● 雨や雪、水がかかるところ

水の混入により、火災や感電の原因になります。

放熱のため本機を設置する際には:

● 布やテーブルクロスをかけない。
● じゅうたん・カーペットの上には設置しない。
● 仰向けや横倒しには設置しない。
● 通気性の悪い狭いところへは押し込まない。
(本機の周囲に左右20cm、上30cm、背面20cm以上のスペースを確保する。)

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

使用上のご注意

放熱用の通風孔、パネルのすき間から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

お手入れ

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

注意

電源/電源コード

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示(プラス＋とマイナス－)に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

禁止

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

禁止

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所(暖房機のそばなど)には設置しない。
本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

禁止

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

必ず実行

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。
本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

禁止

他の電気製品を本機の上に置かない。
本機の上部は高温になります。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

必ず実行

屋外アンテナ工事は販売店に依頼する。
工事には、技術と経験が必要です。

移動

プラグを抜く

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上のご注意

必ず実行

再生を始める前には、アンプの音量(ボリューム)を最小にする。
突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

禁止

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

禁止

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。

注意

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。
正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

禁止

業務用機器とは接続しない。
デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

お手入れ

必ず実行

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。
感電の原因になります。

禁止

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

注意

年に一度くらいは内部の掃除を販売店に依頼する。
ほこりがたまったまま使用を続けると、火災や故障の原因になります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第 3-2 部：限度値－高調波電流発生限度値（1 相当たりの入力電流が 20A 以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

目次

本機の特長

本機の特長とできること

本書について
- 本書は製品の生産に先がけて作成されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。
- 「④**HDMI1**」（例）などの表記は、リモコンキーの名称を表しています。それぞれのキーの場所については、本書の**「リモコン」**（☞p.10）をご覧ください。
- 「**1**」などの表示は参考情報の参照を表します。対応する番号の説明をご覧ください。
- 「☞」は、関連情報が記載されているページを表します。
- 「簡易ガイド」は、簡易接続・操作ガイドへの参照を表します。

各部の名称

フロントパネル

① ⏻（電源）キー
電源のオン / スタンバイを切り替えます。

② HDMI スルー /iPod チャージインジケーター
本機がスタンバイのとき、下記のいずれかの動作をすると点灯します。
- スタンバイスルー機能（☞p.42）をオンにしている場合。💡1
- iPod スタンバイチャージ機能（☞p.32）をオンにして、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックにセットした iPod/iPhone を充電している場合。

HDMI コントロール機能（☞p.42）をオンにするとスタンバイスルー機能が自動でオンになり、スタンバイ時にインジケーターが点灯します。

③ YPAO MIC（YPAO マイク）端子
付属の YPAO マイクを接続して、スピーカー設定を自動で最適化します（☞p.20、簡易ガイド）。

④ INFO（インフォ）キー
フロントパネルディスプレイに表示する情報を切り替えます（☞p.9）。

⑤ MEMORY（メモリー）キー
FM/AM放送局をプリセット局として登録します（☞p.28）。💡2

⑥ PRESET ＜ / ＞（プリセット）キー
プリセットした FM/AM 放送局を選びます（☞p.29）。💡2

⑦ FM キー
FM/AM チューナーのバンドを FM に切り替えます（☞p.27）。💡2

⑧ AM キー
FM/AM チューナーのバンドを AM に切り替えます（☞p.27）。💡2

⑨ TUNING ≪ / ≫（チューニング）キー
FM/AM チューナーの周波数を増減させます（☞p.27）。💡2

⑩ フロントパネルディスプレイ
本機の各種情報が表示されます（☞p.9）。

⑪ DIRECT（ダイレクト）キー
本機をダイレクトモードに切り替えます（☞p.25）。

⑫ PHONES（フォーンズ）端子
ヘッドホンを接続します。音場効果をかけて再生しているときは、ヘッドホンの音声にも音場効果がかかります。

⑬ INPUT ◁ / ▷（インプット）キー
再生するインプットを選びます。左右のキーの一方を繰り返し押すと、インプットが順番に変わります。

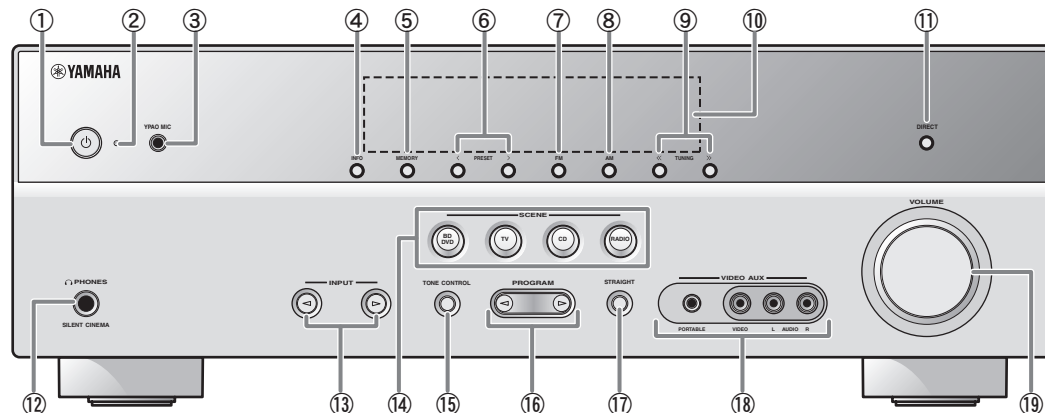
⑭ SCENE（シーン）キー
ボタン 1 つで登録したインプットと音場プログラムに切り替えます（☞p.24）。電源がスタンバイのときは、このキーを押して電源オン、インプット選択、音場プログラム切り替えまでを一括操作できます。

⑮ TONE CONTROL（トーンコントロール）キー
スピーカー / ヘッドホン出力の高音 / 低音を調節します。
ヘッドホンを接続している場合はヘッドホンの高音 / 低音調節、ヘッドホンを接続していない場合はスピーカーの高音 / 低音を調節できます（☞p.23）。

⑯ PROGRAM ◁ / ▷（プログラム）キー
使用する音場効果（音場プログラム）やサラウンドデコーダーを切り替えます（☞p.24）。左右のキーの一方を繰り返し押すと、音場プログラムが順番に変わります。

⑰ STRAIGHT（ストレート）キー
音場プログラムをストレートデコードモードに切り替えます（☞p.25）。

⑱ VIDEO AUX（ビデオ AUX）端子
ビデオカメラやゲーム機、ポータブル音楽プレーヤーなどを一時的に接続できます。
使用しない場合はホコリなどの汚れを防ぐために、付属の前面入力端子保護用キャップを取りつけてください（☞簡易ガイド）。

⑲ VOLUME（ボリューム）
音量を調節します。

💡 **1：**スタンバイスルー機能がオンの場合、スタンバイ中にリモコンの 4 **HDMI1-4** を使って、テレビに出力する HDMI インプットを選択できます。
HDMI インプットが切り替わると、HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが 2 回点滅します。

💡 **2：**チューナーインプットを選んだときに使用できます。

リアパネル

① DOCK（ドック）端子
別売のヤマハ製 iPod ユニバーサルドック（YDS-12 など）や Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（YBA-10）を接続します（☞p.30、p.33）。

② HDMI OUT（HDMI アウト）端子
HDMI 入力対応のテレビと接続し、映像 / 音声を出力します（☞p.13、簡易ガイド）。Audio Return Channel 機能（☞p.14）を使用したときは、この端子からテレビの音声が入力されます。

③ HDMI1-4 端子
HDMI 出力対応の外部機器を接続し、映像 / 音声を入力します（☞p.17、簡易ガイド）。

④ ANTENNA（アンテナ）端子
FM アンテナと AM アンテナを接続します。

⑤ AV1-6 端子
映像 / 音声出力を持つ外部機器を接続し、映像 / 音声を入力します（☞p.17）。

⑥ AV OUT（AV アウト）端子
AV5-6やAUDIO1-2などのアナログインプットを選んだ際、入力された映像 / 音声を外部へ出力します（☞p.19）。

⑦ AUDIO1-2（オーディオ 1-2）端子
アナログ音声出力を持つ外部機器と接続し、音声を入力します（☞p.17）。

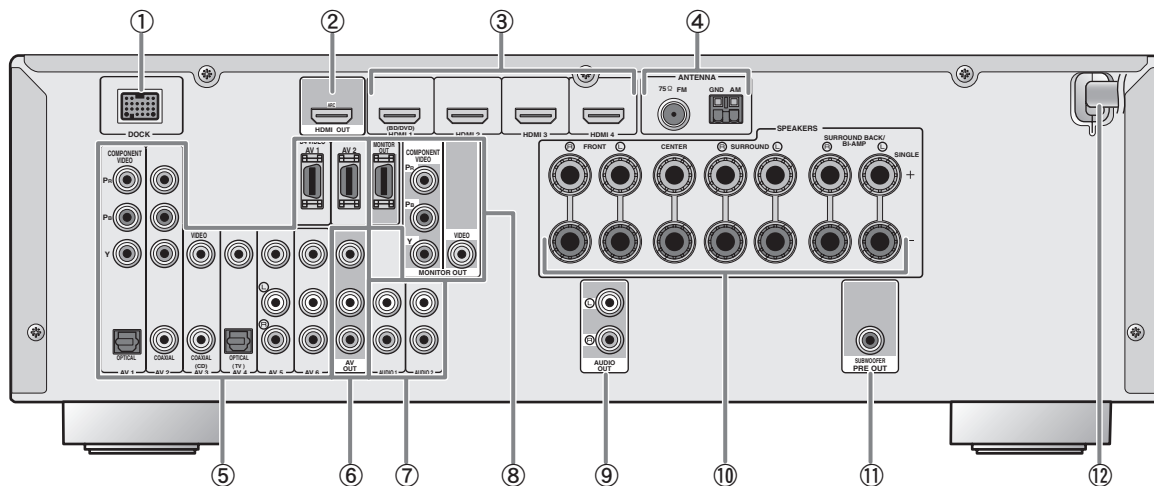
⑧ MONITOR OUT（モニターアウト）端子

D4 VIDEO 端子	：D 端子入力対応のテレビと接続し、映像を出力します（☞p.17）。
COMPONENT VIDEO 端子（コンポーネントビデオ）	：コンポーネントビデオ入力対応のテレビと接続し、3 本のケーブルを使って映像を出力します（☞p.17）。
VIDEO 端子	：ビデオ入力対応のテレビと接続し、映像を出力します（☞p.17）。

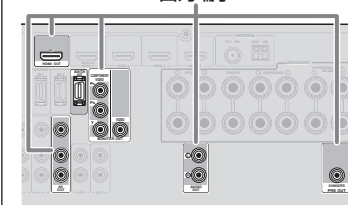
⑨ AUDIO OUT（オーディオアウト）端子
AV5-6やAUDIO1-2などのアナログインプットを選んだ際、入力された音声を外部へ出力します（☞p.19）。

⑩ SPEAKERS（スピーカー）端子
フロント、センター、サラウンド、サラウンドバックの各スピーカーを接続します（☞ 簡易ガイド）。

⑪ SUBWOOFER（サブウーファー）端子
アンプ内蔵のサブウーファーを接続します（☞ 簡易ガイド）。

⑫ 電源ケーブル
電源ケーブルのプラグをコンセントに接続します。

入出力端子の見分け方

映像/音声出力端子の周辺は、誤接続を防ぐために白くマークされています。テレビや外部機器への映像/音声出力はこれらの端子をご使用ください。

出力端子

フロントパネルディスプレイ

① **HDMI インジケーター**
HDMI インプット 1-4 のいずれかを選んだ際、正常に HDMI 信号が入力されると点灯します。

② **CINEMA DSP（シネマ DSP）インジケーター**
シネマ DSP 技術を使った音場効果を選ぶと点灯します。

③ **チューナーインジケーター**
FM/AM 放送を受信すると「TUNED」が点灯します。ステレオで受信しているときは「STEREO」が点灯します。

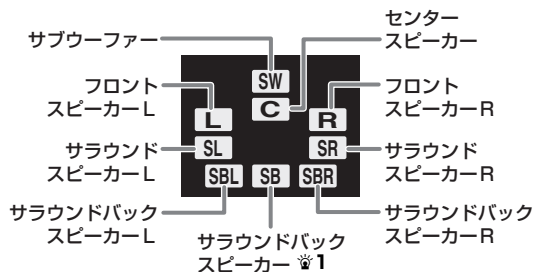
④ **SLEEP（スリープ）インジケーター**
スリープタイマー（☞p.10）が動作すると点灯します。

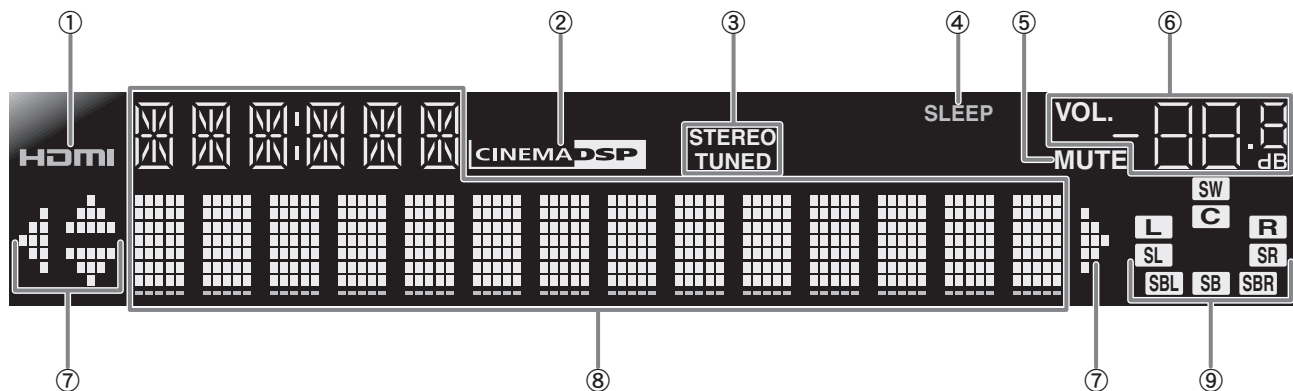
⑤ **MUTE（ミュート）インジケーター**
本機を消音すると点滅します。

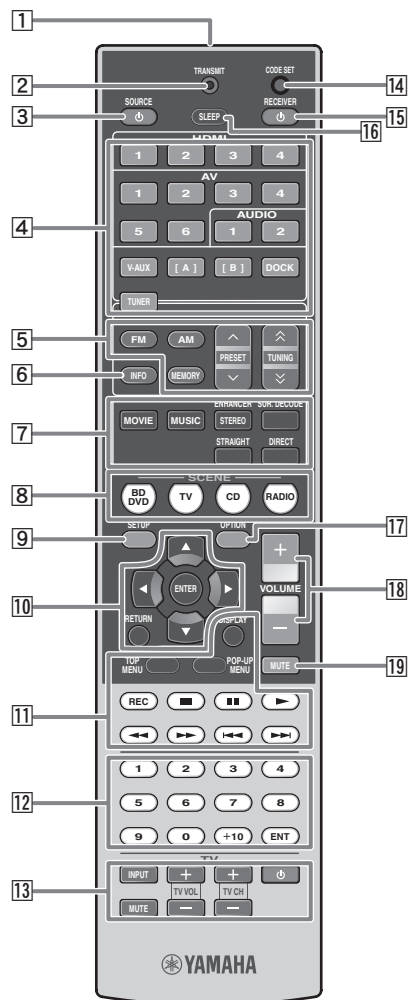
⑥ **VOLUME（ボリューム）インジケーター**
現在の音量を表示します。

⑦ **カーソルインジケーター**
リモコンの ⑩**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷** を操作可能な場合に、キーに対応するインジケーターが点灯します。

⑧ **マルチインフォメーションディスプレイ**
設定値や設定メニューなど各種情報が表示されます。

⑨ **スピーカーインジケーター**
音声を出力しているスピーカー端子を表示します。

● フロントパネルディスプレイの表示を切り替えるには

フロントパネルディスプレイには、選択中のインプット名以外に、音場プログラム名やサラウンドデコーダー名などを表示できます。表示を切り替えるには、リモコンの ⑥**INFO**（またはフロントパネルの INFO）を繰り返し押します。キーを押すたびにインプット名 → 音場プログラム（DSP プログラム）→ サラウンドデコーダーの順に表示が切り替わります。2

1：「SB」は 6.1 チャンネル構成で使用しているときにのみ表示されます。
2：FM/AM チューナーの使用中は、インプット名の代わりに FM/AM 周波数が表示されます。

リモコン

1 **リモコン信号送信部**
赤外線を送信します。

2 **TRANSMIT**
リモコンから信号を送信したときに点灯します。

3 **SOURCE ⏻（ソース電源）キー**
外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

4 **入力ソース選択キー**
本機で再生するインプットを選びます。

HDMI1-4 キー	：HDMI1-4 端子
AV1-6 キー	：AV1-6 端子
AUDIO1-2 キー	：AUDIO1-2 端子
V-AUX キー	：フロントパネルの VIDEO AUX 端子
[A] キー	：インプットは変更せずに、11**外部機器操作キー**を使って操作する外部機器を変更します。💡**1**
[B] キー	：本機では使用しません。
DOCK キー	：DOCK 端子に接続したヤマハ製の iPod ユニバーサルドックまたは Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選択します。
TUNER キー	：FM/AM チューナーを選択します。

5 **チューナーキー**
FM/AM チューナーを操作します。これらのキーはチューナーインプットのときに使用できます。

FM キー AM キー	：FM/AM チューナーのバンドを切り替えます。
MEMORY キー	：放送局をプリセット登録します。
PRESET ︿ / ﹀ キー	：登録されたプリセット局を呼び出します。
TUNING ︽ / ︾ キー	：FM/AM チューナーの周波数を増減させます。

6 **INFO（インフォ）キー**
フロントパネルディスプレイに表示する情報（選択中のインプット名、音場プログラム、サラウンドデコーダー、FM/AM チューナーの周波数など）を切り替えます。

7 **音場選択キー**
使用する音場効果（音場プログラム）やサラウンドデコーダーなどを選択します（☞p.24）。

8 **SCENE（シーン）キー**
ボタン 1 つでインプットと音場プログラムを切り替えます（☞p.24）。本機の電源がスタンバイのときは、このキーを押して、電源オン、インプット選択、音場プログラム切り替えまでを一括操作できます。

9 **SETUP（セットアップ）キー**
セットアップメニュー（☞p.37）を表示します。

10 **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ キー、ENTER（エンター）キー、RETURN（リターン）キー**

カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ キー	：設定メニューなどを表示した際に、メニュー項目を選択したり、設定値を変更します。
ENTER キー	：選択された項目を決定します。
RETURN キー	：設定メニューを表示した際、1 つ手前の表示に戻したり、メニュー表示を終了します。

11 **外部機器操作キー**
外部機器の録画/再生、メニュー表示などを操作します（☞p.47）。

12 **数字キー**
数値を入力します。

13 **TV 操作キー**
テレビなどの機器を操作します。

14 **CODE SET（コードセット）キー**
リモコンに外部機器操作用のコード（リモコンコード）を登録します（☞p.48）。

15 **RECEIVER ⏻（レシーバー電源）キー**
本機のオン / スタンバイを切り替えます。

16 **SLEEP（スリープ）キー**
指定した時間が経過すると自動でスタンバイになるよう設定します（スリープタイマー）。キーを繰り返し押すと、スタンバイまでの時間を設定できます。

Sleep 120min. → Sleep 90min. → Sleep 60min. → Sleep 30min. → Sleep Off → Sleep 120min.

スリープタイマーの作動中は、フロントパネルディスプレイの SLEEP（スリープ）インジケーターが点灯します。

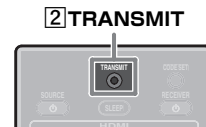
17 **OPTION（オプション）キー**
オプションメニュー（☞p.35）を表示します。

18 **VOLUME（ボリューム）+/– キー**
音量を調節します（☞p.23）。

19 **MUTE（ミュート）キー**
音声出力の消音 / 消音解除を切り替えます（☞p.23）。

次の症状が現れた場合は、新しい乾電池に交換してください。

- リモコンの操作範囲がせまくなった。
- 2**TRANSMIT** が光らない、または光らなくなった。

2TRANSMIT

💡 **1：** 本機のリモコンは、インプットごとに 11**外部機器操作キー**などを使って登録した機器を操作できます。外部機器を操作するには、あらかじめ各インプットにリモコンコードを登録する必要があります（☞p.47）。

接続する

スピーカーの配置、スピーカーや外部機器との基本的な接続については**「簡易接続・操作ガイド」**をご覧ください。本書では応用接続 / 設定を説明します。

スピーカー / サブウーファーを接続する

本機は、さまざまな音場効果やサラウンドデコーダーを使って、著名なコンサートホールの包みこまれるような響きや映画館の迫力と臨場感を再現できます。これらの効果は、使用環境に合わせて適切にスピーカーを設置 / 接続することで実現されます。

チャンネルと機能

▌フロントスピーカー L/R

再生するソースのフロントチャンネル L/R の音声（ステレオ音声）と効果音を出力します。
フロントスピーカーは、リスニングルーム前方の左右へ、リスニングポジションから等距離に設置します。プロジェクターの場合は、スクリーンの下辺から 4 分の 1 位の高さが適切です。

▌センタースピーカー

再生するソースのセンターチャンネルの音声、映画のセリフ / ボーカルなど、画面中央に位置する音声を出力します。
センタースピーカーは、フロントスピーカー L/R の中間に設置します。テレビをお使いの場合は、画面とスピーカーの前面を揃え、テレビの上や下など、できるだけ画面に近いところの中央に設置します。プロジェクターの場合は、スクリーン真下の中央に設置します。

▌サラウンドスピーカー L/R

再生するソースのサラウンドチャンネルの音声と効果音を出力します。5.1 チャンネルの場合は前方以外の周辺の音が出力されます。サラウンドバックチャンネルを含む 6.1/7.1 チャンネルシステムの場合は、左右から後方にかけての音が出力されます。

▌サラウンドバックスピーカー L/R

再生するソースの後方の効果音を出力します。6.1 チャンネルで使用する場合は、サラウンドバックの左右の音声がミックスされ 1 つのスピーカーから出力されます。5.1 チャンネルで使用する場合、サラウンドバックチャンネルの音声は、左右のサラウンドスピーカーに振り分けられます。

▌サブウーファー

Dolby Digital、DTS、AAC などに含まれる LFE（低域効果音）チャンネルの音声や、フロントやサラウンドなどその他チャンネルの低音を出力します。サブウーファーはアンプ内蔵のものをご使用ください。💡**1**
サブウーファーは、リスニングルーム前方のフロントスピーカー L/R の外側に、壁の反射を防ぐために少し内向きにして設置します。

スピーカー / サブウーファーの接続

▌スピーカー

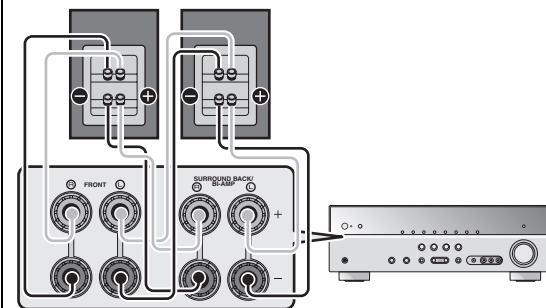
スピーカーの数に応じて**「①スピーカー / サブウーファーを接続する」**（☞ 簡易ガイド）の「スピーカー / サブウーファーの接続」にある手順から以下の表を参照して接続してください。

スピーカーの数	スピーカーの種類	接続手順
2	フロントスピーカー L/R	1
3	フロントスピーカー L/R、センタースピーカー	1、2
4	フロントスピーカー L/R、サラウンドスピーカー L/R	1、3
5	「簡易ガイド」をご覧ください。	1 ～ 3
6 または 7	「簡易ガイド」をご覧ください。	1 ～ 4

▌サブウーファー

サブウーファーを接続する場合は、**「①スピーカー / サブウーファーを接続する」**（☞ 簡易ガイド）の「スピーカー / サブウーファーの接続」手順 5 を実施してください。

● スピーカーをバイアンプ接続する

本機は、バイアンプ接続対応のスピーカーを接続できます。スピーカーを接続する際は、FRONT 端子および SURROUND BACK/BI-AMP 端子を下図のように接続し、本機のバイアンプ機能をオンにします。

警告

- バイアンプ接続をする前に、必ずスピーカー側の高域と低域をつなぐ金具（またはケーブル）を取りはずしてください。詳しくは、スピーカーの取扱説明書をご確認ください。バイアンプ接続をしない場合は、上記の金具（またはケーブル）を必ず取り付けた状態で、スピーカーケーブルを接続してください。
- バイアンプ接続する場合、サラウンドバックスピーカーは使用できません。

スピーカーの接続が終わったら、電源ケーブルを接続し、アドバンスドセットアップメニューでバイアンプ接続を有効にします。アドバンスドセットアップメニューの詳細は、**「本機の基本設定 / 初期化（アドバンスドセットアップメニュー）」**（☞p.51）をご覧ください。

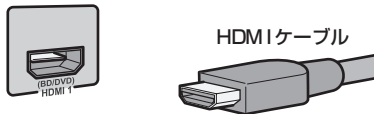
💡 **1：** 音場プログラムやサラウンドデコーダー（☞p.24）を使用せずに CD などの 2 チャンネルの音声を再生した場合、サブウーファーからの音声が出力されないことがあります。この場合は、セットアップメニューの**「Extra Bass」**（☞p.39）を「On」に設定してください。

入出力端子とケーブル

本機は次のような入出力端子を装備しています。接続したい外部機器側の端子に合わせて適切なケーブルを使い、接続する必要があります。

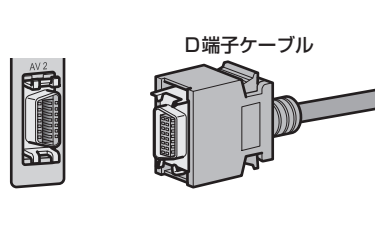
映像および音声を入出力する端子

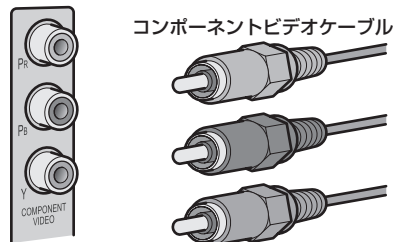
HDMI 端子

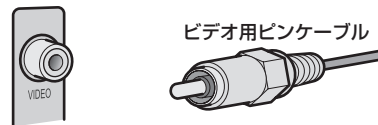
デジタル映像およびデジタル音声を 1 つの端子で伝送します。
接続には、HDMI ケーブルを使用します。

- 接続には HDMI ロゴのついた標準サイズの HDMI ケーブルをお使いください。
- 伝送時の品質劣化を防ぐため、5.0m以下の長さのケーブルを使って接続することをおすすめします。
- 本機に 3D 映像形式対応のプレーヤーやテレビを接続している場合は、3D の映像コンテンツを再生できます。

映像を入出力する端子

D 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）の 3 種類に分離し、コントロール信号（走査線、アスペクト比などの情報）を含めて伝送します。
接続には D 端子ケーブルを使用します。

COMPONENT VIDEO 端子

映像を輝度信号（Y）、青色差信号（PB）、赤色差信号（PR）の 3 種類に分離して伝送します。
接続には、3 つのプラグを持つコンポーネントビデオケーブルを使用します。

VIDEO 端子

標準的なアナログビデオ映像を伝送します。
接続には、ビデオ用ピンケーブルを使用します。

音声を入出力する端子

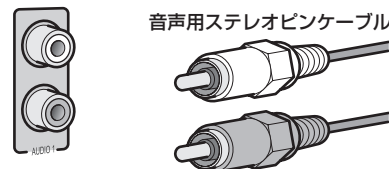
OPTICAL 端子

光デジタル音声を伝送します。
接続には、光デジタル音声用の光ファイバーケーブルを使用します。ケーブルの先端にキャップが付いている場合は、キャップを取り外してからご使用ください。

COAXIAL 端子

同軸デジタル音声を伝送します。
接続にはデジタル音声用の同軸ケーブルを使用します。

AUDIO 端子

標準的なアナログステレオ音声を伝送します。
接続にはステレオピンケーブルを使用し、赤いケーブルのプラグを R 端子（赤）、白いケーブルのプラグを L 端子（白）へ接続します。

PORTABLE 端子

アナログステレオ音声を伝送します。
接続にはステレオミニプラグのケーブルを使用します。

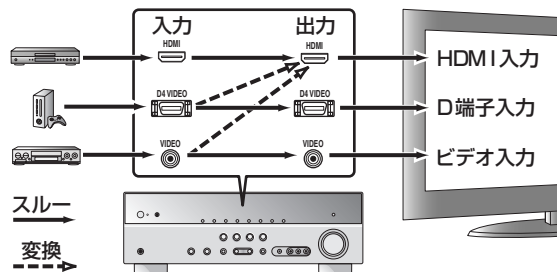
テレビを接続する

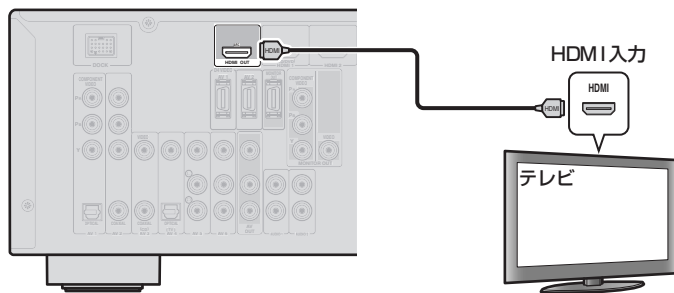
本機にはテレビ接続用として 3 系統の出力端子（HDMI OUT、D4 VIDEO/COMPONENT OUT、VIDEO）が用意されています。ご使用のテレビの入力端子に合わせて、適切に接続してください。

● HDMI を使って接続した場合

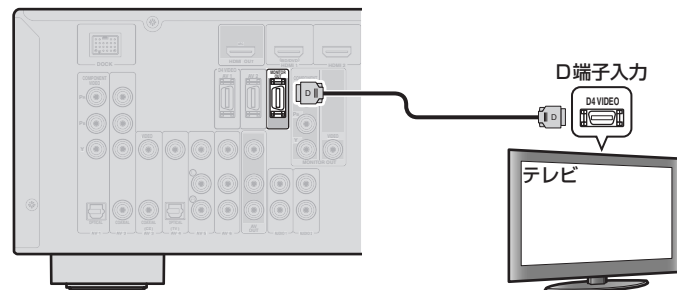
本機に入力された D 端子、コンポーネントビデオ、ビデオなどの映像は、HDMI に変換されてテレビへと出力されます。テレビ側で HDMI 入力を選ぶだけで、本機に接続されたすべての外部機器の映像を視聴できます。☝1

● D 端子やビデオ端子などを使って接続した場合

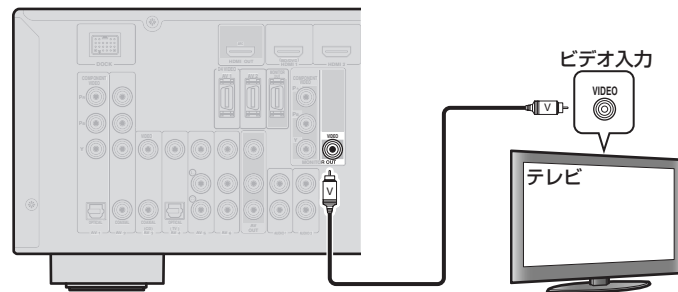
同じ種類の出力端子をテレビと接続し、再生する外部機器に合わせてテレビの入力を切り替えて視聴します。

▌HDMI 入力対応のテレビ

本機の HDMI OUT 端子とテレビの HDMI 入力端子を HDMI ケーブルで接続します。

- 接続には HDMI ロゴのついた 19 ピンの HDMI ケーブルをお使いください。
- 伝送時の信号劣化を防ぐため、5.0m以下の長さのケーブルを使って接続することをおすすめします。

▌D 端子（またはコンポーネントビデオ）入力対応のテレビ

本機の D4 VIDEO 端子（MONITOR OUT）とテレビの D 端子入力を D 端子ケーブルで接続します。☝2

- コンポーネントビデオ入力対応のテレビと接続する場合は、COMPONENT VIDEO 端子（MONITOR OUT）とテレビのコンポーネントビデオ入力を接続します。
- MONITOR OUTのD4 VIDEO端子とコンポーネントビデオ端子からは同じ映像がテレビに出力されます。D4 VIDEO 端子でテレビと接続した場合、コンポーネントビデオ端子を接続する必要はありません。

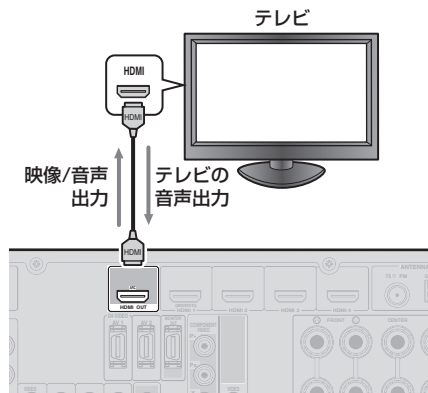
▌ビデオ入力対応のテレビ

MONITOR OUT の VIDEO 端子とビデオ用ピンケーブルで接続します。☝2

☝ **1 :** HDMI に変換される際の解像度やアスペクト比は、必要に応じて変更できます（☞p.42）。
☝ **2 :** テレビと HDMI 接続している場合、本機に入力された映像は HDMI 映像に変換されてテレビへと出力されます。D 端子 / コンポーネントビデオ端子、ビデオ端子をテレビに接続する必要はありません。

テレビの音声を本機で聴く

テレビの音声を本機で聴きたい場合は、本機と接続したテレビの機能に応じて次のいずれかの方法でテレビの音声を本機に入力してください。

HDMIコントロール機能およびAudio Return Channel 機能に対応しているテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）と Audio Return Channel機能の両方に対応している場合は、本機とテレビを接続した HDMI ケーブル 1 本で、テレビへの映像 / 音声出力、本機への音声入力の両方が実現できます。
Audio Return Channel 機能は、テレビへ映像 / 音声出力をしている HDMI ケーブルを使って、ステレオ PCM や AAC など光 / 同軸デジタル相当の音声を AV アンプ / レシーバーに出力する機能です。テレビ側で音声出力を伴う操作をすると、HDMI コントロール機能により本機のインプットが自動で変わるため、本機側を操作せずにテレビの音声を視聴できます。

[4] **入力ソース選択キー**
[9] **SETUP**
[10] **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
[10] **ENTER**

テレビから入力された音声は、AV1-6 などのインプットに割り当てられます。使用しないインプットにテレビの音声を割り当てれば、使用中のインプットの接続を変えることなくテレビの音声を視聴できます。

1 **テレビと本機を HDMI ケーブルで接続する。**

2 **テレビの電源をオンにして、本機を接続した映像入力に切り替える。**

3 **[9]SETUP を押す。💡1**
テレビに次の画面が表示されます。

4 **[10]カーソル △ / ▽ を使って「HDMI Setup」を選び、[10]ENTER を押す。**

5 **「Control」がオンに設定されていることを確認する。💡2**
オフに設定されている場合は、[10]**カーソル ◁ / ▷** を使ってオンを選択してください。

6 **[10]カーソル ▽ を押して「TV Audio In」を選び、[10]カーソル ◁ / ▷ を使ってテレビの音声を割り当てたいインプットを選ぶ。**

7 **[10]カーソル ▽ を押して「AudioReturnChan」を選び、[10]カーソル ◁ / ▷ を使って設定をオンにする。💡3**

8 **[9]SETUP を押して設定を終了する。**

TV 番組が再生される操作をすると、本機のインプットが手順6で選んだ入力端子に自動で切り替わります。

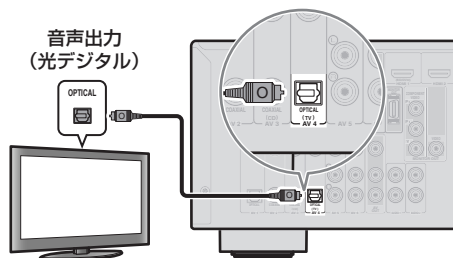
Audio Return Channel 機能を使ってテレビの音声が本機に入力されると、フロントパネルディスプレイに「TV」と表示されます。

- シーン機能を使ってインプットを選択している場合も、HDMI コントロール機能により TV Audio In で設定した入力端子に自動的に切り替わります。
- シーン機能を使って音場プログラムを設定する場合は、選択する「SCENE」キーのインプットを手順6で選んだ入力端子に設定する必要があります。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.24）をご覧ください。
- [4]**入力ソース選択キー**を使って TV Audio In で選択したインプットを手動で選択することもできます。

💡**1：** セットアップメニューについての詳しい説明は**「詳細機能を設定する（セットアップメニュー）」**（☞p.37）をご覧ください。
💡**2：** 実際に HDMI コントロール機能を動作させるには、テレビや外部機器などの HDMI コントロール機能もオンにする必要があります。詳しい設定方法は**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。
💡**3：** Audio Return Channel 機能がオンの間、テレビの音声を割り当てたインプットの端子は使用できません。

⑨ **SETUP**
⑩ **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷
⑩ **ENTER**

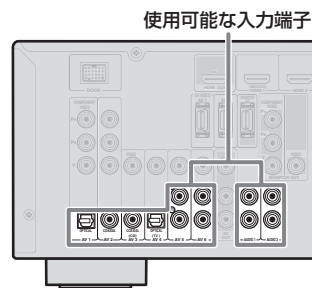
HDMI コントロール機能に対応しており、Audio Return Channel に非対応のテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）に対応している場合、本機の HDMI コントロール機能をオンにするとテレビ側の操作に連動してインプットを自動で切り替えできます。あらかじめテレビの音声出力を本機に接続しておけば、テレビ側の操作だけでテレビの音声が視聴可能になります。
工場出荷時には、AV4 に切り替わるよう設定されており、テレビの光デジタル音声出力を AV4 端子に接続すれば、本機の設定を変更せずにテレビの音声を楽しむことができます。

他の端子に接続したい場合は、次の手順で音声入力端子を変更できます。

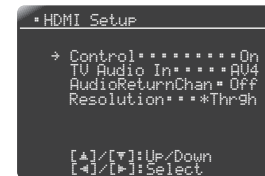
1 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続する。

2 テレビの音声出力端子を本機の入力端子に接続する。

テレビの音声入力用として、次の入力端子が使用できます。テレビ側の音声出力端子と同じ端子にケーブルを接続してください。

テレビ側の端子	入力端子	使用するケーブル
光デジタル	AV1 または AV4（初期設定）	光ファイバーケーブル
同軸デジタル	AV2 または AV3	デジタル音声用同軸ケーブル
アナログ音声	AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2 のいずれか 1 つ	ステレオピンケーブル

3 ⑨**SETUP を押す。**💡**1**

テレビに次の画面が表示されます。

4 ⑩**カーソル** △ / ▽ **を使って「HDMI Setup」を選び、**⑩**ENTER を押す。**

5 **「Control」がオンに設定されていることを確認する。**💡**2**

オフに設定されている場合は、⑩**カーソル** ◁ / ▷ を使ってオンを選択してください。

6 ⑩**カーソル** ▽ **を押して「TV Audio In」を選び、**⑩**カーソル** ◁ / ▷ **を使ってテレビの音声を割り当てたい入力端子を選ぶ。**

テレビ側で音声出力を伴う操作をすると、HDMI コントロール機能によって、ここで選んだインプットに自動で切り替わります。

7 ⑨**SETUP を押して設定を終了する。**

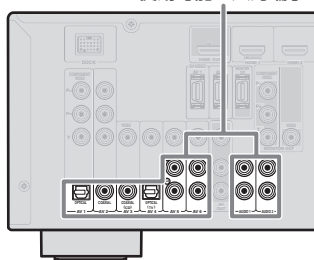
以降はテレビ側で音声出力されると、本機のインプットが手順 6 で選んだ入力端子に自動で切り替わります。

> シーン機能を使って音場プログラムを設定する場合は、選択する「SCENE」キーのインプットを手順6で選んだ入力端子に設定する必要があります。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.24）をご覧ください。

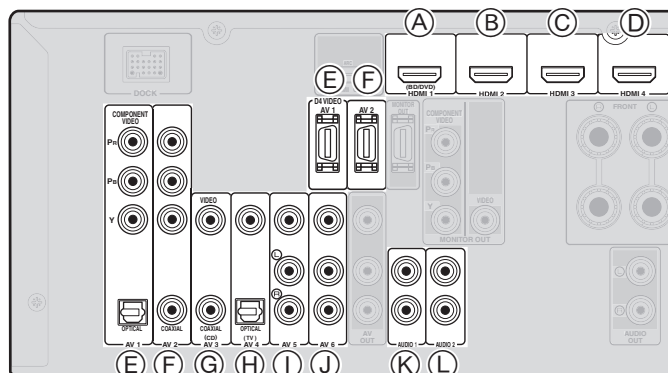
💡 **1：** セットアップメニューについての詳しい説明は**「詳細機能を設定する（セットアップメニュー）」**（☞p.37）をご覧ください。
💡 **2：** 実際に HDMI コントロール機能を動作させるには、テレビや外部機器などの HDMI コントロール機能もオンにする必要があります。詳しい設定方法は**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。

HDMI コントロール機能および Audio Return Channel 機能に非対応のテレビ

本機を接続したテレビが HDMI コントロール機能（例：パナソニック　ビエラリンクなど）に対応していない場合は、AV1-6 や AUDIO1-2 とテレビの音声出力端子を接続し、本機側の操作でインプットを選択します。テレビ側の音声出力端子に応じて、AV1-6、AUDIO1-2 のいずれかの入力端子にテレビの音声出力を接続します。

テレビ側の端子	入力端子	使用するケーブル
光デジタル	AV1 または AV4 （初期設定：AV4）	光ファイバーケーブル
同軸デジタル	AV2 または AV3	デジタル音声用同軸ケーブル
アナログ音声	AV5、AV6、 AUDIO1、AUDIO2、 V-AUX のいずれか 1 つ	ステレオピンケーブル

- テレビ側が光デジタル音声出力に対応している場合は、テレビのオーディオ出力を本機のAV4に接続することをおすすめします。工場出荷時には「SCENE」キーの「TV」を押すと AV4 が選ばれるよう設定されており、キー操作 1 つでテレビの音声が再生できます。「SCENE」キーについては、**「ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）」**（☞p.24）をご覧ください。
- 本機のリモコンを使ってテレビを操作することも可能です。テレビを操作するには、本機のリモコンにお使いのテレビのリモコンコードを登録します（☞p.47）。

BD/DVD プレーヤー（レコーダー）などの再生機器を接続する

本機には、入力ソースごとに接続端子が用意されています。フロントパネルやリモコンで対応する入力ソースを選ぶと、該当する機器の映像や音声が再生できます。
使用するケーブルは「**入出力端子とケーブル**」（☞p.12）をご覧ください。

BD/DVD プレーヤーなどの再生機器を接続する

接続する外部機器の出力端子			本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	信号の種類	出力端子		
HDMI 出力を持つ外部機器	音声 / 映像	HDMI	Ⓐ HDMI1（BD/DVD）	HDMI1
			Ⓑ HDMI2	HDMI2
			Ⓒ HDMI3	HDMI3
			Ⓓ HDMI4	HDMI4
コンポーネントビデオ /D 端子出力を持つ外部機器	音声	光デジタル	Ⓔ AV1	OPTICAL
	映像	コンポーネントビデオ / D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO
	音声	同軸デジタル	Ⓕ AV2	COAXIAL
	映像	コンポーネントビデオ / D 端子		COMPONENT VIDEO/D4 VIDEO

接続する外部機器の出力端子			本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	信号の種類	出力端子		
ビデオ出力を持つ外部機器	音声	同軸デジタル	Ⓖ AV3（CD）	COAXIAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	光デジタル	Ⓗ AV4（TV）	OPTICAL
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ音声（ステレオ）	Ⓘ AV5	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO
	音声	アナログ音声（ステレオ）	Ⓙ AV6	AUDIO
	映像	ビデオ		VIDEO

CD プレーヤーなどのオーディオ機器を接続する

接続する外部機器の出力端子		本機の対応入力ソース / 端子	
外部機器の種類	出力端子		
光デジタル出力を持つ外部機器	光デジタル	Ⓔ AV1	OPTICAL
		Ⓗ AV4（TV）	OPTICAL
同軸デジタル出力を持つ外部機器	同軸デジタル	Ⓕ AV2	COAXIAL
		Ⓖ AV3（CD）	COAXIAL
アナログ音声（ステレオ）出力を持つ外部機器	アナログ音声（ステレオ）	Ⓘ AV5	AUDIO
		Ⓙ AV6	AUDIO
		Ⓚ AUDIO1	AUDIO
		Ⓛ AUDIO2	AUDIO

- 光デジタルケーブルをご使用になる場合は、プラグの先端にある保護キャップを取り外してください。
- 工場出荷時には「SCENE」キーの「BD/DVD」を押すと HDMI1 が選ばれるよう設定されています。
- 工場出荷時には「SCENE」キーの「CD」を押すと AV3 が選ばれるよう設定されています。
- 「SCENE」キーについては、「**ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）**」（☞p.24）をご覧ください。
- 本機の設定を変更して、対応する入力ソースと別のインプットの音声入力端子を組み合わせることができます。詳細は「**HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる**」（☞p.18）をご覧ください。

HDMI/AV 端子の映像と他の端子の音声を組み合わせる

HDMI1-4/AV1-2 入力を使用する際は、音声のみを他の入力端子（AV1-6 や AUDIO1-2）からの入力に差し替えられます。たとえば外部機器が HDMI 端子から音声出力できない場合は、音声入力する端子を変更できます。次のような場合に使うと便利です。

– HDMI経由で音声出力できない外部機器をHDMI接続したいとき
– 映像出力がD端子、音声出力がアナログ音声の外部機器（一部ゲーム機など）を接続したいとき

設定方法は次の通りです。

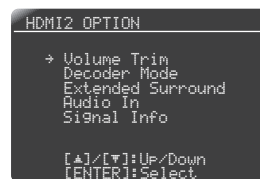
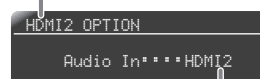
1 映像 / 音声ケーブルを接続する。

外部機器の音声出力が光デジタル端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV1 または AV4 の音声入力端子と外部機器を光ファイバーケーブルで接続します。

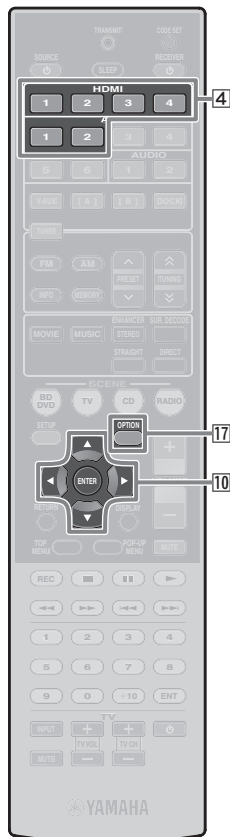
外部機器の音声出力が同軸デジタル端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV2 または AV3 の音声入力端子と、外部機器をデジタル音声用同軸ケーブルで接続します。

外部機器の音声出力がアナログステレオ端子の場合
外部機器の映像出力端子と本機の映像入力端子を接続し、AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2 のいずれか 1 つの音声入力端子と、外部機器をステレオピンケーブルで接続します。

2 **④入力ソース選択キー**を使って外部機器の映像出力を接続したインプットを選ぶ。

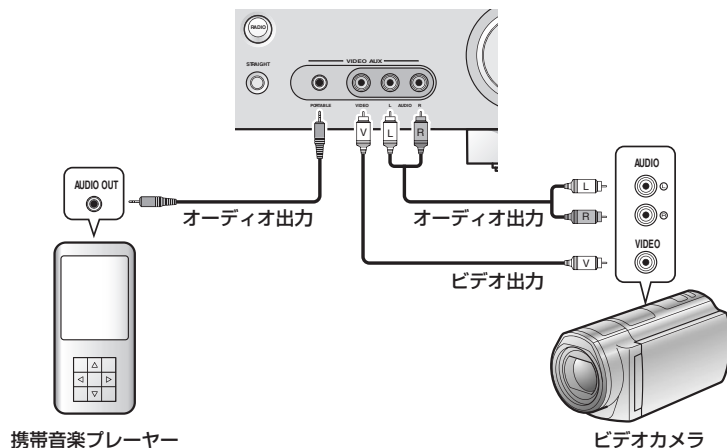
3 **⑰OPTION** を押す。💡1
たとえば手順 2 で HDMI2 を選んだ場合、テレビに次の画面が表示されます。

4 **⑩カーソル** ▽ を繰り返し押して「Audio In」を選び、**⑩ENTER** を押す。

5 **⑩カーソル** ◁ / ▷ を押して、音声入力する端子を選ぶ。

6 設定が終わったら、**⑰OPTION** を押してオプションメニューを終了する。

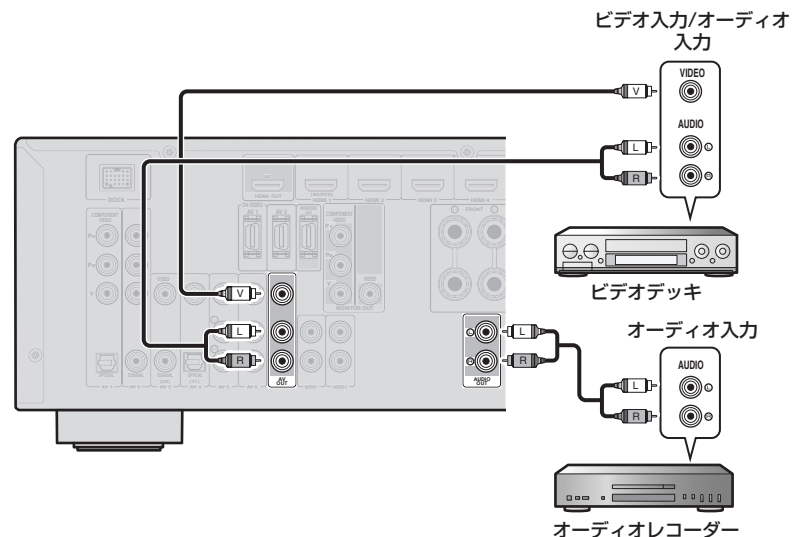
設定を元に戻したいときは、もう一度メニューを表示して設定していた入力端子を選んでください。

④ **入力ソース選択キー**
⑩ **カーソル ▽ / ◁ / ▷**
⑩ **ENTER**
⑰ **OPTION**

💡 **1 :** オプションメニューについての詳細は、「**インプットごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）**」（☞p.35）をご覧ください。

外部機器をフロントパネルの端子に接続する

ビデオカメラやゲーム、携帯音楽プレーヤーなどの機器を一時的に接続したい場合は、フロントパネルの VIDEO AUX 端子を利用すると便利です。
接続した外部機器を再生する際は、V-AUX インプットを選びます。

- 接続する際は、再生機器を停止させ、本機の音量を十分に下げてください。接続が終わったら、本機と再生機器の両方の音量を上げてください。
- PORTABLE 端子と AUDIO 端子の両方を接続した場合は、PORTABLE 端子の音声が出力されます。

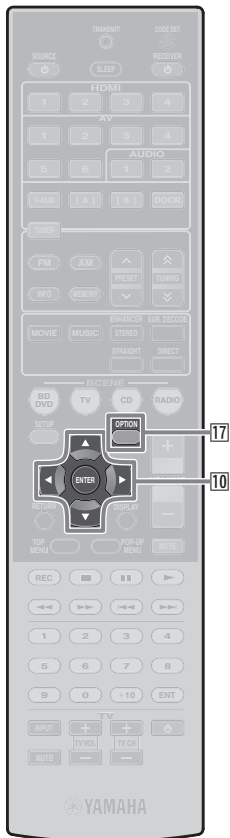
入力された映像 / 音声を外部機器へ出力する

本機の AV OUT 端子や AUDIO OUT 端子からは、現在選ばれているインプットのアナログ映像やアナログ音声が出力されます。これらの端子にビデオデッキなどを接続すれば、入力された映像や音声を録画 / 録音したり、他のテレビや外部機器に出力できます。

AV OUT 端子を使用する場合

外部機器のビデオ入力端子、アナログオーディオ入力端子と接続してください。

AUDIO OUT 端子を使用する場合

外部機器のアナログオーディオ入力端子と接続してください。

これらの端子から、HDMI 映像 / 音声、D4 VIDEO 端子 / コンポーネントビデオの映像、デジタル音声は出力されません。

⑩ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑰ **OPTION**

HDMI コントロール機能を使う

本機は、HDMI 経由で外部機器を操作する「HDMI コントロール機能」に対応しています。
HDMI コントロール機能対応の機器と HDMI 接続すれば、テレビなどの外部機器のリモコンと連動して本機の機能の操作をすることが可能です。

設定方法は **「簡易接続・操作ガイド」**の**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**をご覧ください。

スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）

本機には、最適な音響で視聴できるよう、スピーカーの有無、音量バランス、音色などを自動調整する YPAO（Yamaha Parametric Room Acoustic Optimizer）が搭載されています。YPAO を使えば、リスニングルームの音響測定やスピーカーの出力調整など、専門知識が必要な設定が自動でできます。

YPAO の実行

YPAO の実行方法は**「簡易接続・操作ガイド」**の**「⑦スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）」**をご覧ください。

■ スピーカー設定の音響特性

「簡易接続・操作ガイド」の**「⑦スピーカー設定を自動で最適化する（YPAO）」**の手順 7 で必要に応じて設定します。
YPAO では、自動測定されたスピーカー特性の結果を受け、一体感のある音場が得られるようイコライザー（パラメトリックイコライザー）が設定されます。設定後の音響特性は「EQ Type」で切り替えできます。通常の使用では、Natural（初期設定）から変更する必要はありません。

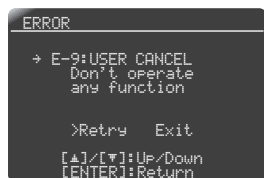
Natural **（初期設定）**	すべてのスピーカーの音声を、自然な音質が得られるよう調整します。
Flat	各スピーカーの特性を均一にします。すべてのスピーカーの品質が同じ場合に選びます。調整後に高域がきつく聞こえる場合は「Natural」を選んで再計測してください。
Front	各スピーカーの特性をフロントスピーカーに合わせます。フロントスピーカーの品質が他のスピーカーよりも大幅に優れている場合に選択してください。

「EQ Type」は ⑩**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷** を使っても設定できます。

⑩ **カーソル ▽ / ◁ / ▷**
⑩ **ENTER**

YPAO を実行した際、エラーメッセージや警告メッセージが表示された場合は、以下の説明を参考に問題を解決し、再度 YPAO を実行してください。

測定中にエラーメッセージが表示された場合

メッセージの内容をメッセージ一覧（☞p.22）で確認してください。

「E-1、E-2、E-4、E-6」が表示された場合

1 ⑩**カーソル** ▽ を一度押し、⑩**カーソル** ▷ を押して「Exit」を選ぶ。

2 ⑩**ENTER** を押して YPAO を終了し、本機をスタンバイにする。

3 エラーが発生したスピーカーの接続を確認する。

4 本機をオンにして YPAO を再実行する。

「E-5、E-7、E-8、E-9」が表示された場合

1 周囲の騒音や YPAO マイクの状態など、測定した状況が適切か確認する。

2 ⑩**カーソル** ▽ を一度押して「Retry」を選ぶ。

3 ⑩**ENTER**を押してYPAOを再実行する。

「E-10」が表示された場合

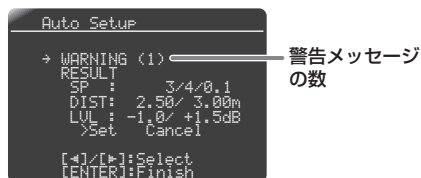
1 ⑩**カーソル** ▽ を一度押し、⑩**カーソル** ▷ を押して「Exit」を選ぶ。

2 ⑩**ENTER** を押して YPAO を終了する。

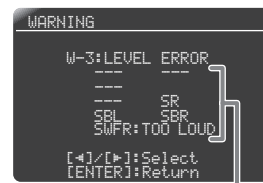
3 本機をスタンバイにする。

4 本機をオンにして YPAO を再実行する。

測定後に警告メッセージが表示された場合

警告内容の詳細はテレビ画面で確認できます。メッセージ一覧（☞p.22）で確認してください。次の操作でメッセージの内容を確認できます。

警告メッセージが表示された場合、測定結果を反映できますが、最適な音響は得られません。問題を解決してから再度 YPAO を実行することをおすすめします。
お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、「W-1」が表示されることがあります。この場合は測定結果を反映しても問題ありません。

警告メッセージの確認

測定結果画面で ⑩**ENTER** を押す。

問題の見つかったスピーカー

複数の警告メッセージが表示された場合

測定結果画面で ⑩**ENTER** を押し、⑩**カーソル** ◁ / ▷ を使って表示する警告メッセージを切り替える。

測定結果を反映する場合

⑩**カーソル** ◁ / ▷ を使って「Set」を選んで ⑩**ENTER** を押す。
警告メッセージを確認している場合は、⑩**ENTER** を押して測定結果画面に戻してから操作してください。

YPAO を終了する場合

⑩**カーソル** ◁ / ▷ を使って「Exit」を選んで ⑩**ENTER** を押す。
警告メッセージを確認している場合は、⑩**ENTER** を押して測定結果画面に戻してから操作してください。

メッセージ一覧

ご注意
次のメッセージが表示された場合は、発生している問題を解決してから測定をやり直してください。

● 測定前に表示されるメッセージ

Connect MIC!	YPAO マイクが接続されていません。	YPAO マイクをフロントパネルの YPAO MIC 端子に接続してください。
Unplug HP!	ヘッドホンが接続されています。	ヘッドホンを取り外してください。
Memory Guard!	本機の設定が保護されています。	セットアップメニュー（☞p.44）の「Memory Guard」を「Off」に設定してください。

● エラーメッセージ

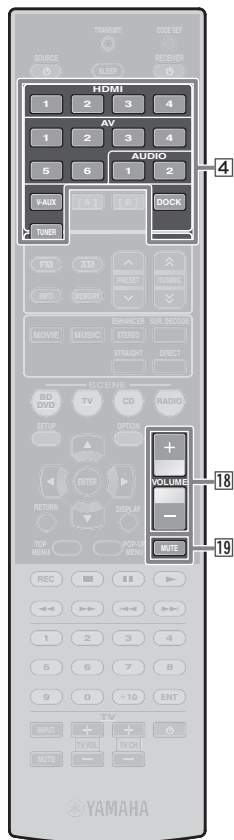
E-1: NO FRONT SP	フロントチャンネルが検出されませんでした。	左右のフロントスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-2: NO SUR. SP	サラウンドチャンネルの片側しか検出されませんでした。	左右のサラウンドスピーカーが正しく接続されているか確認してください。
E-4: SBR→SBL	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続している場合に、R 側のサラウンドバックチャンネルのみが検出されました。	サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ接続する場合は、L 側（SINGLE）の端子に接続してください。
E-5: NOISY	騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	周囲が静かな環境で測定をやり直してください。騒音を発生する機器が室内にある場合は電源を一時的に切るか、YPAO マイクから遠ざけてください。 このメッセージが表示された場合は「Proceed」を選択して測定を続行することも可能です。ただし最適な計測結果が得られるよう再計測することをおすすめします。
E-6: CHECK SUR.	サラウンドスピーカー L/R が接続されていないのに、サラウンドバックスピーカーだけが接続されています。	サラウンドバックスピーカーを使うときは、サラウンドスピーカー L/R を接続する必要があります。
E-7: NO MIC	測定の途中で YPAO マイクが外れました。	測定中は YPAO マイクに触れないようご注意ください。
E-8: NO SIGNAL	YPAO マイクがテストトーンを検知していません。	YPAO マイクが正しく設置されているか確認してください。
		各スピーカーが正しく接続、設置されているか確認してください。
		YPAO マイク、または YPAO MIC 端子が壊れている可能性があります。お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。
E-9: USER CANCEL	何らかの操作をしたため、測定を中断しました。	測定をやり直してください。測定中は音量を調節するなどの操作をしないでください。
E-10: INTERNAL ERROR	内部エラーが発生しました。	測定をやり直してください。「E-10」が繰り返し表示される場合は、ヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

● 警告メッセージ

W-1: OUT OF PHASE	表示されたスピーカーの極性が、逆に接続されている可能性があります。	お使いのスピーカーの種類や設置環境によっては、スピーカーが正しく接続されていても、「W-1」が表示されることがあります。この場合は測定結果を反映しても問題ありません。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
W-2: OVER 24m (80ft)	表示されたスピーカーとリスニングポジションとの距離が 24m 以上離れているため、正確に補正できません。	リスニングポジションの 24m 以内にスピーカーを設置してください。
W-3: LEVEL ERROR	各チャンネル間の音量差が大きすぎて、正確に補正できません。	すべてのスピーカーが同じ環境下に設置されているか確認してください。
		スピーカーの極性＋（プラス）、－（マイナス）が正しいか確認してください。
		なるべく性能が似ている、または同じスピーカーを使用することをおすすめします。
		サブウーファーの音量を調節してください。

「W-2」または「W-3」が表示された場合、計測結果は適用できますが、最適な状態ではありません。問題を解決してから再度計測することをおすすめします。

再生する

再生の基本操作

4 **入力ソース選択キー**
18 **VOLUME +/–**
19 **MUTE**

1 **本機に接続した外部機器（テレビや BD/DVD プレーヤーなど）の電源をオンにする。**

2 **インプットを選ぶには 4入力ソース選択キーを押す。**

選択したインプット名が、フロントパネルディスプレイにしばらく表示されます。💡**1**

3 **外部機器を再生する、またはチューナーの放送局を選ぶ。**

外部機器の再生方法については、外部機器に付属する取扱説明書をご覧ください。FM/AM チューナーの放送局の選び方や、本機を使って iPod や Bluetooth 機器を再生する方法は、下記ページをご覧ください。

- 「FM/AM 放送を聴く」（☞p.27）
- 「iPod™/iPhone™ を再生する」（☞p.30）
- 「Bluetooth® 機器を再生する」（☞p.33）

4 **音量を調節するには、18VOLUME +/– を押す。**

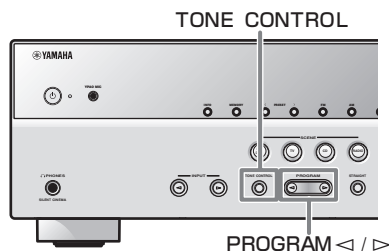
音声を消音（ミュート）するには

19**MUTE** を押します。
消音を解除するには、もう一度 19**MUTE** を押すか、18**VOLUME +/–** を使って音量を変更します。

高音 / 低音を調整する（トーンコントロール）

フロントスピーカー L/R またはヘッドホンから出力される音声の高音域（Treble）と低音域（Bass）のバランスを変更して、お好みの音色に調整します。

スピーカーとヘッドホンは個別にトーンコントロールを設定できます。ヘッドホンのトーンコントロールを調節するには、ヘッドホンを接続した状態で操作してください。

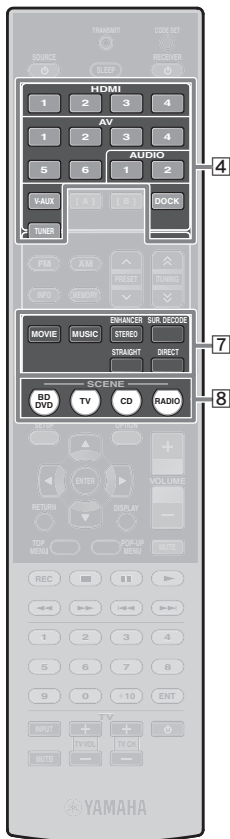
1 **フロントパネルのTONE CONTROLを押して「Treble」または「Bass」を選ぶ。**

フロントパネルディスプレイに、現在の設定値が表示されます。

2 **PROGRAM ⊲ / ⊳ を押して、増減量を調節する。**

設定範囲	–10.0dB ～ +10.0dB
設定単位	2.0dB

操作してからからしばらく待つと、元の表示に戻ります。

極端な設定にすると、再生する音声の音のつながりが悪くなることがあります。

💡 **1：** フロントパネルに表示されるインプット名は必要に応じて変更できます（☞p.43）。

④ **入力ソース選択キー**
⑦ **音場選択キー**
⑦ **MOVIE**
⑦ **MUSIC**
⑦ **STEREO**
⑦ **SUR. DECODE**
⑦ **STRAIGHT**
⑦ **DIRECT**
⑧ **SCENE**

ボタン 1 つで入力設定を切り替える（シーン機能）

本機には、キー操作 1 つで電源オンからインプットや音場プログラム切り替えまでを一括操作できる「シーン機能」が搭載されています。

映画鑑賞や音楽鑑賞など、用途に合わせた 4 つのシーンが用意されており、次のようなインプットと音場プログラムが初期設定されています。

シーン	インプット	音場プログラム
BD/DVD	HDMI1	Straight
TV	AV4	Straight
CD	AV3	Straight
RADIO	TUNER	7ch Enhancer

好みのインプット / 音場プログラムを登録する

1 ④**入力ソース選択キー**を使って、シーンに登録したいインプットを選ぶ。

2 ⑦**音場選択キー**を使って、シーンに登録したい音場プログラムを選ぶ。

3 フロントパネルディスプレイに「SET Complete」と表示されるまで、登録したい ⑧**SCENE** を押し続ける。

SET Complete と表示されたらキーから手を離す

シーンの割り当てを変更したときは、リモコン操作する外部機器も合わせて変更してください（☞p.48）。

シネマ DSP などの音場効果を楽しむ

記憶されたさまざまな音場プログラムや多彩なサラウンドデコーダーを使って、ほぼすべての音声をマルチチャンネル再生できます。

音場効果やサラウンドデコーダーなどを選ぶ

本機では、映画用、音楽用など用途に応じた複数のカテゴリーにそれぞれ音場設定（音場プログラム）が用意されています。音場プログラムの名前や説明にこだわらず、再生するソースが最も心地よく聴こえるプログラムをお選びください。

音場プログラムを選ぶ：
MOVIE カテゴリー（☞p.26）：⑦**MOVIE** を繰り返し押す。
MUSIC カテゴリー（☞p.26）：⑦**MUSIC** を繰り返し押す。

ステレオ再生（☞p.26）を選ぶ：
⑦**STEREO** を繰り返し押す。

コンプレストミュージックエンハンサー（☞p.26）を選ぶ：
⑦**STEREO** を繰り返し押す。

サラウンドデコーダー（☞p.26）を選ぶ：
⑦**SUR. DECODE** を繰り返し押す。

ストレートデコードモード（☞p.25）に切り替える：
⑦**STRAIGHT** を押す。

ダイレクトモード（☞p.25）に切り替える：
⑦**DIRECT** を押す。

音場プログラムのカテゴリー

MOVIE　CINEMA DSP　VOL. -18.5 dB
Sci-Fi

音場プログラム

- 現在音声を出力しているスピーカーは、フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターで確認できます（☞p.9）。
- 各音場プログラムは、音場の要素を調節できます（☞p.45）。
- 選択された音場プログラムは、インプットごとに記憶されます。インプットを切り替えた場合は、切り替え先のインプットで前回選ばれていた音場プログラムが呼び出されます。
- DTS Express または 96kHz を超えるサンプリング周波数の音声を再生した場合は、自動でストレートデコードモードに切り替わります。
- DTS-HD Master Audio または DTS-HD High Resolution Audio の音声ソースを再生する際にシネマ DSP 系の音場プログラムを使用すると、通常の DTS フォーマットでデコードされます。

⑦ 音場選択キー
⑦ STEREO
⑦ STRAIGHT
⑦ DIRECT

音場効果をかけずに再生する（ストレートデコードモード）

音場効果をかけずに再生したい場合は、ストレートデコードモードを使用します。ストレートデコードモードを有効にすると、CD や BD/DVD など再生するソースに応じて、次のように再生されます。

CD などの 2 チャンネルソースの場合

フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。

マルチチャンネルのソースの場合

適切なデコーダーでデコードし、音場効果をかけずにマルチチャンネル音声で再生します。

⑦STRAIGHT を押す。
ストレートデコードモードが有効になります。

ストレートデコードモードを解除するには、もう一度 **⑦STRAIGHT** を押してください。

以前に選ばれていたプログラム

ステレオ再生するときは

再生するソースにかかわらず、2 チャンネルステレオ（フロントスピーカーのみ）で再生したい場合は、音場プログラムの「2ch Stereo」を選びます。
2ch Stereo を選ぶと、CD や BD/DVD など再生するソースに応じて、次のように再生されます。

CD などの 2 チャンネルソースの場合

フロントスピーカーからステレオ音声で再生します。

BD/DVD などのマルチチャンネルソースの場合

再生ソースに含まれるフロント以外のチャンネルを、フロントチャンネルにミックスして、フロントスピーカーから再生します。

⑦STEREOを繰り返し押して、「2ch Stereo」を選択する。

ステレオ再生を解除するには、**⑦音場選択キー**を使って「2ch Stereo」以外の音場プログラムを選んでください。

サラウンドスピーカーなしで音場効果を楽しむ

サラウンドスピーカーがない場合でも、仮想スピーカーを創り出すことで自然な音場効果を再現できます（バーチャルシネマ DSP モード）。たとえばフロントスピーカーのみの構成でも、音場プログラムの臨場感が楽しめます。
サラウンドスピーカーが無効なときは、自動でバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。💡**1**

ヘッドホンで音場効果を楽しむ

本機にヘッドホンを接続した場合でも、音場効果の臨場感が手軽に再現できます（サイレントシネマモード）。💡**2**

原音に忠実な音質で楽しむ（ダイレクトモード）

ダイレクトモードは、入力された音声を最小限の回路構成で出力する機能です。原音に忠実な音質で音声を楽しみたいときに使用します。
ダイレクトモードをオンにしている間は、以下の機能が無効になります。

- 他の音場プログラム、トーンコントロールの設定
- オプションメニューやセットアップメニューの表示および操作

⑦DIRECT を押す。
ダイレクトモードが有効になります。💡**3**

ダイレクトモードを解除するには、もう一度 **⑦DIRECT** を押してください。

💡**1：** 次の場合バーチャルシネマ DSP モードは動作しません。
• ヘッドホンを本機に接続している場合　• 音場プログラムの 7ch Stereo を選んでいる場合　• ダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合
💡**2：** 次の場合サイレントシネマモードは動作しません。
• 音場プログラムの 7ch Stereo を選んでいる場合　• ダイレクトモードまたはストレートデコードモードを選んでいる場合
💡**3：** ダイレクトモードをオンにしている間、ノイズ軽減のためフロントパネルディスプレイの表示は暗くなります。オフに戻すと元の明るさに戻ります。

音場プログラム一覧

表中の CINEMA DSP は、シネマ DSP を使った音場プログラムを表します。

カテゴリー：MOVIE

映画、テレビ番組、ゲームなどの映像ソースの視聴に最適です。

Standard CINEMA DSP	Dolby Digital、DTS および AAC などのマルチチャンネル音声のオリジナル定位を乱さず、サラウンドの包囲感を重視した音場です。「理想的な映画館」がコンセプトで、周囲から美しい響きで包み込みます。
Spectacle CINEMA DSP	壮大なスケール感を演出するスペクタクルな音場です。シネスコサイズのワイド画面に合う広大な空間再現と微小な効果音から迫力の大音響まで、ダイナミックレンジの広さが特長です。
Sci-Fi CINEMA DSP	最新 SFX 映画の緻密なサウンドを鮮やかに描き分ける抜けの良い音場です。セリフ、効果音、BGM の明快な分離感を保ちつつ各々の空間を鮮やかに再現します。
Adventure CINEMA DSP	アクション＆アドベンチャー映画に最適です。響きを抑え、左右の拡がり感を重視した力強い空間を再現します。奥行感は浅めで各チャンネルのセパレーションや音の明瞭度を保ちつつ、クリアで力強い空間を再現します。
Drama CINEMA DSP	シリアスなドラマからミュージカルやコメディまで、幅広いジャンルの映画に対応する落ち着いた響きが特長です。控えめな響きでありながら適度な立体感を持ち、セリフの明瞭度とセンター定位を軸に効果音や BGM が柔らかな響きで立体的に再現されます。長時間聴いていても疲れません。
Mono Movie CINEMA DSP	往年のモノラル映画を当時の映画館の雰囲気で楽しめます。拡がりと適度な残響が付加され、奥行感をともなった心地よい空間が再現されます。
Sports CINEMA DSP	スポーツ中継やスタジオバラエティ番組がライブ感豊かに楽しめます。スポーツ中継では解説者やアナウンサーの声はセンターに定位し、歓声など場内の雰囲気は適度な空間の中で周囲に拡がり臨場感を体感できます。
Action Game CINEMA DSP	カーレースやシューティングゲームなどのアクションゲームに合います。チャンネル毎に効果の範囲を制限した反射音データにより、明瞭な方位感を保ちつつさまざまな効果音の存在感を高め、臨場感と迫力さを提供します。
Roleplaying Game CINEMA DSP	RPG やアドベンチャーゲームなどに合わせた音場です。映画用の音場効果と、Action Game で用いた音場デザインを組み合わせて、フィールドの奥行きや立体感を演出し、ムービーシーンでは映画的なサラウンド効果を提供します。

カテゴリー：MUSIC

CD などの音楽ソースに効果をかけて視聴する際に最適です。

Hall in Munich CINEMA DSP	内装材にシックな木の内張りが使われたミュンヘンにある 2500 席程度のコンサートホールです。繊細な美しい響きが豊かに拡がり、落ち着いた雰囲気を持っています。座席は 1 階の中央左寄りです。
Hall in Vienna CINEMA DSP	約 1700 席のウィーンの伝統的シューボックス型のコンサートホールです。周囲の柱や彫刻により全方向からの複雑な反射音を生み出しています。豊かな響きが特長です。
Chamber CINEMA DSP	宮廷の大広間のような天井の高い比較的広めの空間で、宮廷音楽や室内楽に適した心地よい残響が特長です。
Cellar Club CINEMA DSP	天井の低いアットホームなライブハウスです。小さなステージのすぐ前にいるような、リアルでライブな音場で、強い響きが特長です。
The Roxy Theatre CINEMA DSP	ロサンゼルスにあるロック系ライブハウスで、最高 460 席ほどあります。中央左寄りの客席です。
The Bottom Line CINEMA DSP	かつてニューヨークに存在したライブハウス「ザ・ボトム・ライン」のステージ正面の音場です。フロアは 300 席ある左右に幅広い客席で占められ、明瞭な響きが特長です。
Music Video CINEMA DSP	ポップス・ロック・ジャズなどのライブコンサート会場のイメージです。ステージ上のボーカルやソロ楽器のリアル感、リズム楽器のノリを重視したプレゼンス音場、広大なライブ会場の空間を再現するサラウンド音場で、ホットなライブ空間に浸れます。

カテゴリー：STEREO

ステレオソースを視聴する際に最適です。

2ch Stereo	ステレオ前方からのステレオ音声が楽しめます。マルチチャンネル信号が入力されると、入力信号は 2 チャンネルにダウンミックスされ、フロントスピーカー L/R から出力されます。
7ch Stereo CINEMA DSP	ステレオ後方からも直接音が聴け、広いエリアで楽しめる効果が特長です。ホームパーティーの BGM に最適です。セットアップメニューの設定により、最大 7 つのスピーカーから音が出力されます。

カテゴリー：ENHNCR（コンプレストミュージックエンハンサー）

圧縮オーディオ（MP3 など）を視聴する際に最適です。

Straight Enhancer	2 チャンネルまたはマルチチャンネルの圧縮オーディオを、音源のチャンネル数をそのままに、メリハリの効いたダイナミックな音声で再生します。
7ch Enhancer	音源のチャンネル数にかかわらず、圧縮オーディオを、メリハリの効いたダイナミックな音声で 7 チャンネル再生します。

カテゴリー：SUR.DEC（サラウンドデコーダー）

サラウンドデコーダーを使って、入力された音声を最大 7.1 チャンネルで再生します。*1

DD Pro Logic	Dolby Pro Logic デコーダーです。すべてのソースに適しています。
DD PLIIx Movie/ DD PLII Movie	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。映画鑑賞に適しています。*2
DD PLIIx Music/ DD PLII Music	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。音楽鑑賞に適しています。*2
DD PLIIx Game/ DD PLII Game	Dolby Pro Logic IIx（または Dolby Pro Logic II）デコーダーです。ゲームに適しています。*2
Neo:6 Cinema	映画鑑賞に適した DTS デコーダーです。
Neo:6 Music	音楽鑑賞に適した DTS デコーダーです。

*1：Dolby Pro Logic デコーダーは、2 チャンネル（ステレオ）の音声を 5.1 チャンネルで再生できます。Dolby Pro Logic II/IIx デコーダーや DTS Neo : 6 デコーダーは、2 チャンネルまたは 5.1 チャンネルの音声を最大 7.1 チャンネルで再生できます。

*2：次の場合 Dolby Pro Logic IIx デコーダーは選択できません。
- セットアップメニューのスピーカーセットアップ（Setup Menu→Speaker Setup→Config→Sur.B）でサラウンドバックスピーカーが「None」に設定されている場合
- ヘッドホンを接続している場合

FM/AM 放送を聴く

④TUNER
⑤FM
⑤AM
⑤TUNING ⌃ / ⌄
⑩カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
⑩ENTER
⑫数字キー
⑰OPTION

FM/AM 放送の受信時は、本機に接続した FM/AM アンテナの向きを受信感度が最良になるよう調節してください。

本機の FM/AM チューナーは、以下の 2 種類の方法で選局できます。

周波数選局

放送局をサーチしたり、周波数を直接指定したりして FM/AM 放送を受信します。

プリセット選局（☞p.28）

あらかじめ FM/AM 放送局を登録（プリセット）しておき、プリセット番号を指定して放送局を呼び出します。

周波数を指定して受信する（周波数選局）

1 **④TUNER を押してチューナーインプットに切り替える。**

2 **⑤FM または ⑤AM を押して受信するバンドを選ぶ。**

FM 76.0 MHz

3 **⑤TUNING ⌃ / ⌄ を使って受信する周波数を指定する。**

⑤TUNING ⌃

周波数をアップします。キーを 1 秒以上押し続けた場合は、現在より高い周波数に向けて放送局をサーチします。💡1

⑤TUNING ⌄

周波数をダウンします。キーを 1 秒以上押し続けた場合、現在より低い周波数に向けて放送局をサーチします。💡1

● **周波数を数値入力するには**

リモコンの ⑫**数字キー**を使って周波数を入力します。入力する際は少数点を省略します。💡2
たとえば 77.1MHz の放送局を選択する場合は次のように入力します。

● **電波の受信状態が悪いときは**

FM 放送を受信する際、安定してステレオ受信できない場合は、強制的にモノラルで受信することもできます。

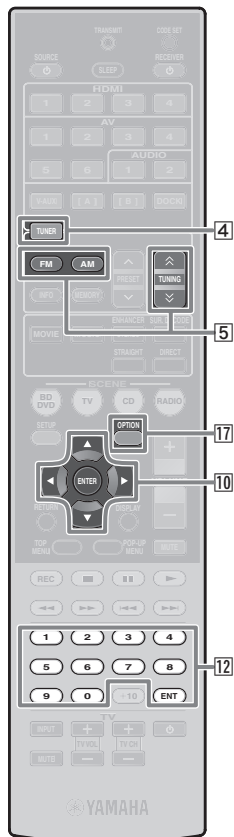
1 **④TUNER を押してチューナーインプットに切り替える。**

2 **⑰OPTION を押して、オプションメニューを表示させる。💡3**

3 **⑩カーソル △ / ▽ を使って「FM Mode」を選ぶ。**

4 **⑩ENTER を押し、⑩カーソル ◁ / ▷ を使って「Mono」を選ぶ。**

5 **設定が終わったら、⑰OPTION を押してオプションメニューを終了する。**

元に戻したい場合は、同じ要領で設定を「Stereo」に戻してください。

💡**1：**放送局をサーチする際は、サーチが始まったらキーから手を離してください。
💡**2：**受信範囲外の周波数を入力した場合は、フロントパネルディスプレイに「Wrong Station!」と表示されます。入力した周波数が正しいかご確認ください。
💡**3：**オプションメニューについての詳細は、**「インプットごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）」**（☞p.35）をご覧ください。

周波数を登録して呼び出す（プリセット選局）

FM/AM 放送局を 40 局まで登録（プリセット）できます。プリセット方法には、自動登録する「オートプリセット」と手動登録する「マニュアルプリセット」の 2 種類があります。いずれかの方法で放送局を登録してください。

■ 放送局を自動でプリセットする（オートプリセット）

電波の強い放送局を検出し、最大 40 局まで自動登録します。

AM 放送局は自動で登録できません。マニュアルプリセットで登録してください。

1 ④**TUNER** を押してチューナーインプットに切り替える。

2 ⑰**OPTION** を押して、オプションメニューを表示する。☞1

3 ⑩**カーソル △ / ▽** を使って「Auto Preset」を選ぶ。

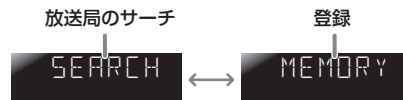
4 ⑩**ENTER** を押し、⑤**PRESET ∧ / ∨** または ⑩**カーソル △ / ▽** を押してオートプリセットを開始するプリセット番号を指定する。

プリセット番号を指定してから約 5 秒後にオートプリセットが始まります。

プリセット番号を指定しない場合は、「READY」と表示されてから約 5 秒後にオートプリセットが始まります。

プリセット番号の指定中

登録を中止したい場合は、⑩**RETURN** を押してください。

オートプリセット中

オートプリセット完了時

プリセットが完了すると、オプションメニューを自動で終了します。☞2

■ 放送局を手動で登録する（マニュアルプリセット）

放送局を手動で選局し、1 つずつプリセットします。

1 「周波数を指定して受信する」（☞p.27）を参考にして、登録したい放送局を受信する。

2 次のいずれかの方法で受信中の放送局を登録する。

● 空のプリセット番号に登録する場合

⑤**MEMORY** を 3 秒以上押し続けます。

最も番号の小さい空のプリセット番号（または前回登録した次のプリセット番号）に自動登録されます。

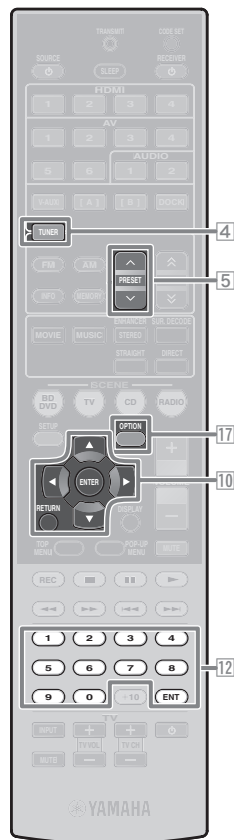
● プリセット番号を指定して登録する場合

⑤**MEMORY** を一度押し、フロントパネルディスプレイに「Manual Preset」と表示させます。しばらくすると登録先のプリセット番号が表示されます。

⑤**PRESET ∧ / ∨** を使って登録先のプリセット番号を選び、⑤**MEMORY** を押して登録を実行します。

⑩**RETURN** を押す（または約 30 秒間操作をしない）と登録を中止できます。

④ **TUNER**
⑤ **MEMORY**
⑤ **PRESET ∧ / ∨**
⑩ **カーソル △ / ▽**
⑩ **ENTER**
⑩ **RETURN**
⑰ **OPTION**

☞ **1：** オプションメニューについての詳細は、**「インプットごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）」**（☞p.35）をご覧ください。
☞ **2：** プリセット直後は、最も番号の小さいプリセット番号が自動で選局されます。

④ **TUNER**
⑤ **PRESET** ∧ / ∨
⑩ **カーソル** △ / ▽
⑩ **ENTER**
⑩ **RETURN**
⑫ **数字キー**
⑰ **OPTION**

登録した放送局を呼び出す

オートプリセットまたはマニュアルプリセットで登録した放送局を呼び出します。💡1

登録した放送局を選局するには、⑤PRESET ∧ / ∨ を押してプリセット番号を選ぶ。💡2

登録した放送局を登録解除する

1 **④TUNER を押してチューナーインプットに切り替える。**

2 **⑰OPTION を押して、オプションメニューを表示させる。💡3**

3 **⑩カーソル △ / ▽ を使って「Clear Preset」と表示させ、⑩ENTER を押す。**

登録を解除するプリセット番号

点滅　登録されている周波数

⑩**RETURN** を押すと、操作を中止できます。

4 **⑩カーソル △ / ▽ を使って登録解除したいプリセット番号を選び、⑩ENTER を押して解除する。**

複数のプリセット番号を登録解除したい場合は、同じ操作を繰り返してください。

5 **操作を終了するには、⑰OPTION を押す。**

💡 **1：** 登録されていないプリセット番号はスキップされます。すべてのプリセット番号が未登録の場合は、「No Presets」または「No Presets in Memory」と表示されます。
💡 **2：** プリセット番号を指定して選局するには、⑫**数字キー**を使って呼び出したいプリセット番号を入力します。無効な番号を入力した場合は「Wrong Num.」と表示されます。番号が正しいかご確認ください。
💡 **3：** オプションメニューについての詳細は、**「インプットごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）」**（☞p.35）をご覧ください。

再生する

4 **DOCK**

iPod™/iPhone™ のコンテンツを再生する

ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドック（別売 YDS-12 など）を本機に接続すると、本機のリモコンで操作しながら iPod の再生を楽しめます。iPod を再生する際に音場プログラムのコンプレストミュージック・エンハンサー（☞p.26）を選べば、圧縮オーディオフォーマット（MP3 など）をメリハリの効いたダイナミックな音で再生できます（☞p.24）。

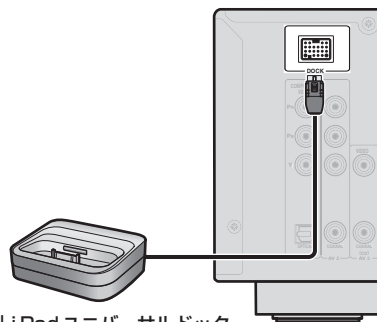
- iPod touch、iPod（iPod classic を含むクリックホイール）、iPod nano、iPod mini、iPhone、iPhone 3G、iPhone 3GS に対応しています（2010 年 3 月現在）。
- iPhone を接続する場合は、YDS-12 をご使用ください。
- iPod の種類やソフトウェアのバージョンによっては、一部の機能が使えない場合があります。
- ヤマハ製 iPod 用ユニバーサルドックの種類により一部の機能が使えないことがあります。ここでは YDS-12 を使って説明します。

ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックの接続

リアパネルの DOCK 端子と専用ケーブルを使って接続します。iPod/iPhone をセットする方法は、iPod ユニバーサルドックの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

故障の原因となるため、iPod ユニバーサルドックは、本機をスタンバイに切り替えてから接続してください。

電源をオンにして、iPod/iPhone をセットすれば再生準備は完了です。

ヤマハ製 iPod ユニバーサルドック

iPod/iPhone の操作

iPod/iPhone のセット後は、4 **DOCK** を押して DOCKインプットに切り替えるだけでiPod/iPhone を操作できます。

iPod/iPhone の再生方法には、次の 2 種類があります。

シンプル再生モード：

iPod/iPhone の画面を見ながら再生します。

メニュー表示モード：

テレビに表示されるメニューを見ながら iPod/iPhone を再生します。

4 DOCK
6 INFO
10 カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
10 ENTER
11 DISPLAY
11 □
11 ▯▯
11 ▷
11 ◁◁
11 ▷▷
11 |◁◁
11 ▷▷|

iPod/iPhone の音声のみ本機で再生する（シンプル再生モード）

本機のリモコンを使って iPod/iPhone の基本的な操作（再生、停止、スキップなど）をします。曲情報などは iPod/iPhone の画面で確認できます。☞1

4 **DOCK**	DOCK（iPod）インプットに切り替えます。
10 **カーソル △ / ▽**	上下の項目にカーソルを移動させます。
10 **カーソル ◁ / ▷**	メニューを 1 つ前に戻したり、選んだメニューに入ります。
10 **ENTER**	選んだメニューに入ります。
11 **DISPLAY**	シンプル再生モード / メニュー表示モードを切り替えます。
11 ◁◁	押し続けている間、巻き戻しします。
11 ▷▷	押し続けている間、早送りします。
11 |◁◁	再生中の曲の先頭にスキップします。さらに繰り返し押せば、1 曲ずつ前の曲にスキップします。
11 ▷▷|	次の曲の先頭にスキップします。
11 □	再生をストップします。
11 ▯▯	再生 / 一時停止を切り替えます。
11 ▷	再生 / 一時停止を切り替えます。

テレビに表示されるメニューを見ながら iPod を操作する（メニュー表示モード）

テレビに表示されるメニューを見ながら、本機のリモコンを使って iPod/iPhone を再生します。

- メニュー表示モードで使用している間、iPod/iPhone 本体は操作できません。
- iPod/iPhoneの各種情報は英数字のみ表示されます。日本語などの表示できない文字は「__」（アンダーバー）で表示されます。
  アーティスト名、アルバム名は 20 文字まで、ソング名は 40 文字まで表示されます。
- メニュー表示モードで再生している間、フロントパネルに曲の各種情報（Artist、Album、Song）を表示できます。表示を切り替えるには 6 **INFO** を繰り返し押します。
- （iPod touch/iPhone を除く iPod）メニュー表示モードの動作中は、iPod の画面にヤマハロゴが表示されます。

● メニュー表示モードを使って iPod を再生する

1 4 **DOCK を押して DOCK インプットに切り替える。**

2 11 **DISPLAYを押して、メニュー表示モードに切り替える。**

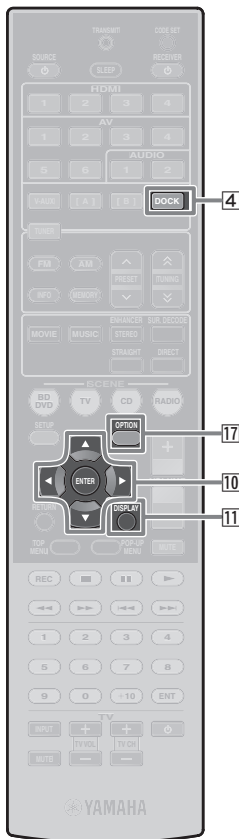
11 **DISPLAY** をもう一度押すと、シンプル再生モードに戻せます。

3 10 **カーソル △ / ▽ を押して再生したいコンテンツ（Music または Videos）を選び、**10 **カーソル ▷ を押す。**☞**2**

4 10 **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ を使って iPod/iPhone のメニュー項目を選び、**10 **ENTER を押して再生する。**

再生中は次の情報が表示されます。

① トラック番号 / トラック数
② アーティスト名
③ アルバム名
④ 曲名
⑤ 進捗表示
⑥ 経過時間
⑦ シャッフル / リピート表示
⑧ iPod/iPhone のステータス
（再生 ▶、一時停止 ❚❚、早送り ▶▶、巻き戻し ◀◀）
⑨ 残り時間

☞ **1 :** シンプル再生モードで使用している間、iPod/iPhone 本体でも操作できます。
☞ **2 :** iPod およびヤマハ製 iPod ユニバーサルドックが映像ファイルのブラウズ機能に対応していない場合、「Videos」は表示されません。

4 DOCK
10 カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷
10 ENTER
10 RETURN
11 DISPLAY
17 OPTION

● シャッフル / リピート再生する

ランダム再生（Shuffle）やリピート再生（Repeat）などの特殊な再生は、オプションメニューで設定できます。

1 4**DOCK** を押して DOCK インプットに切り替える。

2 11**DISPLAY** を押してメニュー表示モードに切り替える。

3 17**OPTION** を押してオプションメニューを表示する。💡1

4 10**カーソル △ / ▽** を使ってお好みの再生方法（Shuffle または Repeat）を選び、10**ENTER** を押す。

Shuffle を選んだ場合

曲やアルバムをランダムに再生します。シャッフル再生を有効にすると、テレビのメニュー画面に「⤮」が表示されます。

Off	ランダム再生しません。
Songs	曲単位でランダム再生します。
Albums	アルバム単位でランダム再生します。

Repeat を選んだ場合

曲やアルバムをリピート再生します。

Off	リピート再生しません。
One	曲単位でリピート再生します。
All	すべての曲が再生されたら先頭に戻ってリピート再生します。

「One」または「All」を選んでリピート再生すると、テレビのメニュー画面に「🔂」（One）または「🔁」（All）が表示されます。

5 10**カーソル ◁ / ▷** を使って再生方法を選び、iPod を再生する。

手順4で選択した方法でiPodが再生されます。

6 元の画面に戻すには、10**RETURN** を押す。

シャッフル / リピート再生を終了したいときは、同じ要領で設定を「Off」に戻してください。

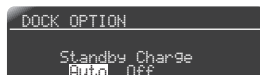
● 本機がスタンバイのときにiPodを充電するには

iPod ユニバーサルドックに iPod をセットすれば、本機の電源がスタンバイのときでもiPod/iPhoneを充電できます（iPod スタンバイチャージ機能）。スタンバイ中 iPod/iPhone に充電されると、フロントパネルの HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが点灯します。スタンバイスルー機能がオフのときは、充電が完了するとインジケーターが消灯します。

工場出荷時はスタンバイチャージ機能がオンに設定されていますが、必要であれば次の操作で無効にできます。

1 4**DOCK** を押して DOCK インプットに切り替える。

2 17**OPTION** を押して、オプションメニューを表示する。💡1

3 10**カーソル △ / ▽** を使って「Standby Charge」を選び、10**ENTER** を押す。

4 10**カーソル ◁ / ▷** を使って設定を「Off」に切り替える。

5 設定が終わったら、17**OPTION** を押してオプションメニューを終了させる。

スタンバイチャージ機能を有効に戻すには、同じ要領で、「Standby Charge」の設定を「Auto」に戻してください。

💡 **1：** オプションメニューについての詳細は、**「インプットごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）」**（☞p.35）をご覧ください。

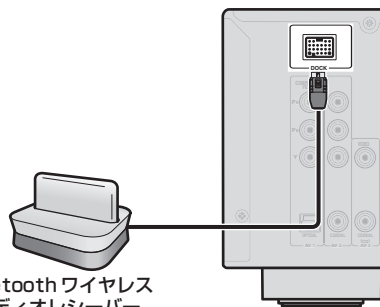
Bluetooth® 機器のコンテンツを再生する

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバー（別売 YBA-10）を本機に接続すれば、Bluetooth に対応した携帯音楽プレーヤーと本機をワイヤレス接続して再生できます。💡1

Bluetooth 機器をはじめて再生するには、最初にペアリング（Bluetooth 機器の登録）が必要です。実際にワイヤレス接続する際は、本機側と Bluetooth 機器側の両方でペアリングします。

④ **DOCK**
⑤ **MEMORY**
⑩ **カーソル △ / ▽**
⑩ **ENTER**
⑩ **RETURN**
⑰ **OPTION**

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの接続

リアパネルの DOCK 端子と専用ケーブルを使って接続します。電源をオンにすれば、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーの接続は完了です。

Bluetooth ワイヤレス
オーディオレシーバー

ご注意
故障の原因となるため、Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは本機をスタンバイに切り替えてから接続してください。

Bluetooth 機器のペアリング

Bluetooth 機器とはじめてワイヤレス接続する場合や設定が消去された場合は、必ずペアリングしてください。
ペアリングする際は、必要に応じて Bluetooth 機器の取扱説明書もご覧ください。

ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーは最大８台の Bluetooth 機器とペアリングできます。９台目の機器がペアリングされた場合は、最も長い間使われていない機器のペアリング設定が消去されます。

1 **④DOCK を使って DOCK インプットに切り替える。**

2 **ペアリングしたい Bluetooth 機器の電源を入れ、Bluetooth 機器側をペアリングモードにする。**

3 **⑰OPTION を押してオプションメニューを表示させ、⑩カーソル △ / ▽ を使って「Pairing」を選ぶ。**

4 **ペアリングを始めるには、⑩ENTER を押す。**

- ペアリングを中止するには⑩**RETURN**を押します。
- 手順2の後にフロントパネルの⑤**MEMORY**を押し続けてペアリングを開始することも可能です。

5 **Bluetooth 機器が Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを認識していることを確認する。**
認識している場合は Bluetooth 機器のデバイスリストに「YBA-10 YAMAHA」などと表示されます。

6 **Bluetooth 機器のデバイスリストから Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーを選び、Bluetooth 機器にパスキー「0000」を入力する。💡2**

正常にペアリングされた場合

7 **ペアリングを終了するには ⑩RETURN を押す。**

💡 **1 :** 本機は Bluetooth プロファイルの A2DP（Advanced Audio Distribution Profile）に対応しています。
💡 **2 :** 一部の Bluetooth 機器では、ペアリング実行後に自動でワイヤレス接続することがあります。この場合は「Completed」の代わりに「BT connected」と表示されます。

Bluetooth機器コンテンツの再生

ペアリングが完了したら、次の手順で本機とBluetooth 機器をワイヤレス接続します。ワイヤレス接続が完了すると、Bluetooth 機器のコンテンツが再生可能になります。

ワイヤレス接続は、Bluetooth 機器側の操作で実行することもできます。
一部の Bluetooth 機器は、自動でワイヤレス接続することがあります。これらの場合、以下の手順は必要ありません。

1 **④DOCK を押して DOCK インプットに切り替える。**

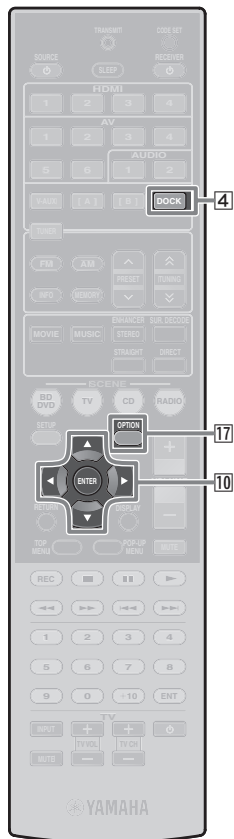
2 **⑰OPTION を押して、オプションメニューを表示させる。**

3 **⑩カーソル △ / ▽ を何度か押して「Connect」を選び、⑩ENTER を押す。** 💡**1**

ワイヤレス接続が完了した場合

接続に失敗した場合は「Not found」と表示されます。次の条件を満たしていることを確認し、再度ワイヤレス接続してください。
- 本機と Bluetooth 機器の両方でペアリングされている
- Bluetooth 機器の電源がオンになっている
- Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器が 10 メートル以内に置かれている

4 **Bluetooth 機器を操作して再生する。**

Bluetooth 機器の接続を解除するには、もう一度同じ要領で操作して、オプションメニューで「Disconnect」を選び、ワイヤレス接続を解除します。

④**DOCK**
⑩**カーソル △ / ▽**
⑩**ENTER**
⑰**OPTION**

💡 **1 :** すでにワイヤレス接続済みの場合は「Disconnect」と表示されます。

インプットごとにオプション機能を設定する（オプションメニュー）

本機には、インプットごとに設定可能なメニュー（オプションメニュー）が用意されています。オプションメニューでは、他のインプットとの音量差を調整したり、外部機器から入力された映像 / 音声の情報を表示したりできます。

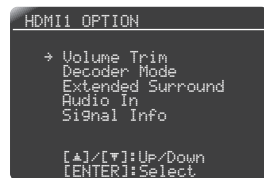
④ **入力ソース選択キー**
⑩ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑩ **ENTER**
⑩ **RETURN**
⑰ **OPTION**

オプションメニューの表示 / 設定

オプションメニューは、本機のフロントパネルディスプレイや、テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）を見ながら操作できます。ここではテレビ画面を見ながら設定する方法を例にあげて説明します。

1 **④入力ソース選択キーを使ってオプションメニューを表示したいインプットを選ぶ。**

2 **⑰OPTION を押す。**
選んだインプットのオプションメニューが表示されます。

オプションメニュー

3 **⑩カーソル △ / ▽ を使って操作 / 設定したいメニュー項目を選び、⑩ENTER を押す。**
表示される項目は、選択中のインプットによって異なります。
詳しくは、次の「オプションメニュー項目」をご覧ください。

4 **⑩カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ と ⑩ENTER を使って、選んだ項目を調節（または機能を実行）する。**
選択した項目の詳細が表示されます。操作可能な内容は選択した項目に応じて変わります。

- ⑩**RETURN** を一度押して 1 つ前の表示に戻したり、繰り返し押してオプションメニューを終了したりできます。
- メニュー項目の中には、選んだ機能を実行すると自動でオプションメニューを終了するものがあります。

5 **オプションメニューを終了するには、⑰OPTION を押す。**

オプションメニューを終了した直後、⑩**カーソル**などが動作しないことがあります。この場合は、選択中のインプットをもう一度選び直してください。

オプションメニュー項目

各インプットでは次の項目を設定できます。各項目の詳しい説明は参照先のページをご覧ください。

インプット	項目
HDMI1-4	Volume Trim（☞p.36）
	Decoder Mode（☞p.36）
	Extended Surround（☞p.36）
	Audio In（☞p.18）
	Dual Mono（☞p.36）
	Signal Info（☞p.36）
AV1-2	Volume Trim（☞p.36）
	Decoder Mode（☞p.36）
	Extended Surround（☞p.36）
	Audio In（☞p.18）
	Dual Mono（☞p.36）
	Signal Info（☞p.36）
AV3-4	Volume Trim（☞p.36）
	Decoder Mode（☞p.36）
	Extended Surround（☞p.36）
	Dual Mono（☞p.36）
	Signal Info（☞p.36）
AV5-6 ※1	Volume Trim（☞p.36）
AUDIO1-2 ※1	Volume Trim（☞p.36）
V-AUX	Volume Trim（☞p.36）
TUNER	Volume Trim（☞p.36）
	FM Mode（☞p.27）
	Auto Preset（☞p.28）
	Clear Preset（☞p.29）
iPod（DOCK）	Volume Trim（☞p.36）
	Shuffle（☞p.32）
	Repeat（☞p.32）
	Standby Charge（☞p.32）
Bluetooth（DOCK）	Volume Trim（☞p.36）
	Connect/Disconnect（☞p.34）
	Pairing（☞p.33）

※1：Audio Return Channel 機能をオンにして、HDMI 対応テレビの音声の入力先（TV Audio In）を AV5-6 または AUDIO1-2 に設定した場合、これらのインプットのオプションメニューでも「Decoder Mode」、「Extended Surround」、「Dual Mono」、「Signal Info」が表示されます。

インプット間の音量差を調整する

Volume Trim

インプット： すべて

インプットごとに音量を調節し、インプット間の音量差を補正します。インプットを切り替えたときの音量差が気になる場合は、このパラメーターを調節してください。

設定範囲	–6.0dB ～ 0.0dB ～ +6.0dB
初期設定	0.0dB
設定単位	0.5dB ステップ

デジタル音声のフォーマットを固定する

Decoder Mode

インプット： HDMI1-4、AV1-4 ※1

再生するデジタル音声のフォーマットを DTS または AAC に固定します。たとえば DTS フォーマットの音声を再生した際にノイズが生じるときは、この項目で再生フォーマットを DTS に固定してください。

Auto（**初期設定**）	入力されたフォーマットに合わせて音声フォーマットが自動で選ばれます。
DTS	DTS 信号に固定します。DTS 以外の信号が入力されても再生されません。
AAC	AAC 信号に固定します。AAC 以外の信号が入力されても再生されません。

サラウンドバック使用時に 5.1 チャンネル音声の再生方法を設定する

Extended Surround

インプット： HDMI1-4、AV1-4 ※1

サラウンドバックスピーカーが使用可能な環境（6.1/7.1 チャンネル）で使用する際、本機に入力された 5.1 チャンネルの音声をどのように再生するかを選択します。

Auto（**初期設定**）	サラウンドバックチャンネルの信号を含む音声が入力されると、最適なデコーダーを自動的に選び、6.1 または 7.1 チャンネルで再生します。
DD PLIIx Movie	サラウンドバックチャンネルの信号の有無にかかわらず、常に Dolby Pro Logic IIx Movie デコーダーを使って 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生します。2 つのサラウンドバックスピーカーを接続しているときにのみ選択できます。
DD PLIIx Music	サラウンドバックチャンネルの信号の有無にかかわらず、常に Dolby Pro Logic IIx Music デコーダーを使って 6.1 チャンネルまたは 7.1 チャンネルで再生します。1 つまたは 2 つのサラウンドバックスピーカーを接続しているときに選択できます。
EX/ES	サラウンドバックチャンネルの信号の有無にかかわらず、最適なデコーダーを自動的に選び、常に 6.1 チャンネルで再生します。
Off	サラウンドバックチャンネルの信号の有無にかかわらず、常にオリジナルのチャンネル数で再生します。

Dual Mono

インプット： HDMI1-4、AV1-4 ※1

AAC、Dolby Digitalの信号がデュアルモノラル信号の場合、主音声/副音声の出力を選択します。

All	主音声 / 副音声をそれぞれ L チャンネル /R チャンネルから出力します。
Main（**初期設定**）	主音声のみを出力します。
Sub	副音声のみを出力します。

デジタル音声 / 映像の各種情報を表示する

Signal Info

インプット： HDMI1-4/AV1-4 ※1

デジタル音声や映像入力信号の各種情報をテレビやフロントパネルディスプレイに表示します。メニュー項目を選んで ⑩**ENTER** を押すと、⑩**カーソル** △ / ▽ を使って次の情報を表示できます。

音声情報

Format	音声のフォーマットを表します。
Channel	音声に含まれているチャンネル数を表します。 チャンネル構成がフロント / サラウンド /LFE のとき： 例えば、入力された音声にフロント 3 チャンネル、サラウンド 2 チャンネル、LFE が含まれている場合は、「3/2/0.1」と表示されます。 特殊なチャンネル構成のとき： 「5.1ch」のように合計のチャンネル数で表示されます。 受信した音声信号がデュアルモノラルのとき： 「1+1」と表示されます。
Sampling	デジタル入力信号のサンプリング周波数を表示します。
Bitrate	入力信号の 1 秒あたりのビットレートを表します。

- 信号が入力されていない場合は「No Signal」、本機が認識できない信号が入力されている場合は「---」と表示されます。
- ビットレートは再生中に変化する場合があります。

映像情報

In	映像入力信号の種類と解像度を表します。
Out	映像出力信号の種類と解像度を表します。
Message （**エラー発生時のみ**）	HDMI に関するエラーを表示します。 **エラーメッセージ** HDCP Error　HDCP の認証に失敗しました。 Device Over　制限台数を超える HDMI 機器が接続されています。 Out of Res.　テレビが映像入力信号の解像度に対応していません。

※**1：** Audio Return Channel 機能をオンにして、HDMI 対応テレビの音声の入力先（TV Audio In）を AV5-6 または AUDIO1-2 に設定した場合、これらのインプットのオプションメニューでも表示されます。

詳細機能を設定する（セットアップメニュー）

スピーカーバランスの手動調整や HDMI 関連の各種設定など、本機の詳細機能はセットアップメニューで設定できます。

⑨ **SETUP**
⑩ **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷
⑩ **ENTER**
⑩ **RETURN**

セットアップメニューの表示 / 設定

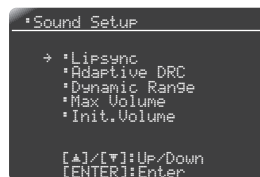
セットアップメニューは、本機のフロントパネルディスプレイや、テレビに表示される画面（オンスクリーンディスプレイ）を見ながら実行できます。ここではテレビ画面を見ながら設定する方法を例にあげて説明します。

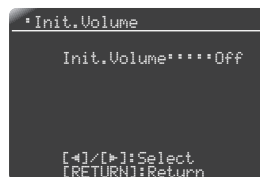
1 リモコンの ⑨**SETUP** を押す。

セットアップメニュー

セットアップメニューの種類

Speaker Setup (☞p.38)	スピーカーの有無や音量バランス調整など、スピーカーの各種要素（パラメーター）を設定します。
Sound Setup (☞p.41)	音声 / 映像のずれの調整や最大音量の設定など、音声出力関連の機能を設定します。
HDMI Setup (☞p.42)	HDMI コントロール機能のオン / オフ切り替え、アナログ映像の HDMI 変換時の設定（解像度やアスペクト比）など、HDMI に関する機能を設定します。
Function Setup (☞p.43)	インプット名の変更やオートパワーダウン機能の設定など、本機をより便利に使うための機能を設定します。
DSP Parameter (☞p.44)	音場プログラムやサラウンドデコーダーを編集します。
Memory Guard (☞p.44)	誤操作によって設定値が変更されないよう、セットアップメニューを保護します。

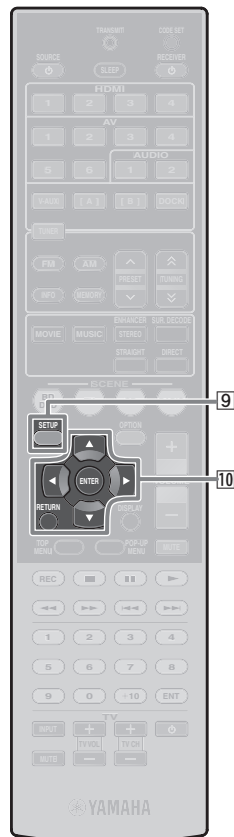
2 ⑩**カーソル** △ / ▽ を使って設定したいメニューを選択し、⑩**ENTER** を押す。

例：Sound Setup を選んだ場合

3 選んだメニュー項目にサブメニューがある場合は、さらに ⑩**カーソル** △ / ▽ を使って設定したい項目を選び、⑩**ENTER** を押す。

4 複数のメニュー項目がある場合は、⑩**カーソル** △ / ▽ を使って設定した項目を選ぶ。

5 ⑩**カーソル** ◁ / ▷ を使って選んだ項目の設定を変更する。

⑩**RETURN** を押すと、1 つ前の画面表示に戻せます。手順 4 ～ 5 を繰り返せば、複数項目を設定できます。

6 設定を終えるには、⑨**SETUP** を押す。

セットアップメニューを終了した直後、⑩**カーソル**などのキーが動作しない場合は、選択中のインプットをもう一度選び直してください。

スピーカーのパラメーター設定

Speaker Setup

■ スピーカーの各種パラメーターを手動設定する

Config

パラメーターを手動で設定して、スピーカーの出力特性を調整します。
このメニューは 1 つの設定項目が 1 画面で表示されます。⑩**カーソル** △ **/** ▽ を押すと、他のメニュー項目に表示を切り替えできます。

Config サブメニューには、スピーカーの大きさ（Large または Small）を設定するパラメーターがあります。「Small」に設定したスピーカーの低音域は、サブウーファー（サブウーファーが無効な場合はフロントスピーカー）から出力されます。ご使用になるスピーカーのウーファー部口径が 16cm 以上の場合は「Large」、16cm 未満の場合は「Small」に設定してください。

設定項目		設定値	
Subwoofer	サブウーファーの有無を設定します。	Yes（初期設定）	サブウーファーが接続されているときに選択します。再生ソースの LFE（低域効果音）チャンネルの音声と、他のスピーカーから振り分けられた低音域の音声がサブウーファーから出力されます。☞**1**
		None	サブウーファーを接続していないときに選択します。サブウーファーから出力される低音域の音声は、フロントスピーカーから出力されます。
Front SP	フロントスピーカーのサイズを選択します。☞**2**	Small（初期設定）	フロントスピーカーが小さい場合に選択します。フロントチャンネルの低音域の音声は、サブウーファーから出力されます。☞**3**
		Large	フロントスピーカーが大きい場合に選択します。フロントチャンネルの全帯域がフロントスピーカーから出力されます。 サブウーファーを接続していない場合は、自動的に Large が選択されます。
Center SP	センタースピーカーのサイズを選択します。	None	センタースピーカーを接続していない場合に選択します。センターチャンネルの音声はフロントスピーカーに振り分けられます。
		Small（初期設定）	センタースピーカーが小さい場合に選択します。☞**3**
		Large	センタースピーカーが大きい場合に選択します。センターチャンネルの全帯域がセンタースピーカーから出力されます。
Sur. L/R SP	サラウンドスピーカーのサイズを選択します。	None	サラウンドスピーカーを接続していない場合に選択します。再生ソースのサラウンドチャンネルの音声はフロントスピーカーに振り分けられます。☞**4** ☞**5**
		Small（初期設定）	サラウンドスピーカーが小さい場合に選択します。☞**3**
		Large	サラウンドスピーカーが大きい場合に選択します。サラウンドチャンネルの全帯域がサラウンドスピーカーから出力されます。
Sur.B L/R SP	サラウンドバックスピーカーのサイズを選択します。☞**6** ☞**7**	None	サラウンドバックスピーカーを接続していない場合に選択します。サラウンドバックチャンネルの音声はサラウンド L/R スピーカーおよびサブウーファー（ない場合はフロントスピーカー）に振り分けられます。
		SMLx1	小さいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。☞**3**
		SMLx2（初期設定）	小さいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。☞**3**
		LRGx1	大きいサラウンドバックスピーカーを 1 つ接続している場合に選択します。
		LRGx2	大きいサラウンドバックスピーカーを 2 つ接続している場合に選択します。
Crossover Freq.	サイズが「Small」に設定されたスピーカーから出力される、低音域成分の下限周波数を設定します。	40Hz, 60Hz, 80Hz, 90Hz, 100Hz, 110Hz, 120Hz（初期設定）, 160Hz, 200Hz	設定値よりも低い周波数の音声は、サブウーファーまたはフロントスピーカーから出力されます。☞**8**
Subwoofer Phase	低音が物足りないときやはっきりしないときに、サブウーファーの位相を調節して音像をはっきりさせます。	Normal（初期設定）	サブウーファーの位相を反転しません。
		Reverse	サブウーファーの位相を反転します。

設定項目		設定値	
Extra Bass	フロントチャンネルの低音域の音声をサブウーファーで再生するか、サブウーファーとフロントスピーカーの両方で再生するかを設定します。	On ☀9	サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域の音声が出力されます。
		Off（初期設定）	フロントスピーカーの大きさに応じて、フロントスピーカーまたはサブウーファーのどちらか一方から低音域の音声が出力されます。

☀1：「Extra Bass」の設定を変更すると、サブウーファーとフロントスピーカーの両方から低音域の音声を出力できます。
☀2：「Subwoofer」が「None」の場合は、「Large」のみ選択できます。フロントスピーカーのサイズが「Small」のときに「Subwoofer」を「None」に切り替えると、自動で「Large」に切り替わります。
☀3：「Crossover Freq.」を設定するとサブウーファーへ送られる低音の周波数帯を設定できます。
☀4：「None」に設定した場合、実際にスピーカーが接続されていても、サラウンドスピーカー（およびサラウンドバックスピーカー）から音声は出力されません。
☀5：「None」に設定されている間、音場プログラムがバーチャルシネマ DSP モードに切り替わります。
☀6：サラウンドスピーカーが無効な場合、サラウンドバックスピーカーは自動で「None」に切り替わります。
☀7：再生ソースに含まれるサラウンドバックチャンネルの音声は、ここで設定した内容に応じて 1 つにミックスされたり（6.1 チャンネルの場合）、サラウンドスピーカーへと振り分けられたり（5.1 チャンネルの場合）して出力されます。
☀8：お使いのサブウーファーが音量やクロスオーバー周波数の調節機能を装備している場合は、サブウーファー側のクロスオーバー周波数を最大に設定し、音量を約半分（または半分よりやや小さめ）に調節してください。
☀9：「Subwoofer」を「None」に設定した場合や「Front SP」を「Small」に設定したとき、「On」は選択できません。

▌スピーカーごとに音量を調節する

Level

本機に接続したスピーカーごとに音量を調節します。⑩**カーソル △ / ▽** を使ってスピーカーを選択し、⑩**カーソル ◁ / ▷** を使って音量を調節します。

設定項目		設定値	初期設定
FR.L	フロントスピーカー L	-10.0dB ～ 0 ～ +10.0dB（0.5dB 単位）	0dB
FR.R	フロントスピーカー R		0dB
CNTR	センタースピーカー		-1.0dB
SUR.L	サラウンドスピーカー L		-1.0dB
SUR.R	サラウンドスピーカー R		-1.0dB
SBL	サラウンドバックスピーカー L		-1.0dB
SBR	サラウンドバックスピーカー R		-1.0dB
SB ☀1	サラウンドバックスピーカー		-1.0dB
SWFR	サブウーファー		0dB

☀1：「SB」は 6.1 チャンネルスピーカーシステムで使用した場合に表示されます。

▌スピーカーの設置間隔を手動で設定する

Distance

スピーカーごとにリスニングポジションとの距離を設定し、各スピーカーの音が同時にリスニングポジションに届くよう調節します。

設定単位を選ぶには

⑩**カーソル △ / ▽** を使って「Unit」を選択し、⑩**カーソル ◁ / ▷** を使って単位（メートルまたはフィート）を選びます。

各スピーカーの間隔を設定するには

⑩**カーソル △ / ▽** を使って設定したいスピーカーを選択し、⑩**カーソル ◁ / ▷** を使ってスピーカーとリスニングポジションの間隔を設定します。

設定項目		設定値	初期設定
Unit	設定単位	meter/feet	meter
Front L	フロントスピーカー L	0.30m ～ 24.0m（1.0ft ～ 80.0ft）	3.0m (10.0ft)
Front R	フロントスピーカー R		3.0m (10.0ft)
Center	センタースピーカー		2.60m (8.5ft)
Sur. L	サラウンドスピーカー L		2.40m (8.0ft)
Sur. R	サラウンドスピーカー R		2.40m (8.0ft)
Sur.B L	サラウンドバックスピーカー L		2.40m (8.0ft)
Sur.B R	サラウンドバックスピーカー R		2.40m (8.0ft)
Sur. B ☀1	サラウンドバックスピーカー		2.40m (8.0ft)
SWFR	サブウーファー		3.0m (10.0ft)

☀1：「Sur.B」は 6.1 チャンネルスピーカーシステムで使用した場合に表示されます。

設定する

[9] **SETUP**
[10] **カーソル** △ / ▽ / ◁ / ▷
[10] **ENTER**

■ イコライザーを使って音色を調節する

Equalizer

パラメトリックイコライザーまたはグラフィックイコライザーを使って音色を調節します。

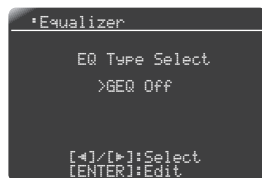
設定項目		設定値	
EQ Type Select	使用するイコライザーの種類を選びます。	Auto PEQ	YPAO（☞p.20、簡易ガイド）によって調整されたパラメトリックイコライザーを使って音色を手動で調整します。設定値の下には、YPAO 実行時に選んだ音響特性（EQ Type）が表示されます。💡1
		GEQ（初期設定）	グラフィックイコライザーを使って音色を調節します。グラフィックイコライザーを調節するには、この設定を選んだ状態で [10]**ENTER** を押します。
		Off	イコライザーを使用しません。

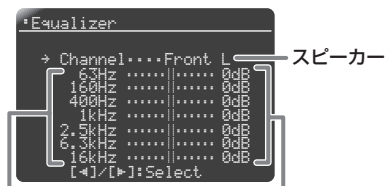
💡 **1：** YPAO を使って音響測定すると自動で「Auto PEQ」が選ばれます。一度も測定していない場合「Auto PEQ」は表示されません。

● グラフィックイコライザーを調節するには

1 **リモコンの [9]SETUP を押してセットアップメニューを表示させる。**

2 **[10]カーソル △ / ▽ を使って「Speaker Setup」を選び、[10]ENTER を押す。**

3 **[10]カーソル △ / ▽ を使って「Equalizer」を選び、[10]ENTER を押す。**

4 **[10]カーソル ◁ / ▷ を使って「GEQ」を選び、[10]ENTER を押す。**

5 **「Channel」が選択されていることを確認し、[10]カーソル ◁ / ▷ を使ってイコライザーを調整したいスピーカーを選ぶ。**

6 **[10]カーソル ▽ を何度か押して調節したい周波数帯を選び、[10]カーソル ◁ / ▷ を使ってその周波数の音量を調節する。**

音量をアップする：[10]**カーソル** ▷ を押します。
音量をダウンする：[10]**カーソル** ◁ を押します。

周波数	63Hz/160Hz/400Hz/1kHz/2.5kHz/6.3kHz/16kHz
設定範囲	–6.0dB ～ 0dB ～ +6.0dB
初期設定	0dB
設定単位	0.5dB

[10]**カーソル** △ / ▽ を使って他の周波数を選んだり、手順 5 の状態に戻したりできます。手順 5 ～ 6 を繰り返してお好みの音になるよう調節してください。

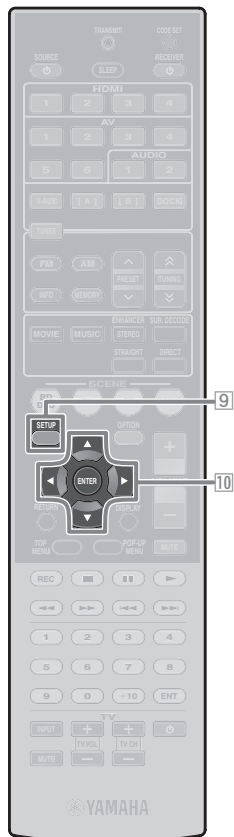
7 **調節が終わったら、[9]SETUP を押してセットアップメニューを終了する。**

■ テストトーンを出力する

Test Tone

テストトーン出力のオン / オフを切り替えます。

設定値	説明
Off（初期設定）	テストトーンを出力しません。
On	テストトーンを出力します。

テストトーンは本機を設定する様々な状況で使用できます。たとえばスピーカーごとに音量調整する場合や、グラフィックイコライザーを調節するときにテストトーンを出力すれば、実際の効果を確認しながら設定できます。設定を「Off」に戻すか、セットアップメニューを終了すると、テストトーンの出力を停止できます。

音声出力の設定

Sound Setup

設定項目			設定値	
Lipsync	映像と音声の出力タイミングのずれを調節します。	HDMI Auto 映像 / 音声のタイミング自動補正（オートリップシンク）に対応しているテレビと本機を HDMI 接続している場合に、出力タイミングを自動で補正します。	Off （初期設定）	自動補正しません。テレビ側が自動補正機能に対応していない場合や自動補正機能を使わない場合はこの設定を選びます。映像 / 音声のずれは「Manual Delay」で補正してください。
			On	テレビ側が自動補正機能に対応している場合に選びます。必要であれば「Auto Delay」で補正時間を微調節できます。
		Auto Delay 「HDMI Auto」を「On」にした際に、音声出力のタイミングを微調節します。調節した時間は「offset」欄に表示されます。	0ms ～ 240ms （1ms 単位）	初期設定 0ms
		Manual Delay 補正時間を手動で調整します。テレビ側がオートリップシンクに対応していない場合や、「HDMI Auto」を「Off」に設定している場合に使用します。	0ms ～ 240ms （1ms 単位）	初期設定 0ms

設定項目		設定値	
Adaptive DRC	本機の音量とダイナミックレンジ（最大音量から最小音量までの差）を連動して調節します。音量を小さくして再生する場合や夜間に再生するときは、このパラメーターを Auto に設定すると効果的です。☝1 Auto に設定した場合、次のようにダイナミックレンジが調節されます。 出力レベル / Auto / Off / 入力レベル / 音量：小 出力レベル / Auto / Off / 入力レベル / 音量：大	Auto	ダイナミックレンジを自動的に調節します。
		Off （初期設定）	ダイナミックレンジを自動的に調節しません。
Dynamic Range	Dolby Digital や DTS 信号を再生した場合に、ダイナミックレンジを調節する方法を選びます。	Min/Auto	（Min）Dolby TrueHD 信号以外のビットストリーム信号再生時に、夜間や小音量でも聴きやすいダイナミックレンジに調節します。 （Auto）Dolby TrueHD 信号再生時に、入力信号からの情報に基づいてダイナミックレンジを調節します。
		STD	一般的な家庭用として推奨するダイナミックレンジで再生します。
		Max （初期設定）	入力された信号を補正せず、そのまま再生します。
Max Volume	誤って音量が上がりすぎないように、最大音量を設定します。初期設定（+16.5dB）では、最大音量まで出力できます。	-30.0dB ～ +15.0dB、+16.5dB （単位 5.0dB）	初期設定 +16.5dB
Init.Volume	電源をオンにした直後の音量を設定します。「Off」に設定した場合は、前回電源をスタンバイにしたときの音量が適用されます。☝2	Off、Mute、-80dB ～ +16.5dB （単位 5.0dB）	初期設定 Off

☝**1：**Adaptive DRC の設定はヘッドホンを使った場合でも有効です。

☝**2：**「Max Volume」の設定値が「Init.Volume」の設定値よりも小さい場合、「Max Volume」の設定が優先されます。

HDMI の設定

HDMI Setup

設定項目		設定値	
Control	HDMI コントロール機能のオン / オフを切り替えます。 HDMI コントロール機能については、**「⑥テレビのリモコンで本機を操作する」**（☞ 簡易ガイド）をご覧ください。	Off	HDMI コントロール機能をオフにします。
		On （初期設定）	HDMI コントロール機能をオンにします。※**1** HDMI コントロール機能に対応しない HDMI 機器を接続している場合、設定をオンにしても効果はありません。
TV Audio In ※**2**	HDMI コントロール機能をオンにした際、テレビの音声を入力するインプットを選びます。テレビ側が Audio Return Channel 機能に対応している場合は、ここで選んだインプットにテレビの音声が入力されます。※**3** ※**4**	AV1 ～ AV6 （初期設定 AV4）	テレビの音声入力用として AV1-6 のいずれか 1 つを割り当てます。
		AUDIO1 ～ AUDIO2	テレビの音声入力用として AUDIO1-2 のいずれか 1 つを割り当てます。
AudioReturnChan ※**2**	Audio Return Channel 機能のオン / オフを選択します。 Audio Return Channel 機能を使ってテレビの音声を入力する方法は、**「HDMI コントロール機能および Audio Return Channel 機能に対応しているテレビ」**（☞p.14）をご覧ください。	Off （初期設定）	Audio Return Channel 機能をオフにします。
		On	Audio Return Channel 機能をオンにします。※**3**
Standby Through ※**2**	本機がスタンバイのときに、HDMI1-4 端子のいずれかから入力された映像 / 音声をテレビへ出力します（スタンバイスルー機能）。※**5**	Off （初期設定）	スタンバイスルー機能を無効にします。
		On	HDMI インプットに入力された映像 / 音声をテレビへ出力します。 スタンバイ中はリモコンの ④**HDMI1-4** を使ってテレビへ出力される HDMI インプットを切り替えることも可能です。スタンバイ中に HDMI インプットが切り替わると、HDMI スルー / iPod チャージインジケーターが 2 回点滅します。
Audio Output ※**2**	HDMI1-4 端子から入力された音声を、本機から出力するか、HDMI OUT 端子に接続したテレビから出力するかを選択します。	Amp （初期設定）	本機に接続したスピーカーから音声を出力します。外部機器からは、本機で再生可能なフォーマットで音声が出力されます。
		TV	本機と接続したテレビから音声を出力します。外部機器からは、テレビで再生可能なフォーマットで音声が出力されます。 「TV」を選んだ場合、本機のすべての音声出力はミュートされます。
		Amp+TV	本機のスピーカーと本機に接続されたテレビの両方から音声を出力します。外部機器からは、本機とテレビの両方で再生可能なフォーマットで音声が出力されます。
Resolution	本機に入力された 480i または 480p のアナログ映像を HDMI 映像に変換（アップスケーリング）する際の解像度を設定します。※**6** 本機とテレビを HDMI 接続している場合、本機はテレビが対応している解像度を自動検出します。この項目の表示中、テレビ側が対応している解像度の左側に「*」（アスタリスク）が表示されます。※**7**	Thrgh （初期設定）	変換せずに出力します。
		480p	480p（プログレッシブ）に変換して出力します。
		720p	720p（プログレッシブ）に変換して出力します。
		1080i	1080i（インターレース）に変換して出力します。
		1080p	1080p（プログレッシブ）に変換して出力します。
Aspect ※**8**	アナログ映像を HDMI 映像に変換する際のアスペクト比を設定します。※**9**	Thrgh （初期設定）	アスペクト比を変換せずに、元の比率で出力します。
		16:9	画面の左右に黒い帯をつけて、アスペクト比が 4：3 の映像を 16:9 のテレビで最適な映像になるように出力します。

※**1：**HDMI コントロールをオンにすると、スタンバイスルー機能も自動でオンになります。本機がスタンバイのときは、最後に選ばれた HDMI インプットの映像 / 音声がテレビへ出力されます。
※**2：**「Control」のオン / オフ設定によって表示 / 非表示が変わります。
※**3：**Audio Return Channel 機能が有効になっている間は、「TV Audio In」で選択した入力端子は使用できません。
※**4：**テレビの音声を入力する方法は、**「テレビの音声を本機で聴く」**（☞p.14）をご覧ください。
※**5：**スタンバイスルーがオンのときは、フロントパネルの HDMI スルー /iPod チャージインジケーターが点灯します。スタンバイスルー中は、1 ～ 3W の電力を消費します。
※**6：**一部のゲーム機など規格外の映像は、HDMI 映像に変換できません。このような外部機器をご使用になる場合は、本機とテレビをビデオ接続してご使用ください。
※**7：**テレビが対応している解像度が検出されない場合は、アドバンスドセットアップメニュー（☞p.52）の「MON.CHK」の設定を「SKIP」にしてから、もう一度この項目を設定してください。
※**8：**「Resolution」が「Thrgh」以外のときに表示されます。
※**9：**720p、1080i、1080p のアナログ映像や HDMI 映像では、アスペクト比を設定しても効果はありません。またアスペクト比が 4:3 以外の映像信号が入力されている場合、設定は無効になります。

⑨**SETUP**
⑩**カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑩**ENTER**
⑩**RETURN**

本機をより便利に使うための設定

Function Setup

設定項目		設定値	
Input Rename	フロントパネルディスプレイなどに表示されるインプット名を変更します。	変更方法には、既成の名前を選ぶ方法と独自の名前を付ける方法の 2 種類があります。詳しくは次の**「インプット名を既成の名前を選んで変更する」**または**「独自のインプット名をつける」**（☞p.44）をご覧ください。	
AutoPower Down	本体やリモコンを長時間操作しなかったときに、自動で本機をスタンバイにします（オートパワーダウン機能）。初期状態ではオフに設定されていますが、スタンバイまでの時間を設定することで機能を有効にできます。💡**1**	Off（初期設定）	オートパワーダウン機能を無効にします。
		4hours	4 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		8hours	8 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
		12hours	12 時間未操作の状態が続いたときスタンバイになります。
Dimmer	フロントパネルディスプレイの明るさを設定します。設定値を小さくするほどフロントパネルディスプレイの表示が暗くなります。	-4 ～ 0	初期設定 0
OSD Shift	テレビに表示されるメニュー画面の上下位置を調節します。画面を上に移動するには設定値を大きくし、下に移動する場合は設定値を小さくします。	-5～0～+5	初期設定 0

💡**1：**オートパワーダウン機能を有効にした場合、スタンバイへ移行する 30 秒前には、フロントパネルディスプレイに残り時間が表示されます。スタンバイへの移行を中止したい場合は、残り時間がゼロになる前に本体またはリモコンを操作してください。

● インプット名を既成の名前を選んで変更する

1 リモコンの ⑨**SETUP** を押してセットアップメニューを表示させる。

2 ⑩**カーソル △ / ▽** を使って「Function Setup」を選び、⑩**ENTER** を押す。

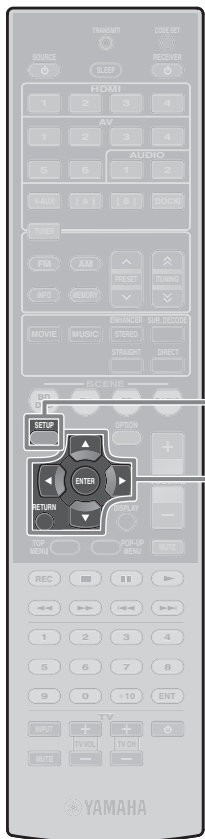
3 ⑩**カーソル △ / ▽** を使って「Input Rename」を選び、⑩**ENTER** を押す。

4 ⑩**カーソル △ / ▽ を使って名前を変更したいインプットを選ぶ。**

5 ⑩**カーソル ◁ / ▷ を使って次の中から変更後の名前を選ぶ。**

Blu-ray	Satellite
DVD	VCR
SetTopBox	Tape
Game	MD
TV	PC
DVR	iPod
CD	HD DVD
CD-R	「空欄」

6 ⑩**RETURN** を押して新しい表示名を確認し、⑨**SETUP** を押してセットアップメニューを終了する。

名前の変更を中止したい場合は、同じ要領で元の名前を選び、⑩**RETURN** を押して名前の変更を終了させてください。

設定する

⑨ **SETUP**
⑩ **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
⑩ **ENTER**
⑩ **RETURN**

● 独自のインプット名をつける

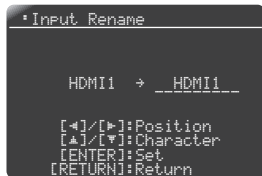
1 リモコンの ⑨**SETUP** を押してセットアップメニューを表示させる。

2 ⑩**カーソル △ / ▽** を使って「Function Setup」を選び、⑩**ENTER** を押す。

3 セットアップメニューから「Input Rename」を選び、⑩**ENTER** を押す。

名前を変更するインプット

現在の名前

4 ⑩**カーソル △ / ▽** を使って表示名を変更したいインプットを選ぶ。

5 ⑩**ENTER** を押す。

6 ⑩**カーソル ◁ / ▷** を使って変更したい文字にカーソルを合わせ、⑩**カーソル △ / ▽** を使って文字を変更する。

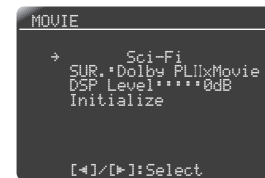
表示名には次の文字を使用できます。
- アルファベット（大文字 / 小文字）
- 数字
- 記号（#、*、－、＋など）
- 空白（スペース）

7 手順 6 を繰り返してお好みのインプット名を入力する。

8 ⑩**ENTER** を押して表示名を確定し、⑨**SETUP** を押してセットアップメニューを終了させる。

名前の変更を中止したい場合は、⑩**RETURN** を押して元の画面に戻してください。

音場プログラム編集

DSP Program

音場プログラムの効果やサラウンドデコーダーを編集します。詳しくは**「音場 / サラウンドデコーダーの効果を調節する」**（☞p.45）をご覧ください。

セットアップメニュー変更の禁止

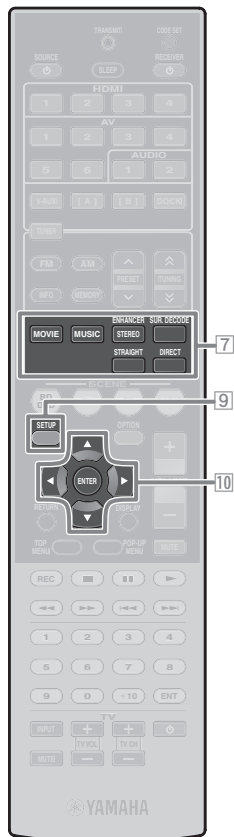
Memory Guard

誤操作によって設定値が変更されないよう、セットアップメニューの設定を保護します。

設定値	内容
Off（初期設定）	設定を保護しません。
On	オフに再設定するまでセットアップメニューの設定を保護します。オンに設定している間、設定変更しようとすると「Memory Guard!」と表示され、操作が禁止されます。💡**1**

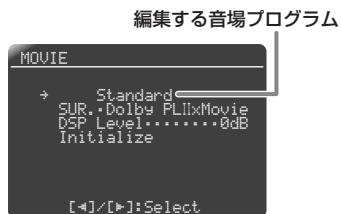
💡**1：** 設定がオンのときテレビ画面にセットアップメニューを表示すると、画面右上に「G」と表示されます。

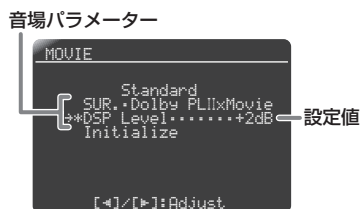
音場 / サラウンドデコーダーの効果を調節する

音場プログラムやサラウンドデコーダーは初期設定のままで十分にお楽しみいただけますが、音場の要素（パラメーター）を調節することにより、効果をアレンジできます。映像 / 音声ソースやリスニングルームの音響にあわせて音場効果を調節したい場合は、次のように操作してください。

7 **音場選択キー**
9 **SETUP**
10 **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
10 **ENTER**

1 7**音場選択キー**を使って、編集したい音場プログラムを選ぶ。

2 9**SETUP** を押してセットアップメニューを表示させる。

3 10**カーソル △ / ▽** を使って「DSP Parameter」を選び、10**ENTER** を押す。

編集する音場プログラム

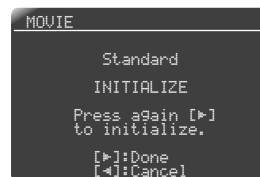
4 10**カーソル △ / ▽** を使って変更したいパラメーターを選び、10**カーソル ◁ / ▷** を使って設定値を調節する。💡**1**

音場パラメーター

編集中の音場プログラムに複数の音場パラメーターがある場合は、手順 4 を繰り返して他の音場パラメーターも調節できます。

5 編集が終わったら、9**SETUP** を押してセットアップメニューを終了する。

● **音場パラメーターを初期状態に戻すには**

編集した音場プログラムは、簡単な操作で初期状態に戻すことができます。

音場パラメーターの編集中に 10**カーソル** ▽ を繰り返し押して「INITIALIZE」を選び、10**カーソル** ▷ を押します。次の確認メッセージが表示されたら、もう一度 10**カーソル** ▷ を押してパラメーターの初期化を実行してください。

初期化を中止したい場合は、この画面が表示されているときに 10**カーソル** ◁ を押して元の表示に戻してください。

💡 **1：** 初期状態から設定値を変更した音場パラメーターは、パラメーター左側に「*」が表示されます。

シネマDSPで調節可能なパラメーター

パラメーター	説明	設定値	
SUR.	MOVIE カテゴリーの音場プログラムを使用する際に、組み合わせて使用するサラウンドデコーダーを選択します。💡1	Dolby PLIIx Movie (Dolby PLII Movie)	Dolby Pro Logic IIx Movie（Dolby Pro Logic II Movie）デコーダーを使用します。
		Neo:6 Cinema	DTS Neo:6（Cinema）デコーダーを使用します。
DSP Level	音声効果のかかり具合を増減させます。視聴環境に合わせて、効果を確認しながら音場効果のかかり具合を変更できます。	-6dB ～ 0dB ～ +3dB（初期設定 0dB）	効果音が小さく感じられる場合または各音場プログラムの違いが感じ取れないとき → 設定値を大きくしてください。 音がぼんやりと聴こえる場合または音場効果のかかり具合が過剰に感じられるとき → 設定値を小さくしてください。

💡 **1 :** 以下の音場プログラムはサラウンドデコーダーを変更できません。
- Mono Movie
- Sports
- Action Game
- Roleplaying Game

サラウンドデコーダーで調節できるパラメーター

デコーダー	パラメーター	説明	設定値	
Dolby PLIIx Music/ Dolby PLII Music	Panorama	フロント音場の広がり感を調節します。オンにするとフロント L/R チャンネルの音声を左右に大きく回り込ませることで、広がり感を調節できます。	On/Off	初期設定 Off
	Center Width	センターチャンネルの音声を、好みに合わせて左右方向に振り分けるパラメーターです。0 にするとセンタースピーカーのみ、7 にするとフロントスピーカーからのみセンターチャンネルの音声が出力されます。	0 ～ 7	初期設定 3
	Dimension	フロント音場とサラウンド音場のレベル差を調節するパラメーターです。再生するソフトによって生じるフロント側とサラウンド側のレベル差を調節できます。－（マイナス）に設定するほどサラウンド側が、＋（プラス）に設定するほどフロント側が強くなります。	-3 ～ STD ～ +3	初期設定 STD（スタンダード）
Neo:6 Music	C.Image	フロント音場の広がり感を調節するパラメーターです。設定値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く（センターへの定位が強く）なります。	0.0 ～ 1.0	初期設定 0.3

特定の音場プログラムで調節できるパラメーター

音場プログラム	パラメーター	説明	設定値	
2ch Stereo	Direct	アナログ音声を再生している場合は、トーンコントロールなどの状態に応じて、自動で DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスできます。より高音質な音声を楽しみたいときに使用します。	Auto（初期設定）	トーンコントロールの「Bass」と「Treble」の両方が 0dB であれば、DSP 回路とトーンコントロール回路をバイパスして出力します。
			Off	回路をバイパスしません。
7ch Stereo	CT Level	センターチャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 100%
	SL Level	サラウンド L チャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 100%
	SR Level	サラウンド R チャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 100%
	SB Level	サラウンドバックチャンネルの音量を調節します。💡1	0 ～ 100%	初期設定 35%（7.1 チャンネルシステムの場合） 初期設定 50%（6.1 チャンネルシステムの場合）
StraightEnhancer/7ch Enhancer	Effect Level	コンプレストミュージック・エンハンサーの効果を調節します。	High（初期設定）	標準的な効果がかかります。
			Low	高音域が過剰に強調されているときに設定します。

💡 **1 :** 本機に接続されたスピーカーの有無によって、設定できるチャンネルは変化します。

[3] **SOURCE ⏻**
[4] **入力ソース選択キー**
[9] **SETUP**
[10] **カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷**
[10] **ENTER**
[10] **RETURN**
[11] **外部機器操作キー**
[11] **DISPLAY**
[12] **数字キー**
[13] **TV 操作キー**
[17] **OPTION**

本機のリモコンでさまざまな機器を操作する

外部機器操作用のコード（リモコンコード）を登録すれば、本機のリモコンを使ってテレビや DVD プレーヤーなどの外部機器を操作できます。
リモコンコードはインプットごとに登録できます。個別に設定しておけば、選択したインプットに応じて操作可能な機器がスムーズに切り替わります。

> 外部機器を操作した後に、リモコンを使って本機を操作できない場合は、[9]**SETUP** または [17]**OPTION** を押してから再度操作してください。

リモコンコード設定

工場出荷時には、いくつかのインプットに次のリモコンコードが割り当てられています。また、インプットごとに、新たにリモコンコードを登録することもできます。登録するリモコンコードについては、**「リモコンコード一覧」**（☞p.50）をご覧ください。

インプット	初期設定		
	カテゴリー	メーカー名	リモコンコード
HDMI1	DVD プレーヤー	Yamaha	2064
HDMI2	—	—	—
HDMI3	—	—	—
HDMI4	—	—	—
AV1	—	—	—
AV2	—	—	—
AV3	CD プレーヤー	Yamaha	5095
AV4	—	—	—
AV5	—	—	—
AV6	—	—	—
AUDIO1	—	—	—
AUDIO2	—	—	—
V-AUX	—	—	—
[A] 💡**1**	—	—	—
DOCK	DOCK	Yamaha	5089
TUNER	チューナー	Yamaha	5085
⏻（[13]**TV 操作キー**）💡**2**	—	—	—

> DOCK キーおよび TUNER キーは初期設定から変更できません。

外部機器を操作するキー

> 次のキーは、外部機器側に対応するキーがあるときにのみ動作します。

[3]SOURCE ⏻

外部機器の電源オン / オフを切り替えます。

[10]カーソル、[10]ENTER、[10]RETURN

外部機器のメニュー操作などをします。

[11]DISPLAY

外部機器のディスプレイ表示などを切り替えます。

[11]外部機器操作キー

外部機器の録画 / 再生などの操作や、メニュー表示キーとして動作します。

[12]数字キー

外部機器用の数字キーとして動作します。

[13]TV 操作キー 💡2

[13]**INPUT**	テレビの映像入力を切り替えます。
[13]**MUTE**	テレビの音量を一時的に消音します。
[13]**TV VOL +/–**	テレビの音量を操作します。
[13]**TV CH +/–**	テレビのチャンネルを変更します。
[13]⏻	テレビの電源オン / オフを操作します。

💡**1：**[A] は、外部機器のみを操作したいときに使用します。本機のインプットの選択と連動させず外部機器を操作したい場合は、これらのキーにリモコンコードを登録してください。たとえばテレビ用のリモコンコードを登録したキーを選択すれば、本機の操作とは連動させずにリモコンでテレビを操作できます。

💡**2：**テレビ用のリモコンコードを [4]**入力ソース選択キー**に登録した場合、[10]**カーソル**、[12]**数字キー**、[13]**TV 操作キー**などを使って登録したテレビを操作できます。
テレビ用以外のリモコンコードを [4]**入力ソース選択キー**に登録した場合、[13]**TV 操作キー**の、[13]⏻ にテレビ用のリモコンコードを登録すれば [10]**カーソル**、[12]**数字キー**、[13]**TV 操作キー**などを使って登録したテレビを操作できます。

2 TRANSMIT
4 入力ソース選択キー
4 HDMI2
4 AUDIO1
8 SCENE
12 数字キー
13 TV 操作キー
13 ⏻
14 CODE SET

外部機器操作用リモコンコードの登録

ここでは、HDMI2 端子に接続した BD プレーヤー用に、リモコンコード「2011」を登録する操作を例にあげ、設定方法を説明します。

- 次の手順はそれぞれ 1 分以内に操作してください。最後に操作してから 1 分以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 2 からやり直してください。
- 機器の名称や型番から、ご使用の外部機器のリモコンコードを設定することはできません。「**リモコンコード一覧**」(☞p.50) を使って、外部機器のカテゴリーとメーカーから、使用可能なリモコンコードを検索してください。
- 複数のリモコンコードがある場合は、まずリストの先頭にあるコードを設定し、うまく動作しない場合は以降のコードを試してください。
- 外部機器側のリモコン ID が「ID1」に設定されていることをご確認ください。他の ID に変更されている場合、正常にリモコンコードが設定されていても動作しません。
- 赤外線受光部を持たないテレビやゲーム機は、本機のリモコンで操作できません。

1 **「リモコンコード一覧」(☞p.50)を使って、ご使用になる外部機器のカテゴリーとメーカーを元に、使用可能なリモコンコードを探す。**

2 **ボールペンなどの先の細いもので、14 CODE SET を押す。**

2 **TRANSMIT** が 2 回点滅します。

3 **リモコンの 4 HDMI2 を押して、インプットを HDMI2 に切り替える。**

以降の操作をすると、ここで選んだインプットにリモコンコードを登録できます。💡1

登録先のインプットはリモコンの 4 **入力ソース選択キー**で選択します。たとえば本機のリモコンで AUDIO1 端子に接続した CD プレーヤーを操作したい場合は、手順 3 で 4 **AUDIO1** を選んでください。

4 **12 数字キーを押してリモコンコード「2011」を入力する。💡2**

2 **TRANSMIT** が 2 回点滅したら登録完了です。

- 登録に失敗した場合は、2 **TRANSMIT** が 6 回点滅します。リモコンコードの登録をやり直すには、再度手順 2 から操作してください。
- 複数のリモコンコードがある外部機器の場合は、他のリモコンコードが対応していることがあります。もう一度手順 2 から操作して他のリモコンコードを試してください。

5 **シーンの切り替えと連動させて BD プレーヤーを操作するには、8 SCENE を押しながら、4 HDMI2 を約 3 秒押し続ける。**

以降はインプットを HDMI2 に切り替えたり、HDMI2 を登録したシーンを選ぶだけで外部機器が操作可能になります。

他の外部機器を操作する場合も、8 **SCENE** を押しながら手順 3 で選んだインプットのキーを約 3 秒押し続けることで、同様に操作できます。

- 一部メーカーの BD/DVD レコーダーをご使用の場合は、本機側のリモコン ID を「ID2」に変更しないと動作しないことがあります。リモコンコード登録後、外部機器を操作できない場合は、リモコン ID を変更 (☞p.51) して動作確認してください。
- 本機側のリモコン ID を変更しても、登録済みの外部機器操作用のリモコンコードは変更されません。
- 外部機器操作用のリモコンコードをリモコンに登録している場合、乾電池を外したまましばらく (2 分以上) 放置したり、消耗した乾電池をそのまま入れておいたりすると、登録したリモコンコードなどのメモリー内容が消えてしまうことがあります。このような場合、乾電池を新しいものに交換して、リモコンコードを設定し直してください。

💡 **1：** 13 **TV 操作キー**にテレビ用リモコンコードを登録したい場合は、手順 3 で 13 ⏻ (13 **TV 操作キー**) を押してください。
💡 **2：** 13 **TV 操作キー**にテレビ用リモコンコードを登録したい場合は、手順 4 でテレビ用のリモコンコードを入力してください。

2 TRANSMIT
9 SETUP
12 数字キー
14 CODE SET

登録したリモコンコードの初期化

設定されたすべての外部機器操作用のリモコンコードを初期化して工場出荷時の状態に戻します。
次の手順はそれぞれ 1 分以内に操作してください。最後に操作してから 1 分以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 1 からやり直してください。

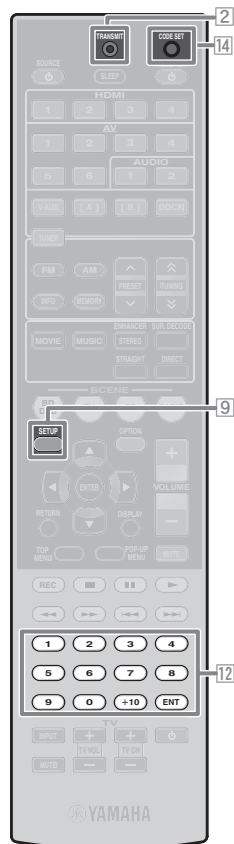
1 ボールペンなどの先の細いもので、14 CODE SET を押す。

2 **TRANSMIT** が 2 回点滅します。

2 リモコンの 9 SETUP を押す。

3 12 数字キーを押して「9981」と入力する。

初期化が完了すると、2 **TRANSMIT** が 2 回点滅します。
設定に失敗した場合は、2 **TRANSMIT** が 6 回点滅します。初期化をやり直すには、再度手順 1 から操作してください。

設定する

リモコンコード一覧

テレビ（プロジェクターを含む）

Aiwa	0078, 0379
Epson	0155, 0206, 0359
Fujitsu	0059, 0069, 0074, 0075, 0282
Funai	0051, 0058, 0059, 0112, 0113, 0115, 0118, 0119, 0179, 0337
Hitachi	0008, 0012, 0026, 0066, 0084, 0092, 0093, 0120, 0172, 0173, 0255, 0270, 0271, 0282, 0320, 0335, 0338, 0342, 0344, 0346, 0347, 0365, 0382, 0448, 0456, 0467
LG	0031, 0053, 0066, 0116, 0117, 0140, 0161, 0164, 0175, 0195, 0269, 0277, 0282, 0300, 0309, 0317, 0320, 0323, 0328, 0342, 0343, 0346, 0349, 0350, 0366, 0368, 0377, 0466, 0471, 0478
Matsushita	0017
Mitsubishi	0008, 0026, 0031, 0053, 0066, 0084, 0093, 0098, 0150, 0178, 0289, 0320, 0339, 0344, 0350, 0376
Orion	0043, 0146, 0283, 0320, 0323, 0328, 0343, 0349, 0350
Panasonic	0016, 0017, 0020, 0022, 0023, 0035, 0052, 0056, 0084, 0085, 0133, 0163, 0193, 0284, 0286, 0290, 0292, 0320, 0325, 0347, 0356
Philips	0267, 0296, 0299, 0301, 0303, 0305, 0313, 0319, 0452, 0459, 0460
Pioneer	0008, 0026, 0094, 0095, 0161, 0320, 0345, 0347, 0349, 0350, 0458
Samsung	0004, 0005, 0006, 0007, 0008, 0012, 0026, 0031, 0036, 0050, 0053, 0076, 0077, 0079, 0114, 0124, 0125, 0126, 0127, 0139, 0161, 0183, 0185, 0190, 0191, 0258, 0264, 0277, 0282, 0320, 0323, 0334, 0337, 0342, 0343, 0349, 0350, 0351, 0373, 0453, 0468
Sanyo	0008, 0019, 0068, 0070, 0071, 0099, 0161, 0168, 0223, 0237, 0277, 0282, 0288, 0295, 0323, 0342, 0344, 0369, 0469
Sharp	0000, 0001, 0002, 0003, 0007, 0008, 0012, 0026, 0060, 0088, 0089, 0091, 0138, 0165, 0170, 0178, 0198, 0229, 0262, 0278, 0279, 0291, 0308, 0312, 0336, 0344, 0354, 0370, 0449, 0450, 0451, 0464, 0474, 0476
Sony	0038, 0044, 0045, 0047, 0055, 0104, 0105, 0107, 0110, 0123, 0184, 0220, 0248, 0249, 0251, 0252, 0254, 0326, 0343, 0344, 0371, 0374, 0457, 0475
Toshiba	0018, 0019, 0040, 0041, 0046, 0073, 0100, 0103, 0108, 0109, 0111, 0121, 0132, 0166, 0208, 0210, 0214, 0217, 0260, 0268, 0282, 0283, 0293, 0304, 0306, 0307, 0329, 0344, 0355, 0454
Victor	0012, 0014, 0015, 0056, 0064, 0065, 0067, 0169, 0174, 0297, 0314, 0344, 0350, 0375
Yamaha	0008, 0026, 0050, 0053, 0080, 0081, 0082, 0083, 0086, 0087

VTR

Aiwa	1024, 1026, 1027, 1069
Funai	1026, 1069
Hitachi	1011, 1026, 1027, 1028, 1046, 1062
LG	1010, 1026, 1031, 1047, 1054, 1056, 1071, 1103, 1221
Mitsubishi	1026, 1028, 1079
NEC	1027, 1064, 1065
Orion	1023, 1024, 1051, 1115, 1217
Panasonic	1000, 1022, 1044, 1055, 1068, 1072, 1085, 1090, 1091, 1120, 1121, 1214
Pioneer	1028, 1036
Samsung	1002, 1034, 1041, 1043, 1057, 1060, 1070, 1084, 1110, 1116, 1122, 1124, 1220, 1222
Sanyo	1032, 1065, 1070
Sharp	1003, 1033, 1077, 1107, 1127, 1219
Sony	1001, 1016, 1048, 1053, 1073, 1074, 1080, 1081, 1082, 1083, 1108, 1118, 1216
Toshiba	1004, 1016, 1027, 1028, 1037, 1049, 1052, 1086, 1087, 1097, 1109, 1112, 1194
Victor	1007, 1018, 1027, 1039, 1064, 1065, 1066, 1067, 1078, 1089, 1092, 1093, 1094, 1095, 1113, 1208, 1209, 1212, 1213, 1215, 1218
Yamaha	1064, 1065

DVD プレーヤー

Denon	2059, 2151, 2193, 2332
Funai	2137
Hitachi	2062, 2090, 2115, 2274, 2282, 2316, 2359, 2380
Kenwood	2041, 2151, 2348
LG	2002, 2033, 2038, 2057, 2129, 2133, 2189, 2191, 2223, 2238, 2270, 2288, 2335, 2373, 2375
Marantz	2328
Onkyo	2159, 2368
Panasonic	2011, 2024, 2034, 2042, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2117, 2118, 2119, 2120, 2121, 2122, 2123, 2151, 2159, 2164, 2166, 2167, 2172, 2173, 2175, 2209, 2214, 2275, 2277, 2278, 2281, 2282, 2283, 2301, 2374, 2470
Pioneer	2016, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109, 2157, 2180, 2190, 2212, 2269, 2272, 2299, 2304, 2305, 2306, 2307, 2308, 2309, 2310, 2311, 2344, 2345, 2347, 2379
Samsung	2000, 2045, 2077, 2112, 2113, 2114, 2115, 2151, 2200, 2216, 2219, 2228, 2264, 2265, 2271, 2279, 2294, 2303, 2329, 2365
Sanyo	2134, 2145, 2217, 2292
Sharp	2006, 2040, 2088, 2091, 2182, 2194, 2220, 2221, 2231, 2236, 2293, 2340
Sony	2004, 2005, 2007, 2009, 2014, 2015, 2023, 2026, 2027, 2052, 2068, 2069, 2070, 2071, 2074, 2075, 2084, 2085, 2087, 2168, 2171, 2208, 2210, 2211, 2258, 2273, 2284, 2285, 2312, 2313, 2314, 2315, 2318, 2319, 2466
Teac	2149, 2333, 2355, 2383
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2048, 2049, 2054, 2055, 2072, 2073, 2076, 2078, 2079, 2086, 2145, 2159, 2218, 2233, 2256, 2259, 2296, 2369
Victor	2020, 2096, 2097, 2099, 2100, 2101, 2102, 2103, 2106, 2107, 2160, 2257, 2260, 2262, 2263, 2321, 2324, 2326, 2327, 2343, 2464, 2465, 2468, 2469, 2471
Yamaha	2056, 2064, 2065, 2080, 2081, 2082, 2083, 2089, 2118, 2151, 2323

Blu-ray プレーヤー / レコーダー

LG	2033
Panasonic	2011, 2209, 2214
Pioneer	2212
Samsung	2045, 2113
Sharp	2194, 2220, 2221
Sony	2075

DVD レコーダー

Hitachi	2062, 2090
LG	2033, 2057, 2223, 2238
Panasonic	2011, 2034, 2058, 2062, 2066, 2067, 2093, 2116, 2116, 2117, 2117, 2119, 2119, 2120, 2120, 2121, 2122, 2123, 2123
Pioneer	2016, 2017, 2017, 2018, 2019, 2035, 2092, 2094, 2095, 2109
Samsung	2000, 2112, 2113, 2216, 2219
Sanyo	2217
Sharp	2088, 2091
Sony	2004, 2005, 2007, 2052, 2068, 2069, 2074, 2084, 2085, 2087, 2208, 2210, 2211
Toshiba	2032, 2036, 2037, 2039, 2049, 2054, 2055, 2076, 2086
Victor	2100, 2101, 2106, 2107
Yamaha	2056

ケーブルテレビチューナー

Panasonic	3112, 3118, 3122
Pioneer	3001, 3006, 3094, 3098, 3114, 3116, 3120
Samsung	3069, 3089, 3114, 3120
Sony	3092, 3125
Toshiba	3122

衛星放送チューナー

Hitachi	4006, 4114, 4199, 4203
Humax	4025, 4030, 4060, 4097
Mitsubishi	4006, 4015, 4202
Panasonic	4006, 4035, 4036, 4121, 4124, 4126, 4198, 4221
Pioneer	4046, 4213
Samsung	4000, 4001, 4003, 4032, 4064, 4069, 4071, 4120, 4123, 4196, 4200
Sony	4067, 4070, 4213
Toshiba	4194, 4202, 4203
Victor	4029, 4065, 4089, 4117

CD プレーヤー

Yamaha	5082, 5095

CD レコーダー

Yamaha	5083

MD プレーヤー

Yamaha	5080, 5081, 5086

テープデッキ

Yamaha	5084, 5087

チューナー

Yamaha	5066, 5071, 5085, 5088, 5090, 5092, 5094

本機の基本設定 / 初期化（アドバンスドセットアップメニュー）

アドバンスドセットアップメニューでは、バイアンプ接続の有効 / 無効といった本機の基本設定や、ユーザー設定の初期化を行うことができます。
アドバンスドセットアップメニューは次の方法で操作できます。

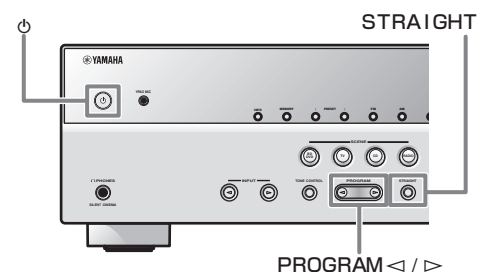
2 TRANSMIT
9 SETUP
12 数字キー
14 CODE SET

アドバンスドセットアップメニューの表示 / 設定

1 本機の電源をスタンバイにする。

本機の電源が ON の場合、⏻ を押して本機をスタンバイの状態にしてください。

2 フロントパネルのSTRAIGHTを押しながら ⏻ を押す。

フロントパネルディスプレイに「ADVANCED SETUP」と表示されたら両方のキーから手を離してください。しばらくすると、先頭のメニュー項目が表示されます。

3 PROGRAM ◁ / ▷ を使って、次の中から設定したい項目を選ぶ。

アドバンスドセットアップメニューでは次の機能を設定できます。

REMOTE ID	本機のリモコン ID を変更します。
BI-AMP	バイアンプ接続のオン / オフを切り替えます。
MON.CHK	HDMI 映像出力の制限を解除します。
INIT	本機の各種設定を初期化します。

4 STRAIGHT を何度か押して設定値を選ぶ。

5 電源をスタンバイにしてから、再度電源をオンにする。

選んだ設定が反映され、本機の電源がオンになります。初期化を選択した場合は、再度電源をオンにすると初期化が実行されます。

受信するリモコン ID を変更する

REMOTE ID -ID1

本機のリモコンは、ID（リモコン ID）が一致するレシーバーでのみ受信できます。ヤマハ製 AV レシーバーを複数使用する場合は、それぞれのリモコンで各レシーバーを操作するために、リモコン ID が重ならないようにリモコン ID を設定します。
各レシーバーを同じリモコン ID に設定すれば、1 つのリモコンで 2 台のレシーバーを操作することも可能です。

ID1（初期設定）	ID1 に設定されたリモコンの操作を受信します。
ID2	ID2 に設定されたリモコンの操作を受信します。

工場出荷時には、リモコン側、レシーバー側ともに ID1 に設定されています。リモコンの混信を防ぎたい場合は、レシーバー / リモコン共にリモコン ID を変更してください。

● リモコン側の ID を変更するには

次の手順はそれぞれ 1 分以内に操作してください。最後に操作してから 1 分以上経過すると、設定が自動で中止されます。再度設定する場合は、手順 1 からやり直してください。

1 ボールペンなどの先の細いもので、リモコンの 14CODE SET を押す。

2 リモコンの 9SETUP を押す。

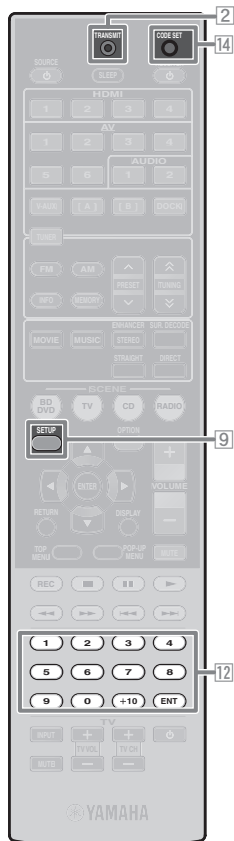
3 希望するリモコン ID に応じてコードを入力する。

リモコン ID1 に切り替える場合：
12**数字キー**を使って「5019」と入力します。

リモコン ID2 に切り替える場合：
12**数字キー**を使って「5020」と入力します。

ID 変更が完了すると、2**TRANSMIT** が 2 回点滅します。

- 設定に失敗した場合は、2**TRANSMIT** が 6 回点滅します。ID 変更をやり直すには、もう一度手順 1 から操作してください。
- リモコンコードを初期化（☞p.49）すると、ID1 に戻ります。

設定する

スピーカーをバイアンプ接続した再生

BI-AMP - OFF

バイアンプ接続のオン / オフを切り替えます。バイアンプ接続についての詳しい説明は**「スピーカーをバイアンプ接続する」**（☞p.11）をご覧ください。

ON	バイアンプ接続を有効にします。
OFF（**初期設定**）	バイアンプ接続を無効にします。

HDMI 映像出力の制限解除

MON.CHK - YES

本機とテレビを HDMI 接続した際、アナログ映像を解像度変換（アップスケーリング）して出力する際の制限を解除します。アップスケーリングの設定をするときやテレビ側が対応する解像度が検出されないときは、この設定で出力制限を解除してください。

YES（**初期設定**）	テレビ側が対応しない解像度の映像は出力しません。
SKIP	テレビ側の対応可否にかかわらず、本機に入力された映像をテレビに出力します。

各種設定の初期化

INIT- CANCEL

本機に記憶されている設定情報を初期化し、工場出荷時に戻します。

初期化する内容は下記から選択できます。

DSP PARAM	音場プログラムのすべての設定を初期化します。
VIDEO	アップスケーリングの設定（解像度 / アスペクト比）やテレビ画面のメニュー（OSD）の表示位置を初期化します。
ALL	すべての設定を工場出荷時の状態に初期化します。
CANCEL（**初期設定**）	初期化しません。

付録

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。
対処しても正常に作動しない、または下記以外で異常が認められた場合は、本機の電源をオフにし、電源プラグを抜いて、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターにお問い合わせください。

全般

症状	原因	対策	参照ページ
電源をオンにできない	3 回続けて保護回路が作動した。	3 回続けて保護回路が動作すると、製品保護のため電源が入らなくなります。ヤマハ修理ご相談センターに修理をご依頼ください。	—
電源をオンにしてもすぐに切れてしまう	電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードを AC コンセントにしっかりと差し込んでください。	—
	（再度電源をオンにしたときに、「CHECK SP WIRES!」と表示されるとき）スピーカーケーブルがショートした状態で電源を入れたため、保護回路により電源が切れた。	すべてのスピーカーケーブルが本機とスピーカーに正しく接続されているか確認してください。	簡易ガイド
電源をオフにできない、または本機が正常に動作しない	内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	AC コンセントから電源プラグを抜き、約 30 秒後にもう一度差し込んでください。	—
	リモコンにセットした電池が切れている。	すべての電池を新品に変えてください。	簡易ガイド
フロントパネルディスプレイに残り時間が表示され、スタンバイになる	操作しない状態が長時間続いたためオートパワーダウン機能が作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—
		セットアップメニューの「AutoPowerDown」（Function Setup→AutoPowerDown）を表示して、設定を「Off」にしてください。	43
使用中に突然電源がスタンバイになる	スピーカーケーブルがショートしたため、保護回路が作動した。	スピーカーケーブルの芯線どうしが接触していないか確認し、電源をオンにしてください。	—
	スリープタイマーが作動した。	本機の電源をオンにして、再生し直してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
音声が出ない	再生機器のケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	17、簡易ガイド
	DVI-HDMI 変換ケーブルを使って再生機器を接続している場合、再生機器の音声は他の音声入力端子から入力する必要がある。	再生機器を接続した HDMI インプットが選択された状態でオプションメニューから「Audio In」を選択し、再生機器の音声を入力する端子を選んでください。	18
	スピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	簡易ガイド
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続し、著作権保護（HDCP）エラーが発生していないことを確認してください。	36
	（スタンバイスルー機能をオンにしている場合） HDMI のオーディオ出力がテレビにのみ出力されるよう設定されている。	セットアップメニューの HDMI オーディオ出力設定（HDMI Setup→Audio Output）を、「TV」以外に設定してください。	42
	CD-ROM など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号を再生してください。	—
映像が出ない	HDMI OUT 端子に接続したテレビが対応していない映像信号を出力している。	アドバンスドセットアップメニューを表示させ、「INIT」の項目から「VIDEO」を選んで映像の設定を初期化してください。	52
		アドバンスドセットアップメニューの「MON.CHK」が「YES」に設定されているかご確認ください。	52
	テレビで適切な映像入力が選ばれていない。	テレビを操作して適切な映像入力を選択してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
特定のスピーカーから音が出ない	スピーカーが故障している。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認し、該当するスピーカーチャンネルが点灯している場合は、他のスピーカーを接続して、音が出るか確認してください。音が出ない場合は、本機が故障している可能性があります。	9
	再生機器やスピーカーがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	17、簡易ガイド
	該当スピーカーから音声信号が出力されない設定になっている。	フロントパネルディスプレイのスピーカーインジケーターを確認してください。該当するチャンネルが消灯している場合は以下の項目をご確認ください。 1) 他のインプットに切り替えて試してみてください。 2) 選択中の音場プログラムでは、該当スピーカーから音声は出力されません。他の音場プログラムを選択してみてください。 3) 本機側で、該当するスピーカーがなし（None）に設定されている可能性があります。セットアップメニューの Speaker Setup を表示して、該当するスピーカー（Speaker Setup→Config）を有効にしてください。	9、38
	セットアップメニューの「Speaker Setup」で、該当するスピーカーの音量が最小になっている。	セットアップメニューの Speaker Setup を表示して、スピーカーの音量（Speaker Setup→Level）を調節してください。	39
	（片側のチャンネルの音声がほとんど出ない場合）スピーカーの音量のバランスが適切に設定されていない。	セットアップメニューの「Level」（Speaker Setup→Level）で、各スピーカーの音量バランスを設定し直してください。	39
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。	他の音場プログラムを選択してみてください。	24
センタースピーカーからのみ音声が出る	モノラルの再生ソースに音場プログラムをかけた場合、使用するサラウンドデコーダーによっては、すべての音声がセンタースピーカーから出力されることがある。	他の音場プログラムを選択してみてください。	24
サラウンドスピーカーから音声が出ない	ストレートデコードモードでモノラルソースを再生している。	**STRAIGHT** を押して、ストレートデコードモードをオフにしてください。	25
	再生するソースや音場プログラムによっては、音が出ないチャンネルがある。（故障ではありません）	他の音場プログラムを選択してみてください。	24
サラウンドバックスピーカーから音が出ない	オプションメニューの Extended Surround の設定が「Off」になっている。または Extended Surround の設定が「Auto」の状態で、入力されている信号にサラウンドバックの信号が含まれていない。	Extended Surround の設定を、「Off」および「Auto」以外に設定してみてください。	36
サブウーファーから音声が出ない	サブウーファーが接続されていない、または無効に設定されている。	サブウーファーが接続されていることを確認し、セットアップメニューの [Subwoofer」（Speaker Setup→Config→Subwoofer）の設定が「On」になっていることを確認してください。	38
	サブウーファーの電源がオフになっている。	サブウーファーの電源をオンにしてください。サブウーファーにオートパワーオフ機能がある場合は、パワーオフになる感度を下げるか無効に設定してください。	—
	再生しているソースに LFE（☞p.59）や低音信号が含まれていない。	Extra Bass をオンにすると、フロントチャンネルの音をサブウーファーから出力することができます。	—
接続したい映像 / 音声端子の組み合わせが見当たらない	外部機器の映像出力を接続したインプットと、他のインプットの音声端子を組み合わせてご使用ください。	映像出力を接続したインプットのオプションメニューを表示させ、「Audio In」を選んで音声入力する端子を選んでください。	18
聴きたいデジタル音声フォーマットで音声が再生されない	再生機器側で、聴きたいデジタル音声フォーマットが出力されない設定になっている。	再生機器の取扱説明書をご覧のうえ、正しく設定してください。	—

症状	原因	対策	参照ページ
デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている	本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機とそれらの機器を離して設置してください。	—
「ジー」、「ブーン」などの雑音が入る	ケーブルがしっかり接続されていない。	ケーブルをしっかり差し込んでください。接続に問題がないときはケーブルに接続不良が発生している可能性があります。	—
	DTS-CD を再生している。	ノイズだけが再生される場合： DTS のビットストリームが本機に正しく入力されていない場合は、ノイズだけが再生されます。 本機と再生機器をデジタル接続して再生してください。症状が解消しない場合は、再生機器側に問題がある可能性があります。再生機器のメーカーにお問い合わせください。	—
		再生 / スキップ操作時にノイズが発生する場合： DTS-CD を再生する際、インプット選択後にオプションメニューを表示して「Decoder Mode」を「DTS」に設定してください。	36
音量を上げられない、または音が歪んでいる	本機の出力端子に接続された機器の電源が入っていない。	AV アンプという製品ジャンルの特性上、出力端子に接続している機器の電源が切れている場合に、再生音が歪んだり、音量が下がったりすることがあります。本機に接続しているすべての機器の電源を入れてください。	—
	「Max Volume」が小さい音量に設定されている。	大きい音量に設定し直してください。	41

HDMI™

症状	原因	対策	参照ページ
フロントパネルディスプレイのHDMI インジケーターが点滅している	HDMI 接続に問題が発生している。	HDMI ケーブルを差し直してみてください。	—
		Video Information（HDMI インプット → オプションメニュー →Signal Info）で本機が対応していない HDMI 映像が入力されていないか確認してください。	36
音声や映像が出ない	制限台数を超える HDMI 機器を接続している。	接続している HDMI 機器の数を減らしてください。	—
	接続している HDMI 機器が著作権保護（HDCP）に対応していない。	著作権保護に対応した機器を接続してください。	—
（HDMI コントロール機能使用時）テレビのリモコンを操作時、テレビの音声が本機より出力されない	テレビの音声出力が本機に接続されていない。またはテレビ側の設定と合っていない。	テレビの音声出力を本機に接続し、「TV Audio In」で接続したインプットを選んでください。 （Setup menu→HDMI Setup→TV Audio In）	42
	（Audio Return Channel 機能使用時） Audio Return Channel 機能が作動していない。	テレビが Audio Return Channel 機能に対応しているか確認してください。「Audio Return Channel」機能を On にしてください。 （Setup menu→HDMI Setup→AudioReturnChan）	42

付録

FM/AM 放送の受信

FM

症状	原因	対策	参照ページ
ステレオ放送になると雑音が多く聞きづらい	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	アンテナの接続を確認してください。	簡易ガイド
		屋外アンテナを接続してください。	—
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		モノラルで受信してください。	27
FM 専用アンテナを使用しているが、音が歪むなど受信感度が悪い	マルチパス（多重反射）などの妨害電波を受けている。	アンテナの高さや方向、設置場所を変えてください。	—
自動で選局できない	放送局から離れた地域で受信しているか、アンテナ入力が弱い。	屋外アンテナを接続してください。	—
		屋外アンテナを感度の良い、多素子のものに変えてください。	—
		手動で選局してください。	27
“No Presets”と表示される	プリセット放送局が登録されていない。	お好みの FM/AM 放送局をプリセット局として登録してから操作してください。	28
“Wrong Station”と表示される	無効な FM/AM 周波数を入力した。	FM/AM 放送局で有効な範囲の周波数を入力してください。	—

AM

症状	原因	対策	参照ページ
自動で選局できない	電波が弱い、あるいはアンテナの接続が不完全。	AM ループアンテナの方向を変えてください。	—
		屋外アンテナを接続してください。屋外アンテナを接続した場合でも、AM ループアンテナは必ず接続してください。	—
		手動で選局してください。	27
オートプリセットができない	AM 放送局はオートプリセットができない。	マニュアルプリセットをしてください。	28
「ジー」、「ザー」、「ガリガリ」などの雑音が入る	ループアンテナが接続されていない。	AM ループアンテナを接続してください。接続しても改善されない場合は屋外アンテナを接続してください。	簡易ガイド
	空電や雷による雑音、または蛍光灯、モーター、サーモスタット付きの電気器具の雑音を拾っている。	AM 屋外アンテナを張り、アースを完全に取ると減少しますが、完全に除去するのは困難です。	—
「ブンブン」、「ヒューヒュー」などの雑音が入る	本機の近くでテレビを使用している。	本機とテレビを離して設置してください。	—

iPod/iPhone

表示	内容	対策	参照ページ
Loading...	iPod/iPhone との接続を確認中です。		—
	iPod/iPhone から情報を取得中です。		—
Connect error	iPod/iPhone との通信に問題が発生しています。	本機の電源をオフにし、ヤマハ製 iPod ユニバーサルドックを接続し直してください。	30
		iPod/iPhone をヤマハ製 iPod ユニバーサルドックにセットし直してください。	30
Unknown iPod	本機に対応していない種類の iPod/iPhone が接続されています。	本機に対応した iPod を接続してください。	—
iPod connected	iPod/iPhone がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックに正しく接続されました。		—
Disconnected	iPod/iPhone がヤマハ製 iPod ユニバーサルドックから取りはずされました。		—
Unable to play	何らかの原因で iPod/iPhone を再生できません。	iPod/iPhone に保存されている曲が再生可能であるか確認してください。	—

Bluetooth

表示	内容	対策	参照ページ
Searching...	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器をペアリングしています。		—
	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続を確立しています。		—
Completed	ペアリングが完了しました。		—
Canceled	ペアリングが中止されました。		—
BT connected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が確立しました。		—
Disconnected	ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の接続が切断されました。		—
Not found	Bluetooth 機器が見つかりませんでした。	（ペアリング時） – ペアリングは、本機と Bluetooth 機器で同時にする必要があります。Bluetooth 機器側もペアリングモードになっているか確認してください。 （接続時） – Bluetooth 機器の電源がオンになっているか確認してください。 – ヤマハ製 Bluetooth ワイヤレスオーディオレシーバーと Bluetooth 機器の距離が 10 メートル以上離れていないか確認してください。	—
		– Bluetooth機器と本機がペアリングされていない可能性があります。再度ペアリングしてください。	33

リモコン

症状	原因	対策	参照ページ
本機をリモコンで操作できない	リモコン操作範囲からはずれている。	本体のリモコン受光窓から 6m 以内、リモコン受光部の正面から左右 30° 以内の範囲で操作してください。	—
	受光窓に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）があたっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
	乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	簡易ガイド
	リモコン側と本体側のリモコン ID が一致していない。	コードまたはリモコン ID の設定を変えてください。	47、51
外部機器をリモコンで操作できない	リモコンコードが正しく設定されていない。	「リモコンコード一覧」をご覧になり、正しく設定してください。	48、50
		「リモコンコード一覧」をご覧になり、同じメーカーの別のコードを設定してください。	48、50
		カーソル △ / ▽ / ◁ / ▷ などのリモコンキーが動作しない場合は、下記の操作をしてみてください。 DVD のディスクメニューなどで操作できない場合： **入力ソース選択キー**を使ってもう一度インプットを選択してから操作してください。 オプションメニュー / セットアップメニューで操作できない場合： 表示しているメニューに応じ、**OPTION** または **SETUP** をもう一度押してから操作してください。	—
	リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合がある。		—

付録

音声に関する用語

サンプリング周波数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、1 秒間にサンプリング（信号の大きさを数値に置き換えること）する回数をサンプリング周波数といいます。
再生できる周波数帯は「サンプリング周波数」で決まり、サンプリング周波数が高いほど再生可能な音域が広がることになります。

バイアンプ

スピーカーのウーファーとツィーターを別々のアンプで駆動する方式です。中低域部と高域部を独立して接続することにより、逆起電力による音の純度低下を抑え、よりクリアな音声を楽しめます。

リップシンク（Lip sync）

HDMI がサポートしている、音声と映像の出力タイミングのずれを自動で補正する技術です。映像信号の大容量化にともなう信号処理の複雑化により、音声出力に対して映像出力が遅れてしまうことがあります。この映像出力の遅延を自動で検知し、遅延時間に合わせて音声を遅らせて出力することにより、音声と映像の出力タイミングを同期させています。

量子化ビット数

アナログ音声信号をデジタル信号化する際に、音の大きさを数値化するときのきめ細かさを量子化ビット数といいます。音量の差を表すダイナミックレンジは「量子化ビット数」で決まり、量子化ビット数が大きいほど音の大きさの変化をきめ細かく再現できます。

AAC（アドバンスト・オーディオ・コーディング）

MPEG-2 オーディオ規格の一つで、BS/ 地上波デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で 7 チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録、伝送できます。
本機は AAC デコーダーを搭載しているため、BS/ 地上波デジタルチューナーで受信した番組の 5.1 チャンネル音声をデコード（復号）して再生できます。

Dolby Digital

Dolby Digital は、完全に独立したマルチチャンネル音声を再生できるデジタルサラウンドシステムです。全帯域の音声成分を持つフロント 3 チャンネル（フロント L/R、センター）と、サラウンド 2 チャンネル（サラウンド L/R）、低音域専用の LFE チャンネルの合計 5.1 チャンネルで構成されます。サラウンド 2 チャンネルがステレオで収録されているため、Dolby Surround と比較して、音の移動感や周囲の環境音がより明確になります。全帯域の 5 チャンネルの幅広いダイナミックレンジと正確な音の定位によって、これまでにない迫力と現実感を再現できます。
本機では、モノラル音声から 5.1 チャンネルスピーカーシステムまでお好みの視聴環境を選ぶことができます。

Dolby Pro Logic II

Dolby Pro Logic II はドルビープロロジックを改良した方式で、Dolby Surround 方式のソフトに多く採用されています。2 チャンネルで記録された音声信号を処理し、優れた分離感を保ったまま 5.1 チャンネル音声に変換します。映画用の Movie モードと、音楽などのステレオソース用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。
従来の 2 チャンネル音声（モノラル音声を除く）だけで記録された古い映画も、5.1 チャンネルの迫力ある音声で楽しめます。

Dolby Pro Logic IIx

ドルビープロロジックの技術です。2 チャンネルで記録された音声はもちろん、マルチチャンネルで記録された音声信号も処理し、自然な 7.1 チャンネル音声をフルレンジで再生します。映画用の Movie モード（2 チャンネル音声入力時のみ）、音楽用の Music モード、ゲーム用の Game モードが用意されています。

Dolby Surround

現在、ほとんどのソフトに普及している方式です。Dolby Surround は、ダイナミックで臨場感豊かな音響効果のために、フロント L/R チャンネル（ステレオ音声）、会話などを再生するセンターチャンネル（モノラル音声）、効果音のサラウンドチャンネル（モノラル音声）のアナログ 4 チャンネル方式を採用しています。サラウンドチャンネルの再生域は狭くなっています。
本機に内蔵のドルビープロロジックデコーダーは、各チャンネルの音量を自動で調整して安定させ、音の移動感や方向性を強調して、より正確なデジタル処理をします。

Dolby TrueHD

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクではオプション採用され、96kHz/24bit 時には最大 8 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 18Mbps で収録可能です。従来の Dolby Digital と互換性があるため、Dolby Digital 対応の機器でも再生できます。ダイアログノーマライゼーションやダイナミックレンジコントロールをサポートしています。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DTS 96/24

DTS 96/24 は DVD ビデオのマルチチャンネルサウンドを高音質で再生します。従来の DTS デコーダーとも互換性があるため、DTS 96/24 に対応していない機器では、通常の DTS サラウンドとして楽しむことができます。「96」はサンプリング周波数の 96kHz（従来の 48kHz から倍増）、「24」は量子化ビット数 24 ビットを示します。広い周波数帯域、ダイナミックレンジで、DVD ビデオの音楽や映画音声を 5.1 チャンネルで楽しむことができます。

DTS デジタルサラウンド

DTS デジタルサラウンドは、アナログの映画音声に取って代わる 5.1 チャンネル方式のデジタルサウンドトラックとして開発された最新技術で、世界中の映画館に急速に普及しています。ご家庭でも音の奥行きや自然な空間表現を楽しめるように開発したものが、本機で採用している DTS システムです。極めて劣化が少なく、クリアな音質の 6 チャンネル（フロント L/R、センター、サラウンド L/R チャンネル、サブウーファー用 LFE0.1 チャンネルを加えた 5.1 チャンネル）で構成されています。

DTS Express

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された音声フォーマットで、ネットワークストリーミング用に最適化された低ビットレート信号です。ブルーレイディスクではセカンダリーオーディオで使用され、本編の再生を楽しみながらインターネットを経由して映画制作者のコメントなどを楽しめます。

DTS-HD High Resolution Audio

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発された高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクでオプション採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 6Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。

DTS-HD Master Audio

ブルーレイディスクなどの次世代光ディスク向けに開発されたロスレス（可逆型）高品質音声フォーマットです。ブルーレイディスクで標準採用され、96kHz/24bit で最大 7.1 チャンネルのディスクリート音声信号を、最大転送レート 24.5Mbps（ブルーレイディスクの場合）で収録可能です。従来の DTS デジタルサラウンドと互換性があるため、DTS デジタルサラウンド対応の機器でも再生できます。スタジオマスター品質の音声が楽しめます。

DSD（ダイレクト・ストリーム・デジタル）

SACD（スーパーオーディオ CD）などで使われている、デジタル信号を記録する方式の一つです。サンプリング周波数 2822.4kHz で記録することにより、CD などで使われている PCM よりも高音質で再生できます。周波数は 100kHz 以上、ダイナミックレンジは 120dB です。本機では、HDMI 端子から入力された DSD 信号の再生が可能です。

DTS Neo:6

2 チャンネル信号のソースを、サラウンドバックを含めた 6 チャンネルで再生できます。再生するソースに合わせて、音楽用の Music モードと、映画用の Cinema モードが用意されています。すべてのチャンネルを全帯域で再生できるだけでなく、ディスクリート方式で記録されたソースのようなチャンネルの分離感を体感できます。

PCM（リニア PCM）

MP3 形式や ATRAC 形式のようにアナログ音声信号を圧縮せずに、そのまま符号化して録音・伝送する方式です。「PCM」は、パルス・コード・モジュレーションの略で、デジタル信号をパルスの符号にして変調記録するという意味です。
音楽 CD や、DVD オーディオの録音方法などで採用されています。PCM 方式では、非常に短く区切った単位時間あたりの信号の大きさを数値に置き換える（サンプリング）手法を用いています。

LFE（低域効果音）0.1 チャンネル

音声成分の帯域が 20 ～ 120Hz の、低音域専用チャンネルです。Dolby Digital、DTS、AAC のいずれでも、全帯域用の 5 チャンネルに加えて、効果的な場面で低音を増強するために使用されます。音声の帯域が低域のみに制限されているため、0.1 と表現されます。

音場プログラムに関する用語

コンプレストミュージック・エンハンサーモード

MP3 や AAC など、携帯音楽プレーヤーなどで使用される圧縮オーディオフォーマットの再生に最適なプログラムです。高音域を拡張し、低音域を強調することによって、圧縮オーディオをダイナミックかつ臨場感たっぷりに再生します。

サイレントシネマ

ヘッドホンでマルチスピーカーによる音場プログラムを擬似的に再現するための、ヤマハ独自のシステムです。音場プログラムごとにヘッドホン用の設定値が用意されているため、自然で立体感あふれる音場プログラムをヘッドホンでもお楽しみいただけます。

シネマ DSP（デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー）

Dolby Surround や DTS のシステムは、本来映画館用に設計されているため、ご家庭では部屋の広さや壁の材質、スピーカーの数などの条件の違いによって、同じソフトであっても視聴感に差が出てしまいます。ヤマハシネマ DSP は、豊富な実測データに基づく独自の音場技術を応用することで、ドルビープロロジックや Dolby Digital、DTS のシステムと組み合わせて音のスケールや奥行き、音量感を補い、ご家庭でも映画館のような視聴体験を実現します。

バーチャルシネマ DSP

サラウンド L/R スピーカーを設置していなくとも、仮想的にサラウンド L/R スピーカーの音場を再現することで、音場プログラムを楽しめます。センタースピーカーを設置できない場合でも、フロント L/R スピーカーだけで、バーチャルシネマ DSP をお楽しみいただけます。

映像に関する用語

コンポーネントビデオ信号

映像信号を、輝度を表す Y 信号と、色を表す Pb/Cb 信号（青色差信号）および Pr/Cr 信号（赤色差信号）の 3 系統に分けて伝送する方式です。それぞれの信号を独立して伝送するため画質の劣化が少なく、色をより忠実に再現できます。また、コンポーネントビデオ信号は、色を表す信号から輝度を表す信号を引いているため、色差信号とも呼ばれます。
この方式をお使いになるためには、コンポーネントビデオ端子、または D 端子のあるテレビを本機に接続してください。

コンポジットビデオ信号

輝度を表す Y 信号と、色を表す C 信号を 1 つの映像信号としてまとめて伝送する方式です。テレビの NTSC 信号などが採用しています。

D 端子

AV 機器間での映像信号の伝送に用いられる端子で、性能に応じてランクが D1 から D5 に分けられています。D 端子では、コンポーネントビデオ信号とコントロール信号（走査線、アスペクト比、インターレース / プログレッシブの情報）を、1 本の専用ケーブルで接続できます。
本機には D4 ビデオ端子が装備されており、D1 から D4 の規格に対応しています。

Deep Color

HDMI がサポートしている映像技術です。RGB または YCbCr 信号の処理を、従来の 8 ビットに対して 10/12/16 ビットで処理することで、より豊かな色調表現が可能です。表現できる色の数が従来の数百万色から数億色に増えたことにより、グラデーションの表現力や暗部のディテール再現力が向上し、カラーバインディング（しま模様状になる色の変化）の少ない画像を楽しめます。

HDMI

世界業界標準規格である HDMI（High-Definition Multimedia Interface Specification）規格に準じた、次世代テレビ向けのデジタルインターフェースです。著作権保護技術（HDCP：High-bandwidth Digital Content Protection System）に対応しているため、デジタルビデオ / オーディオ信号をデジタルのまま劣化させることなく、1 本のケーブルで伝送できます。

x.v.Color

HDMI 1.3 がサポートしている映像技術です。色空間規格の一つで、sRGB 規格より広い色空間を持っているため、今までできなかった色の表現が可能です。sRGB 規格の色域との互換性を確保しながら色空間を拡張し、より鮮明で自然な映像になっています。特に静止画や CG で高い効果が得られます。

HDMI について

● 音声信号について

音声フォーマット	詳細	ディスク（例）
2 チャンネルリニア PCM	2ch、32-192kHz、16/20/24bit	CD、DVD-Video、DVD-Audio
マルチチャンネルリニア PCM	8ch、32-192 kHz、16/20/24bit	DVD-Audio、ブルーレイディスク、HD DVD
DSD	2/5.1ch、2.8224MHz、1bit	SACD
ビットストリーム	Dolby Digital、DTS、AAC	DVD-Video
ビットストリーム（HD オーディオ）	Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS Express	ブルーレイディスク、HD DVD

- 再生機器が音声解説のビットストリーム信号をデコードできる場合、デジタル音声入力端子（OPTICAL または COAXIAL 端子）を使って音声入力すれば、音声解説を楽しめます。
- 再生機器で音声解説をデコードし、本機へ接続する方法について詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

- お使いのDVDプレーヤーによっては、コピープロテクトがかかったDVDオーディオを再生する場合、映像信号および音声信号が出力されないことがあります。
- 本機はHDCP非対応のHDMIまたはDVI端子を装備したテレビやプロジェクターには対応していません。HDCP 対応の有無については、お使いの HDMI 機器または DVI 機器の取扱説明書をご覧ください。
- ビットストリーム音声信号をデコードするには、再生機器がビットストリーム信号をそのまま出力するように、再生機器で設定を変更してください。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。
- ブルーレイディスクなどの音声解説（例：インターネットからダウンロードした音声コンテンツなど）には対応していません。

● 映像信号について

以下の解像度に対応しています。

– 480i ／ 60Hz
– 480p ／ 60Hz
– 720p ／ 60Hz、50Hz
– 1080i ／ 60Hz、50Hz
– 1080p ／ 60Hz、50Hz、24Hz

商標について

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」、「Surround EX」およびダブル D 記号 DD、ドルビーラボラトリーズの商標です。

米国特許 5,451,942、5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,226,616、6,487,535 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS は DTS 社の登録商標です。また、DTS ロゴ、記号、および DTS-HD、DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。
著作権 1996-2007 年 DTS 社。不許複製。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239	5848391	5 297 236
5,285,498	5,299,240	5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170	5 400 433	07/640,550
5,781,888	5,264,846	5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189	5 752 225	98/03037
5,703,999	5,581,654	5,394,473	97/02875	08/557,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574	5,274,740	98/03036
5,299,238	08/506,729				

iPod™/iPhone™

iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標または登録商標です。
iPhone は、Apple Inc. の商標または登録商標です。

Bluetooth®

Bluetoothは、Bluetooth SIGの登録商標でありヤマハはライセンスに基づき使用しています。

HDMI、HDMI ロゴ、および High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LLC の商標または登録商標です。

x.v.Color™

「x.v.Color」は、ソニー株式会社の商標です。

「サイレントシネマ ™　SILENT CINEMA™」はヤマハ株式会社の登録商標です。

主な仕様

● 入力端子

• アナログ音声
ステレオ × 5（AV5、AV6、AUDIO1、AUDIO2、V-AUX）

• デジタル音声
光 × 2（AV1、AV4）
同軸 × 2（AV2、AV3）

• 映像
コンポジット × 5（AV3、AV4、AV5、AV6、V-AUX）
D4 ビデオ× 2 （AV1、AV2）
コンポーネントビデオ× 2 （AV1、AV2）

• その他
HDMI × 4
DOCK × 1（ステレオ音声、コンポジット映像）

● 出力端子

• アナログ音声
スピーカー出力 × 7（フロント L/R、センター、サラウンド L/R、サラウンドバック L/R*1）

*1 割り当て変更可能 [SURROUND BACK、BI-AMP（フロント L/R）]

サブウーファー出力 × 1
AV OUT × 1
AUDIO OUT × 1

• 映像
MONITOR OUT
- コンポジット × 1
- D4 ビデオ× 1
- コンポーネントビデオ × 1
AV OUT
- コンポジット × 1

• その他
HDMI × 1

● HDMI

• HDMI 規格 : Deep Color、"x.v.Color"、Auto Lips Sync、ARC（Audio Return Channel）、3D

• 映像フォーマット
- VGA
- 480i@60Hz
- 576i@50Hz
- 480p@60Hz
- 576p@50Hz
- 1080i@50/60Hz
- 720p@50/60Hz
- 1080p@24/50/60Hz

• アナログアップコンバージョン
- 480i@60Hz（NTSC）
- 576i@50Hz（PAL）
- 480p@60Hz
- 576p@50Hz
- 720p@50/60Hz
- 1080i@50/60Hz

• アップスケーリング
- 480i → 480p/720p/1080i/1080p
- 480p → 720p/1080i/1080p
- 576i → 576p/720p/1080i/1080p
- 576p → 720p/1080i/1080p

• 音声フォーマット
- Dolby Digital
- DTS
- DSD 6ch
- Dolby Digital Plus
- Dolby TrueHD
- DTS-HD
- PCM 2 〜 8 チャンネル（Max 192kHz/24bit）
- AAC

• 著作権保護：HDCP 準拠

● 対応デコードフォーマット

• デコードフォーマット
- Dolby True HD、Dolby Digital Plus
- Dolby Digital、Dolby Digital EX
- DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution、DTS Express
- DTS、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-ES Discrete 6.1、DTS 96/24
- AAC

• ポストデコードフォーマット
- Dolby Pro Logic
- Dolby Pro Logic II Music、Dolby Pro Logic II Movie、Dolby Pro Logic II Game
- Dolby Pro Logic IIx Music、Dolby Pro Logic IIx Movie、Dolby Pro Logic IIx Game
- DTS Neo:6 Music、DTS Neo:6 Cinema

● オーディオ部

• 定格出力（1kHz、0.9%THD、6Ω）
フロント L/R 90W/ch
センター 90W
サラウンド L/R 90W/ch
サラウンドバック L/R 90W/ch

• ダイナミックパワー
フロント L/R（6/4/2Ω）........ 100/110/125W

• 実用最大出力（JEITA）
1kHz、10%THD、6Ω 115W

• 入力感度 / 入力インピーダンス
AV5 他 200mV/47kΩ

• 最大許容入力
AV5 他（1kHz、0.5%THD）........ 2.0V 以上

• 出力電圧 / 出力インピーダンス
AV OUT 200mV/1.2kΩ
SUBWOOFER（2 チャンネルステレオ＆ Front SP 設定 Small）........ 1.0V/1.2kΩ

• ヘッドホン出力 / 出力インピーダンス
AV5 他（1kHz、50mV、8Ω）........ 100mV/470Ω

• 周波数特性
AV5 他 → フロント .... 10 〜 100kHz、+0/–3dB

• 全高調波歪率
AV5 他 → フロント（DIRECT）
（1kHz、50W、6Ω）.. 0.06%以下

• S/N 比（IHF ネットワーク）
AV5 他（DIRECT）入力ショート
（250mV→ フロントスピーカー）................. 100dB 以上

• 残留ノイズ（IHF ネットワーク）
フロントスピーカー ....150μV 以下

• チャンネルセパレーション
AV5 他（入力 5.1kΩ ショート、1kHz/10kHz）
....60dB/45dB 以上

• 音量可変範囲........................MUTE、－ 80dB ～ +16.5dB

• トーンコントロール特性
BASS（可変幅）............ ± 10dB/2dB ステップ、50Hz
BASS（ターンオーバー周波数）.............................350Hz
TREBLE（可変幅）....... ± 10dB/2dB ステップ、20Hz
TREBLE（ターンオーバー周波数）....................... 3.5kHz

• フィルター特性（fc = 40/60/80/90/100/110/120/160/200Hz）
H.P.F（フロント、センター、サラウンド、
サラウンドバック）.. 12dB/oct.
L.P.F（サブウーファー）..................................24dB/oct.

● ビデオ部

• ビデオ信号方式..NTSC

• ビデオコンバージョン ....NTSC/PAL

• 信号レベル
コンポジットビデオ 1Vp-p/75Ω
コンポーネントビデオ /D4 ビデオ
.... 1Vp-p/75Ω（Y）、0.7Vp-p/75Ω（PB/PR）

• ビデオ最大許容入力（ビデオコンバージョンオフ）
.... 1.5Vp-p

• S/N 比..50dB 以上

• モニターアウト周波数帯域（ビデオコンバージョンオフ）
コンポーネントビデオ /D4 ビデオ
....5Hz ～ 60MHz、－ 3dB

● FM チューナー部

• 受信周波数範囲.......................................76.0 ～ 90.0MHz

• 50dB SN 感度（IHF）
モノ..3.0μV（20.8dBf）

• S/N 比（IHF）
モノ / ステレオ... 74dB/69dB

• 歪率（1kHz）
モノ / ステレオ...0.3/0.3%

• アンテナ入力 .... 75Ω、アンバランス

● AM チューナー部

• 受信周波数範囲..531 ～ 1611kHz

● 総合

• 電源電圧..AC 100V 50/60Hz

• 消費電力.. 175W

• 待機電力
HDMI コントロールオフ / スタンバイスルーオフ
.... 0.2W 以下
HDMI コントロールオン / スタンバイスルーオン
HDMI 無信号時 .... 1.2W 以下

• 寸法（幅×高さ×奥行き）............435 × 151 × 364mm

• 重量 8.5kg

※仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

あ行

か行

さ行

た行

は行

ま行

ら行

A

B

C

D

E

F

H

I

L

M

O

P

R

S

T

V

Y

数字

付録

お問い合わせ窓口

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ヤマハお客様コミュニケーションセンター
オーディオ・ビジュアル機器ご相談窓口

ナビダイヤル（全国共通） 0570-011-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-3409

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1

受付：月〜金曜日 10:00〜18:00　土曜日 10:00〜17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

■ ヤマハオーディオ＆ビジュアルサポートページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。

http://www.yamaha.co.jp/product/av/support/

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ修理ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通） 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHS、IP電話からは下記番号におかけください。
TEL （053）460-4830
FAX （053）463-1127

受付：月〜金曜日 9:00〜18:00　土曜日 9:00〜17:00
（日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

修理品お持ち込み窓口
受付：月〜金曜日 9:00〜17:45
（土曜、日曜、祝日およびセンター指定の休日を除く）

北海道　〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏　〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

名古屋　〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪　〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州　〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。
部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

こんな症状はありませんか？
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。

事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社

Printed in Malaysia　WU35320